行フヿトセリ、今我國ニ於テハ、國家ノ大權ハ、皆皇帝ノ有セラル、所ナレハ、特赦ト同ク、大赦モ、亦勅裁ニアラサレハ、得ヘカラサルヘキナリ、又法律ニ明文ナキモノハ、總テ政府ノ特權ニ屬スルカ故ニ、大赦ハ、撿察官監獄長司法卿ノ申立ナシト雖モ、勅裁ヲ以テ之ヲ行ハル、ヿアルヘキナリ、然レ𪜈司法官ノ申立ナキニ、政府ノ特權ヲ以テ、之ヲ行フ𪜈ハ、或ハ赦ヲシテ、偏枯ノ物タラシムルノ懼、ナキニアラサルナリ、是レ余カ始ニ於テ、今日ノ赦ハ、昔日ノ赦ト、天地懸隔スルモノタルヿヲ、論セシ所以ナリ、明世ノ法律ニ定ムル所ノ赦ハ、決シテ偏枯ノ物ニアラサレ𪜈、之ヲ行フノ方、其宜ヲ得サル𪜈ハ、終ニ赦ヲシテ、偏枯ノ物タラシムルニ至ルヘシ、

〔第五七六號〕是レヨリ、以上ノ諸原由ヲ以テ、刑ノ消滅セル

𪜈ハ、他ノ特別法ノ禁止モ、亦從テ解クヘキヤ否ヤヲ論セン、余思フニ、刑法ノ規則ニ依リ、刑ハ消滅スルモ、特別法ノ禁止ハ、解クヘキニアラス、刑法ノ處分ハ、廣ク公安ヲ維持センカ爲メニスルモノニシテ、特別法ノ禁止ハ、唯其一人一事ニ就キ、人ノ身分能力、竝ニ其事ノ要件ヲ定メシモノナリ、故ニ互ニ相關セサルヲ、原則トス、例ヘハ、代言人規則ニ、盜罪詐僞罪ニ就キ、刑ヲ受ケタル者ハ、代言人タルヿヲ得ストアリ、竊盜ノ輕罪ト金刑ニ當ル輕罪ト、俱發シ、金刑ニ當ル罪ノ情狀、重キヲ以テ、金刑ニ處セラレ、盜罪ノ刑ハ、數罪俱發ニ由リ消滅シ、金刑ハ、其執行終リシニ由リ、消滅スト雖モ、代言人タルノ禁止ハ、解クルヿナカルヘシ、單ニ刑ノ執行終リシニ由リ、刑ノ消滅スル𪜈ト、刑人死去シヽニ由リ、刑ノ消滅スル𪜈トハ、

論スルノ要ナカルヘシ、

〔第五七七號〕再審ヲ以テ、前判ヲ廢シ、又ハ、特別法ノ禁止モ、亦解クヘキナリ、再審ノ訴ハ、無罪ノ言渡ヲ得ンカ爲メニ、爲スモノニシテ、而メ其訴ニ由リ、無罪ノ言渡ヲ受クルトキハ、假令ヒ已ニ刑ヲ受ケ、其執行終ルトキト雖モ、其刑ヲ受ケシハ、刑人ノ罪ニアラスシテ、裁判ノ誤ナリ、其本タル刑ノ言渡ヲ取消シ、無罪ノ人ト決スルニ於テハ、代言人ト爲リ、府縣會議員ト爲リ、又兵籍ニ入ルヘキナリ、裁判ノ誤ノ爲メニ、刑人ハ、其權利ヲ害セラルヘキニアラス、又大赦ヲ得シキモ、同樣ナルヘシ、大赦ハ事ニ係リテ、行フモノニシテ、而メ社會カ其事ノ罪タリシコトヲ、忘ルヽ基クモノナリ、已ニ社會カ、之ヲ忘レシニ於テハ、其實罪ア

リト雖モ、罪ナキニ同シ、故ニ大赦ヲ得シ者ハ、兵籍ニ入リ、代言人ト爲リ、又府縣會議員ト爲ルコトヲ得ヘキナリ、刑ノ廢止ト大赦トハ、唯刑ノ消滅ノ原由タルノミニアラス、罪ノ消滅ノ原由タルモノナリ、即チ罪ノ消滅スルニ由リ、刑モ亦從テ消滅スルナリ、總テ罪ノ消滅セシ人ハ、即チ是レ曾テ罪ヲ犯サヽリシ人ト、一般ナリ、已ニ無罪人タルニ於テハ、特別法ノ禁止中ニ入ルヘキニアラサルナリ、

〔第五七八號〕期滿免除又ハ特赦ニ由リ、刑ノ消滅セルトキハ、刑法ノ處分ハ終リテ、其刑ヲモ免カルト雖モ、特別法ノ禁止ハ、解クヘキコトアラス、例ヘハ盜罪ヲ犯シ、闕席ニテ其裁判ヲ受ケ、而メ期滿免除ニ由リ、盜罪ノ刑、消滅シテ、曾テ其執行ヲ受ケシコトナシト雖モ、此刑人ハ、代言人タルコトヲ得サルヘシ、

特赦ニ由リ、其刑ノ消滅シヽトモ、亦同樣ナリ、刑ハ消滅スト雖モ、裁判ヲ以テ、罪人ナリト定メタルニ於テハ、刑ノ執行ヲ受ケシト否トニ拘ハラス、代言人ト爲リ、府縣會議員ト爲ルヿヲ得サルヘシ、

〔第五七九號〕又復權モ、特別法ノ禁止ヲ解クヘキモノニアラス、故ニ一年以下ノ刑ト雖モ、總テ盜罪、詐僞罪ニ就キ、刑ヲ受ケシ者、竝ニ其他ノ罪ニ就キ、懲役、禁獄一年以上ノ刑ヲ受ケシ者ハ、曾テ公權ヲ剝奪セラレシヿナキモ、代言人タルヿヲ得ス、況ンヤ復權ヲ得ルト雖モ、嘗テ大罪ノ爲メニ、刑ヲ受ケシ者ニ於テヲヤ、(十三年五月十三日司甲一號達代言人規則)然レトモ剝奪公權ヲ以テ、直チニ禁止ノ條件トスルモノハ、復權ニ由リ、其禁止ハ、自ラ解クヘキナリ、此塲合ニ於テハ、其

復權ノ効力ノ、他ノ禁止ニ及フカ如クナレトモ、其實ハ復權ノ効力、他ノ禁止ニ及フニハアラス、又其實ハ、如此キ禁止ハ、特別法ニテ設ケシ禁止ニモアラス、即チ是レ刑法ノ剝奪公權ナリ、唯其事ヲ明瞭ナラシメンカ爲メニ、特別法ニ反復之ヲ記載セシノミ、故ニ剝奪公權ノ消滅スルトキハ、其禁止ハ、自ラ解クヘキナリ、例ヘハ十六年第四十六號布告、改正徵兵令、第七條ノ如キ、是レナリ、該條ニ曰ク、重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ、兵役ニ服スルヿヲ許サスト、此禁止ハ、徵兵令ニ是レアリト雖モ、其實ハ、徵兵令ノ禁止ニハアラスシテ、即チ刑法ノ剝奪公權ナリ、故ニ剝奪公權ノ止ムトキハ、此禁止モ亦止ムヘキナリ、

〔第五八〇號〕又十五年二月十四日第十號布告、改正府縣會

自六三條至六五條

規則第十三條ニ於テ、公權ヲ剝奪セラレタル者ニハ、府縣會議員ト爲ルコヲ禁止シタリ、此禁止モ、亦復權ニ由テ解クヘシ、又此場合ニ於テハ、一年以上ノ輕重禁錮ニ處セラレシ者ハ、五年ヲ經ルヲ以テ、當然議員タルノ權利ヲ復スルコヲ得レハ、論者カ所謂ル奇怪ノ結果ヲ生スルカ如キ、不都合ハ、是レナカルヘキナリ、府縣會規則第十三條ニ曰ク、新法ニ依リ、公權ヲ剝奪及ヒ停止セラレタル者、又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ、主刑滿期五年ヲ經サル者ト、然レトモ、細ニ論スルヲキハ、此法文ニモ、穩ナラサルモノナキニアラス、即チ公權ヲ停止セラレタル者ト、イヘルノ語ニ就テ、考フルヲキハ、停止セラレタル者ハ、公權ヲ受ケシ者ハ、長ク撰舉人ト爲リ、議員ト爲ルコヲ得サルモノニ似タリ、然レトモ法意ハ、決シテ如此クナルニハアラ

サルヘシ、輕重禁錮ニ處セラレシ者ハ、當然其刑期間ハ、公權ヲ停止セラルヽナリ、然ルニ此刑人タルヲモ、五年ノ後ニハ、撰擧ノ權ヲ復スルコヲ得レハ、況ンヤ之レヨリモ輕キ刑人ノ、此權ヲ復スルコヲ得サルノ理アランヤ、禁錮ニ處セラレシテ、公權ヲ停止セラルヽ者ハ、主刑ヲ免セラレテ、止タ監視ニ付セラレタル者ノミナリ、已ニ主刑ヲ受ケシ者ヲヲ、五年ノ後ニハ、權利ヲ復スレハ、主刑ヲ免セラレシ者ノ、五年ノ後ニ、之ヲ復スルハ、蓋シ論ヲ待タサルコナリ、或曰ク、法文ニ停止セラレタル者トアリ、故ニ法文ノミニテ、其意ハ、已ニ明瞭ナリ、停止セラレタルノ約言ナリ、今モ尚ホ停止セラレテアル者ハ、議員タルコヲ得サレヒ、（タルノ辭ニ、テアルトヽナルトノ別アリ、混スヘカラス、トナルノ約言ノ

タルハ、現在ヨリ未來ニ及フ辭ニシテ、テアルノ約言ノタルハ、過去ヨリ現在ニ及フ辭ナリ、茲ニ議員タルヿヲ得サレ𪜈トイヘルハ、議員トナルヿヲ得サレ𪜈ノ約略ナリ、)嘗テ停止セラレシヿアルモ、今ハ停止セラレテアラサルニ於テハ、即チ議員タルヿヲ得ヘキナリ、故ニ五年ヲ待タスシテ、其停止ノ解ケシ時ハ、即チ議員タルノ權利ヲ復スヘシト、是レ一理アルノ論ナリ、文字ノ正面ヨリ論スル𪜈ハ、如此クナルヘケレ𪜈、近世ノ用語ハ、正格ニ合ハサルモノ多ケレハ、立法官ノ意思、果シテ論者ノ言ノ如クナルヤ否ヤ、未タ知ルヘカラサルナリ、

第三章　加減例

〔第五八一號〕　罪ノ大小輕重ニ從テ、刑ニモ亦大小輕重ノ別

ナカルヘカラス、法律ニ於テハ、罪ヲ三等ニ別チ、其等級ニ從テ刑ヲ異ニシ、尙ホ其一類中ノ罪ニ就テモ、數種ノ刑ヲ設ケ、且ツ長短ノ期、多寡ノ數ヲ揭ケ、以テ大小輕重、皆其宜ヲ得ンヿヲ求メシナリ、然レ𪜈犯人、犯處、犯時ノ情狀ニ從ヒ、其權衡、尙ホ未タ十分ナラサルモノアリ、故ニ更ニ再犯加重、宥恕減輕、自首減輕、酌量減輕、未遂犯罪、從犯等ノ規則ヲ設ケ、其犯情ニ從テ、罪刑ノ權衡、一モ其宜ヲ得サルモノナカランヿヲ期セリ、已ニ此加減ノ法アルニ於テハ、其例亦ナカルヘカラサルナリ、加減例ハ、國事犯罪ノ刑ト、常事犯罪ノ刑トヲ別チテ、罪ノ等級ニ從ヒ、其刑ノ等級ヲ立テ、(六七條六八條)又刑ノ長期短期、多數寡數ニ從ヒ、其等級ヲ定メ、(六九條以下)而メ輕重各其權衡ヲ得シムル所以ノモノナリ、故ニ加減スヘキ刑ノ

六六條

等級ハ、加減例ニ據ラサルヘカラス、又其次第ハ、加減順序ニ從ハサルヘカラス、蓋シ加減例ハ、其體ニシテ、而メ加減順序ハ、其用ナリ、等級アリ、次第アリ、體用具足シテ、而メ加減ノ方、始テ完全ナルコトヲ得ヘキナリ、

〔第五八二號〕　故ニ法律ニ於テ、或ハ刑ヲ加重シ、或ハ之ヲ減輕スヘキ時ハ、第六十七條以下ニ定メタル例ニ照シテ、加減スヘシ、法文ニ所謂ル、法律ニ於テ、刑ヲ加重輕減スヘキ時トハ、法律上ノ加重減輕ヲイフノミナラス、又事實上ノ減輕ヲモイフナリ、故ニ各本條ニ於テ、本刑ニ幾等ヲ加ヘ、若クハ幾等ヲ減スト、定メタル場合ト、本刑ニ幾等ヲ減スルコトヲ得ルト、定メタル場合トヲ別タス、總テ裁判ヲ以テ刑ヲ加減スルヘキハ、此加減例ニ據ラサルヘカラス、但シ特赦ハ、行政上ノ處分ナレハ、特赦ヲ以テ減輕スルヒハ、必シモ此例ニ拘泥セスシテ可ナルヘシ、（六六條）

〔第五八三號〕　常事犯重罪ノ刑ハ、左ノ等級ニ照シテ加減ス、

一　死刑
二　無期徒刑
三　有期徒刑
四　重懲役
五　輕懲役

又國事犯重罪ノ刑ハ、左ノ等級ニ照シテ加減ス、

一　死刑
二　無期流刑
三　有期流刑

六七條六八條

四　重禁獄
五　輕禁獄

〔第五八四號〕　凡ソ重罪ノ刑ハ、此例ニ照シテ加減スト雖モ、加ヘテ死刑ニ入ルヿヲ許サス、死者不可復生、絕者不可復屬、死刑ハ、本罪、素ト死ニ當ルモノナレハ、用フヘシト雖モ、僅ニ犯情ノ重キノミノヿナレハ、容易ニ用フヘカラサルナリ、唐律以下、我舊律ニ於テモ、其大要皆同シ、然レ𪜈當テ論セシカ如ク、假令ヒ其罪ハ、大ナラスト雖モ、已ニ惡ニ染ミ、常ニ罪ヲ犯シテ、改メシムヘカラサルモノハ、之ヲ殺シテ可ナリ、唯之ヲ殺スヘキノミ、其罪大ナリト雖モ、偶〻然ルモノハ、殺スヘカラス、然レ𪜈類ヲ同クスル罪ニシテ、之ヲ犯シテ止マス、再犯ヨリ數十犯ニ至ル者ノ如キハ、之ヲ殺サヽレハ、終ニ社會ノ公害ヲ除ク能ハサルナリ、此公害ヲ除クノ方ハ、勸善ト懲惡トニアリ、勸善ノ方ハ、假出獄、免幽閉、免監視、特赦、大赦、復權アリ、備レリトイフヘキナリ、余竊ニ思フ、懲惡ノ方ハ、勸善ノ方ノ備ハレルニ似ス、唯初犯ヲ罰シテ、再犯ニ加等スルノミ、三犯以上ハ、皆再犯ニ同シ、懲惡ノ方、恐クハ大簡ナルヘシ、尙ホ再犯加重ノ處ニ於テ論セン、（六七條六八條）

〔第五八五號〕　重罪ノ刑中ニ於テハ、總則ニ定ムル所ノ刑名ト、刑期トニ從テ、次ヲ逐ヒ加減スト雖モ、重罪ノ刑ヲ下シテ、輕罪ノ刑ニ至ルヿハ、總則ニ定ムル所ノ刑期ニハ從ハス、法律ハ別ニ第六十九條ニ於テ、其例ヲ定メヌ、是レ輕罪ノ禁錮ノ期限ハ、十一日以上五年以下ニシテ、其上下限、相去ルヿ甚タ遠ケレハナリ、直ヲ此禁錮ニ下スヿハ、寬ニ流レ輕キニ

六九條

失スヘシ、故ニ常事犯ノ重罪ニシテ、輕懲役ニ該ルモノ、減輕スヘキ時ハ、二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ、一等ト爲シ、國事犯ノ重罪ニシテ、輕禁獄ニ該ルモノ、減輕スヘキ時ハ、二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ、一等ト爲ス、（六九條）

〔第五八六號〕　又輕罪ノ禁錮罰金ヲ、加減スヘキ時ハ、各本條ニ記載スル、刑期金額ノ上限下限、各四分一ヲ加減スルヲ以テ、一等ト爲ス、又拘留科料ヲ加減スルトキモ、亦此例ニ準シ、刑期金額ノ上限下限、各四分一ヲ加減スルヲ以テ、一等ト爲ス、法律ニハ、唯刑期金額ノ四分一ヲ加減スト、アルノミナレトモ、總テ刑ニ長期短期、多數寡數ナキモノナケレハ、其長短ノ期、多寡ノ數、即チ其上限下限、各四分一ヲ、加減セサルヘカラス、

（七〇條七二條）又如此ク上下限共ニ加減スルトキハ、裁判官カ、其範圍内ニ於テ、實地ニ宣告スル所ノ刑ハ、曾テ加減セサル刑ト同一ニシテ、加減ハ、有名無實ナルニ似ルコアリ、是レ已ムヲ得サル所ナリ、若シ加減ノ效ヲシテ、顯著ナラシメントスルトキハ、刑ニ上下限ヲ設クルコトヲ得ス、之ヲ設ケサレハ、舊律ノ時ノ如シ、加減ノ效ハ顯然ナルヘケレトモ、如此クスルトキハ、裁判官ヲシテ、上下限ノ間ニ就テ、犯情ヲ酌量シテ、一人一事ニ適當スル刑ヲ、宣告セシムルコトヲ得ス、是レ不都合ノ大ナルモノナリ、此不都合ヲ避ケントスルトキハ、加減ノ時ニ於テ、其效ノ顯然ナラサルハ、蓋シ已ムコトヲ得サルナリ、

〔第五八七號〕　重罪ノ刑中ニテ加減シ、又輕罪ノ刑ニテモ、止タ其一等ヲ加減スルノミナレハ、別ニ論スルコトナカルヘシ、

常事犯重罪ノ死刑、一等ヲ減スレハ、無期徒刑、二等ヲ減スレハ、有期徒刑、三等ヲ減スレハ、重懲役、四等ヲ減スレハ、輕懲役ナリ、而メ又輕懲役ニ一等ヲ加レハ重懲役、二等ヲ加フレハ、有期徒刑ナリ、其他皆之レニ準シテ加減スヘシ、其方極メテ簡明ナリ、又輕罪ノ刑モ、止タ一等ヲ加減スルノミナレハ、亦容易ニ計算シテ、加減スルヲ得ヘシ、例ヘハ第三百六十六條ノ竊盜罪ヲ犯シ、者アランニ、其本刑ハ、二月以上、四年以下ノ重禁錮ナリ、然ルニ二人以上ニテ犯シ、ヲ以テ、第三百六十九條ニ從ヒ、一等ヲ加フルトキハ、其本刑ノ長期短期、各四分一ヲ加ヘテ、重禁錮二月十五日以上、五年以下トナルヘシ、裁判官ハ二月十五日以上、五年以下ノ範圍內ニ於テ、適當ナリト認ムル所ノ、刑期ヲ定メテ、之ヲ宣告スルノミ、

〔第五八八號〕 又同上ノ幼者ナルヲ以テ、第八十一條ニ從ヒ、一等ヲ減シテ、本刑ノ長期短期、各四分一ヲ減シテ、重禁錮一月十五日以上三年以下トナルヘシ、裁判官ハ、一月十五日以上三年以下ノ範圍內ニ於テ、適當ナリト認ル所ノ刑期ヲ定メテ、之ヲ宣告スルノミ、其計算亦甚タ容易ナリ、然レトモ一年ト稱スルハ、曆ニ從ヒ、一月ト稱スルカ故ニ、一月十五日ハ、三十日ヲ以テスルカ故ニ、一月十五日ヲ得サルモノアリ、然レトモ三年ノ計算ニハ、平等均一ナルヲ算最モ公平ニシテ、又最モ簡易ナリ、例ヘハ第三百十七條ノ過失殺ノ罪ヲ犯シ、者アランニ、其本刑ハ、二十圓以上二百圓以下ナリ、之ニ一等ヲ加ヘントスルトキハ、亦本刑ノ多數寡

數、各四分一ヲ加ヘテ、二十五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ、又一等減セントスルトキハ、四分一ヲ減シテ、十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス、二等三等ヲ加減スルトキモ、常ニ此例ニ準シテ、容易ニ計算スルコトヲ得ヘキナリ、

〔第五八九號〕　然レトモ重罪ノ輕懲役、輕禁獄ヲ二等以上、減輕シ、又輕罪ノ禁錮二等以上ヲ加減セントスルトキハ、如何ナル方法ヲ以テスヘキヤ、法律ニ明文ナシ、而ノ其方法ニ由リテハ、計算上大ニ權衡ヲ異ニスヘキナリ、先ツ輕罪ノ禁錮ニ就キ、加減ノ方法ヲ論セン、例ヘハ本刑二年以上四年以下ノ禁錮ニ該ルモノ、二等ヲ減センニ、直チニ本刑ヨリ四分ノ二ヲ減セハ、一年以上二年以下ト爲リ、又三等減ニ四分ノ三ヲ減セハ、六月以上一年以下ト爲ルヘシ、然レトモ之ニ反シテ、先ツ一等ヲ減シタルモノヲ以テ、二等減ノ本位ト爲シ、更ニ又之ヲ減シテ、二等ト爲サハ、二等減ハ即チ一年一月十五日以上、二年七月十五日以下ト爲ルヘク、又三等ヲ減セハ、十月三日以上一年十一月十八日以下ト爲ルヘシ、其差等如此ク大ナリ、加等スルトキモ、其計算ノ方法ニ由リ、此差等アルヘシ、

〔第五九〇號〕　如此ク差等アルカ故ニ、學士中異議ナキヿ能ハス、或曰ク、加減二等以上ニ及フトキモ、亦固トヨリ、一等毎ニ四分一ヲ加減スヘシ、直チニ四分ノ二、四分ノ三ヲ加減スヘキニアラス、若シ直チニ加減セハ、四等ヲ加ヘテ倍數ト爲リ、又四等ヲ減シテ零點ニ至ルヘシ、其差等豈ニ甚シカラスヤ、又假令ヒ差等甚シキモ、法律ニ其明文アルニ於テハ、之ニ從

ハサルヘカラスト雖モ、法律ニモ、曾テ其明文アルヲ聞カス、故ニ如此キ差等甚シキ、計算ノ方法ハ、之ヲ用フヘキニアラサルナリト、

〔第五九一號〕理論ニ於テハ、此說妥當ナルニ似ル、然レ𪜈實際行フ所ハ、之ニ異ナリテ、二等ヲ加減スルヰハ四分ノ二ヲ加減シ、三等ヲ加減スルヰハ、四分ノ三ヲ加減シ、四等ヲ加減スルヰハ、四分ノ四ヲ加減ス、而メ四等ヲ減スルヰハ、常ニ上限下限ヲ減盡シテ、刑ノ科スヘキモノナキヲ以テ、直ヲニ放免ス、是レ蓋シ第九十九條ニ、從犯未遂犯ノ減等、其他各本條ニ記載スル、特別ノ加重減輕ハ、其加減シタル者ヲ以テ、本刑ト爲スト、アルニ基キシヿナルヘシ、即ヲ此特別ノ加減ノ外ハ、未タ加減セサルモノヲ以テ、本刑ト爲スヘキハ、當然ノヿナルカ故ニ、此本刑ヲ以テ計算ノ本位ト爲シ、而メ加減スルカ故ニ、直ヲニ本位ヨリ四分ノ二、四分ノ三ヲ加減スルナリ、

〔第五九二號〕輕罪違警罪ノ刑ニ就キ、實用スル所ノ、加減ノ方ヲ明ナラシメン爲メ、直ヲニ四分ノ二、四分ノ三ヲ加減シテ、左ニ其例ヲ示ス、是レ學者ノ實用ニ便センカ爲メナリ、

加減例圖略

輕重禁錮本刑	加一等	加二等	加三等	加四等
十一日	十三日	十六日	十九日	廿二日
十五日	十八日	廿二日	廿六日	一月
一月	一月七日	一月十五日	一月廿二日	二月
二月	二月十五日	三月	三月十五日	四月

| | | |

罰金本刑	加一等	加二等	加三等	加四等
二圓	二圓五十錢	三圓	三圓五十錢	四圓
三圓	三圓七十五錢	四圓五十錢	五圓二十五錢	六圓
四圓五圓	六圓	七圓	八圓	
五圓	六圓二十五錢	七圓五十錢	八圓七十八錢	十圓
十圓	十二圓五十錢	十五圓	十七圓五十錢	二十圓
二十圓	二十五圓	三十圓	三十五圓	四十圓
三十圓	三十七圓五十錢	四十五圓	五十二圓五十錢	六十圓
四十圓	五十圓	六十圓	七十圓	八十圓
五十圓	六十二圓五十錢	七十五圓	八十七圓五十錢	百圓
百圓	百二十五圓	百七十五圓	二百圓	
二百圓	二百五十圓	三百五十圓	四百圓	

五百圓	六百二十五圓	七百五十圓	八百七十五圓	千圓
罰金本刑	減一等	減二等	減三等	
五百圓	三百七十五圓	二百五十圓	百二十五圓	
二百圓	百五十圓	百圓	五十圓	
百圓	七十五圓	五十圓	二十五圓	
五十圓	三十七圓五十錢	二十五圓	十二圓五十錢	
四十圓	三十圓	二十圓	十圓	
三十圓	二十二圓五十錢	十五圓	七圓五十錢	
二十圓	十五圓	十圓	五圓	
十圓	七圓五十錢	五圓	二圓五十錢	
五圓	三圓七十五錢	二圓五十錢		
四圓	三圓	二圓		

三圓	二圓二十五錢								
二圓									
拘留本刑加一等	一日以上三日以下	三日以上五日以下	五日以上七日以下	七日以上十日以下	十日以上十二日以下	十二日以上十五日以下	十五日以上二十日以下	二十日以上二十五日以下	二十五日以上三十日以下
加二等	一日以上四日以下	三日以上七日以下	五日以上十日以下	七日以上十二日以下	十日以上十五日以下	十二日以上十八日以下	十五日以上二十三日以下	二十日以上二十八日以下	二十五日以上三十日以下
加三等	一日以上五日以下	三日以上八日以下	五日以上十二日以下	七日以上十五日以下	十日以上十八日以下	十二日以上二十二日以下	十五日以上二十八日以下	二十日以上三十日以下	
加四等	二日以上六日以下	四日以上十日以下	六日以上十二日以下	十日以上十五日以下	十二日以上十八日以下	十五日以上二十二日以下	十八日以上二十八日以下		
拘留本刑減一等	三日以上十日以下	二日以上七日以下	一日以上五日以下	一日以上三日以下	一日以上二日以下	一日			
減二等	二日以上七日以下	一日以上五日以下	一日以上三日以下	一日以上二日以下	一日				
減三等	一日以上五日以下	一日以上三日以下	一日以上二日以下	一日					
科料本刑加一等	五錢以上五十錢以下	六錢三厘以上六十二錢五厘以下	七錢五厘以上七十五錢以下	八錢八厘以上八十七錢五厘以下	十錢以上一圓以下				
加二等	六錢三厘以上六十二錢五厘以下	七錢五厘以上七十五錢以下	八錢八厘以上八十七錢五厘以下	十錢以上一圓以下					
加三等	七錢五厘以上七十五錢以下	八錢八厘以上八十七錢五厘以下	十錢以上一圓以下						
加四等	八錢八厘以上八十七錢五厘以下	十錢以上一圓以下							

科料本刑減一等	十錢以上一圓以下	十二錢五厘以上一圓廿五錢以下	十五錢以上一圓廿五錢以下	十七錢五厘以上一圓七十五錢以下	廿錢以上二圓以下				
減二等	廿錢以上一圓廿五錢以下	廿五錢以上一圓五十錢以下	三十錢以上一圓八十七錢五厘以下	三十五錢以上二圓十八錢八厘以下	四十錢以上二圓四十錢以下				
減三等	五十錢以上一圓五十錢以下	六十二錢五厘以上一圓八十七錢五厘以下	七十五錢以上二圓廿五錢以下	八十七錢五厘以上二圓四十錢以下	一圓以上二圓四十錢以下				
科料本刑減一等	一圓以上一圓九十五錢以下	一圓廿五錢以上二圓四十錢以下	一圓五十錢以上二圓四十錢以下	一圓七十五錢以上二圓四十錢以下	二圓以上二圓四十錢以下				
減二等	一圓九十五錢以下	一圓四十六錢三厘以下	一圓八十七錢五厘以下	二圓十八錢八厘以下	二圓四十錢以下				
減三等	九十七錢五厘以下	一圓十二錢五厘以下	一圓三十七錢五厘以下	一圓六十三錢以下	一圓八十七錢五厘以下				
科料本刑加一等	廿錢以上一圓廿五錢以下	廿五錢以上一圓五十錢以下	三十錢以上一圓八十七錢五厘以下	三十五錢以上二圓十八錢八厘以下	四十錢以上二圓四十錢以下				
加二等	廿五錢以上一圓五十錢以下	三十錢以上一圓八十七錢五厘以下	三十五錢以上二圓十八錢八厘以下	四十錢以上二圓四十錢以下					
加三等	三十錢以上一圓八十七錢五厘以下	三十五錢以上二圓十八錢八厘以下	四十錢以上二圓四十錢以下						
加四等	三十五錢以上二圓十八錢八厘以下	四十錢以上二圓四十錢以下							
拘留本刑減一等	五錢以上五十錢以下	六錢三厘以上六十二錢五厘以下	七錢五厘以上七十五錢以下	八錢八厘以上八十七錢五厘以下	十錢以上一圓以下				
減二等	六錢三厘以上六十二錢五厘以下	七錢五厘以上七十五錢以下	八錢八厘以上八十七錢五厘以下	十錢以上一圓以下					
減三等	七錢五厘以上七十五錢以下	八錢八厘以上八十七錢五厘以下	十錢以上一圓以下						
科料本刑減一等	一圓以上一圓九十五錢以下	一圓廿五錢以上二圓四十錢以下	一圓五十錢以上二圓四十錢以下	一圓七十五錢以上二圓四十錢以下	二圓以上二圓四十錢以下				
減二等	九十七錢五厘以下	一圓十二錢五厘以下	一圓三十七錢五厘以下	一圓六十三錢以下	一圓八十七錢五厘以下				
減三等	廿錢以上一圓廿五錢以下	廿五錢以上一圓五十錢以下	三十錢以上一圓八十七錢五厘以下	三十五錢以上二圓十八錢八厘以下	四十錢以上二圓四十錢以下				
科料本刑加一等	十錢以上一圓以下	十二錢五厘以上一圓廿五錢以下	十五錢以上一圓廿五錢以下	十七錢五厘以上一圓七十五錢以下	廿錢以上二圓以下				
加二等	十二錢五厘以上一圓廿五錢以下	十五錢以上一圓廿五錢以下	十七錢五厘以上一圓七十五錢以下	廿錢以上二圓以下					
加三等	十五錢以上一圓廿五錢以下	十七錢五厘以上一圓七十五錢以下	廿錢以上二圓以下						
加四等	十七錢五厘以上一圓七十五錢以下	廿錢以上二圓以下							
拘留本刑減一等	一日以上三日以下	一日以上二日以下	一日						
減二等	一日以上二日以下	一日							
減三等	一日								
科料本刑加一等	廿錢以上二圓以下								
加二等									
加三等									
加四等									

〔第五九三號〕輕罪ノ刑ヲ以テ重罪ノ刑ニ加ヘ、又ハ重罪ノ刑ヲ以テ輕罪ノ刑ニ加ヘ、又ハ輕罪ノ刑ヲ以テ輕罪ノ刑ニ加ヘ、又ハ重罪ノ刑ヲ以テ重罪ノ刑ニ加ヘ、又ハ

ス、又違警罪ノ刑モ、加ヘテ輕罪ノ刑ニ入ルヽヿヲ得ス、是レ二刑ノ差等、大ナルヲ以テナリ、重罪ノ刑ハ、輕罪ノ刑ニ、比照シテ、唯主刑ノ重キノミナラス、之ニ附加スルノ剝奪公權、禁治産、監視等アリ、又輕罪ノ刑モ、違警罪ノ刑ニ、比照シテ、唯主刑ノ重キノミナラス、之ニ附加スルノ停止公權アリ、又刑ノ期滿免除等ニモ、大差アリ、是レ加ヘテ殊等ノ刑ニ入ルヽヿヲ、許サヽル所以ナリ、又法律ニハ、明文ナケレトモ、體刑ヲ加減シテ、金刑ニ入レ、金刑ヲ加減シテ、體刑ニ入ルヽヿヲ得ス、是レ刑ノ種類ヲ異ニスレハナリ、又一類ノ禁錮中ニテモ、重禁錮ヲ減シテ、輕禁錮ニ入レ、輕禁錮ヲ加ヘテ、重禁錮ニ入ルヽヿヲ得ス、是レ二刑ハ、罪ノ性質ニ然ヒ、別ヲ立テヽ、科スルモノナレハナリ、即チ輕禁錮ハ、國事犯罪、其他破廉耻甚シカラサルモノヲ、而シテ重禁錮ハ、常事犯罪中、破廉耻甚シキモノヲ待ツ所以ノモノナレハナリ、

〔第五九四號〕 然レトモ、禁錮ハ、輕重ニ拘ハラス、總テ加ヘテ、七年ニ至ルヿヲ得、又拘留ハ、加ヘテ十二日ニ至ルヿヲ得、又科料ハ、加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヿヲ得、禁錮ヲ加ヘテ、七年ニ止メシハ、是レ即チ加ヘテ重罪ノ刑ニ入レサルノ意ナリ、重罪ノ輕懲役、輕禁獄ハ、五年以上八年以下ナレハ、加ヘテ八年ニ至ルヿヲ得シムルトキハ、重罪ノ刑ト、全ク差等ナキニ至ルヲ以テナリ、拘留ノ十二日ニ至リ、科料ノ二圓四十錢ニ至ルハ、皆拘留科料ノ長期多數、即チ十日一圓九十五錢ニ、一等四分一ヲ加フルナリ、十二日二圓四十錢ニ止メシハ、一ニ立法官ノ意見ニ出テシヿニシテ、別ニ基ク所アルニハアラス、是

レ蓋シ已ムコトヲ得サルナリ、禁錮ノ十一日以上五年以下ノ限度ハ、他ノ法律ヲ制定スル時ノ爲メニ、設ケシモノニシテ、而メ刑法中ニ於テハ、禁錮ハ、皆各本條ニ於テ、其長短ヲ定メタレハ、總則ノ長期五年ヲ以テ、準ト爲スコトヲ得ス、又況ンヤ罰金ニ於テヲヤ、罰金ニハ、全ク其多數ノ定限ナキヲ以テ、準據スヘキモノナキヲヤナリ、

〔第五九五號〕 或曰ク、例ヘハ誣告ノ罪ヲ犯シ、二年以上五年以下ノ重禁錮、十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ該ル者アリ、第三百六十三條ノ犯人ナルヲ以テ、凡人ノ刑ニ照シ、二等ヲ加フレハ、三年以上七年六月以下ノ重禁錮、十五圓以上七十五圓以下ノ罰金ト爲ルヘシ、若シ尚ホ再犯加重、又ハ宥恕減輕等ニ由リ、加減スヘキ片ハ、本刑三年以上七年六月以下、十五圓以上七十五圓以下ヨリ、其四分一ヲ加減スヘキヤ、將タ禁錮ハ、加ヘテ七年ニ至ルノミナレハ、三年以上七年以下ヲ以テ、本刑ト看做シテ、加減スヘキヤ如何、

〔第五九六號〕 曰ク、主刑ノ禁錮ハ、加ヘテ七年ヲ過クルコトヲ得サレハ、特別ノ加重ト、總則ノ加重トヲ別タス、總テ加ヘテ七年ニ至ルヲ片ハ、又加フヘキニアラス、故ニ禁錮ハ三年以上七年以下ニ止ルヘシ、然レモ罰金ニハ、加等ノ制限ナキヲ以テ、加ヘテ何百圓何千圓ヘテ其刑ニ處スルコトヲ許サヽルノミノモノニシテ、減輕スルヲ片ノ制限ニアラサレハ、尚ホ減輕スヘキモノアルヲ片ハ、此制限ニ依ルヘキニアラス、故ニ加二等ノヲ片ハ、三年以上七年六月以下ヲ以テ、本刑ト爲シ、而メ其四分ノ一ヲ減スヘシ、又

再犯ナルヲ以テ、加フヘクハ、三年以上七年六月以下ノ四分ノ一ヲ加ヘ、而メ減スヘキトキハ、其加ヘタル刑期ヨリ、更ニ幾等ヲ減スヘシ、但シ玆ニ注意スヘキモノアリ、更ニ幾等ヲ減セントスルトキハ、三年以上七年六月ノ四分ノ一ヲ以テ、一等ト爲シ、之ヲ再犯加重ノ刑ヨリ減スヘシ、再犯加重ヲ爲シ、刑ノ四分一ヲ減スルニハアラス、從犯未遂犯、竝ニ特別ノ加減ニアラサレハ、其加減セルモノヲ以テ、本刑ト爲スコトヲ得ス、本刑ニアラサルモノハ、計算ノ本位ト爲スコトヲ得サルナリ、

〔第五九七號〕　加等ノトキニハ、如此ク制限アリト雖モ、減等ノトキニハ、更ニ制限ナク、幾等モ減スルコトヲ得ヘシ、即チ禁錮罰金、何レモ四等ヲ減スルトキハ、其刑名ノ刑期金額、皆盡クヘシト雖モ、尚ホ違警罪ノ刑アルニ於テハ、之ヲ科セサルコトヲ得ス、是レ重罪ノ刑ヲ、減盡シテ、輕罪ノ刑ニ處スルト一般ナリ、故ニ禁錮ヲ減盡シテ、其長期短期、共ニ十一日以下ニ至ルトキハ、拘留ニ處シ、罰金ヲ減盡シテ、其多數寡數、共ニ一圓九十五錢以下ニ至ルトキハ、科料ニ處ス、尚ホ此意ヲ擴充シテ、禁錮罰金ヲ減シテ、其長期ハ十一日以上、其多數ハ二圓以上ニアリト雖モ、其短期十日以下、其寡數一圓九十五錢以下ニ降ルトキハ、亦拘留科料ニ處スルコトヲ得、（七一條）例ヘハ遺失物ヲ拾得テ官署ニ申告セス、所有主ニ還付セサルトキハ、十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ、又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處セラルヘシ、此場合ニ於テ、本刑一等ヲ減スルトキハ、八日以上二月七日以下ノ重禁錮、又ハ一圓五十錢以上十五圓以下ノ罰金ニ該ルヘシ、如此ク其長期多數ハ、尚ホ輕罪ノ刑ノ範圍

內ニ在リト雖モ、其短期寡數ノ、違警罪ノ刑ノ範圍內ニ降ルトキハ、裁判官ハ、事情ニ依リ、違警罪ノ範圍內ノ刑ヲ科スルヲ得、

〔第五九八號〕例ヘハ茲ニ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ該ルモノ、三等ヲ減スルトキハ、其日數二日以上七日以下ト爲ルヘシ、第七十一條ノ法文ニハ、唯禁錮ヲ減盡シタルトキハ、拘留ニ處ストアルノミナリ、此法文ニ依リ、一日以上十日以下ノ拘留ニ處スヘキヤ、將タ減等日數ニ依リ、二日以上七日以下ノ拘留ニ處スヘキヤ如何、曰ク、禁錮ヲ減盡スルトハ、其長期短期、共ニ減盡シテ、禁錮ノ刑名ノ終ルヲイヒ、罰金ヲ減盡スルトハ、其多數寡數、共ニ減盡シテ、罰金ノ刑名ノ終ルヲイフ、已ニ長期短期、共ニ十一日以下ニ至リ、多數寡數、共ニ二圓以下ニ至ルトキハ、禁錮罰金ノ名義終リテ、又禁錮ト稱シ、罰金ト稱スルヲ得ス、四等ヲ減スルトキハ、常ニ拘留科料ニ處シ、三等ヲ減スルトト雖モ、禁錮罰金ノ刑名ノ終ルトキハ、亦拘留科料ニ處スヘキナリ、而メ禁錮ノ時ノ如ク、拘留ノ刑期ニハ、制限ナキヲ以テ、拘留科料ニ處スヘキトキハ、常ニ一日以上十日以下、五錢以上一圓九十五錢以下ノ範圍內ニ於テ、其刑期金額ヲ量定シテ、之ニ處スヘシ、然レトモ、其短期寡數ノミ、十日以下一圓九十五錢以下ニ降ルトキハ、之ニ異ナルヘシ、例ヘハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ、一等ヲ減シ、八日以上二月七日以下ノ刑期ヲ以テ、罰スヘキトキハ、禁錮ノ刑名ヲ用ヒテ、八日以上十日以下ニ處スヘキカ、又ハ拘留ノ刑名ヲ用ヒテ、八日以上十日以下ニ處スヘキヤ、此場合ニハ、拘留ニ處スト雖モ、

直チニ一日以上十日以下ニ下タスヘキコアラス、是レ未タ禁錮ヲ滅盡セシニアラサレハナリ、罰金ヲ滅盡セスシテ、其寡數ノミ、科料ノ範圍内ニ降リシ𪜈モ、亦之ニ同シ、直チニ五錢以上一圓九十五錢以下ニ、處スヘキコアラサルナリ、

〔第五九九號〕 禁錮罰金ヲ滅盡スル𪜈モ、拘留科料ヲ滅盡スル𪜈ハ、尚ホ拘留科料ニ處スト雖モ、拘留科料ヲ滅盡スルヲ以テ、輒チ放免スヘキモノナキヲ以テ、輒チ放免スヘキモノナキナリ、法文ニ拘留ヲ滅シテ、一日以下ニ降スヲヲ得ス、又科料ヲ滅シテ、五錢以下ニ降スヲヲ得ストアレ𪜈、是レ其長期多數ハ、違警罪ノ刑ノ範圍内ニ在リテ、而メ唯其短期寡數ノミ、一日五錢以下ニ至リシ𪜈ヲイフノミ、拘留科料ヲ滅盡シテ、其上下限、共ニ一日五錢以下ニ至ルト雖モ、尚ホ必ス一日五錢ノ拘留科料ニ處スヘキヲヲ、イフニハアラス、法文ニ、拘留科料ヲ滅シテトアリテ、之ヲ滅盡スルト、ナキニ由リ、之ヲ知ルヘキナリ、又法律ニ於テ、一日五錢以下ニ降スヲヲ禁セシハ、是レ一日以下ノ拘留ハ、刑期ニ時ヲ以テ計算スルモノナケレハ、之ヲ受ケシムルヲヲ得ス、又五錢以下ノ科料ハ、之ヲ科スルモ、殆ント其效ナキヲヲ以テナリ、

〔第六〇〇號〕 禁錮拘留ヲ加減スル𪜈ハ、刑期ノ四分一ヲ加減スルヲ以テ、一等ト爲スカ故ニ、其期限ニ零數ヲ生シ、一日ニ滿サルモノアリ、此零數ハ除棄シテ、刑期ニ算入セス、是レ刑期ニ時ヲ以テ計算スルモノナク、又零數ヲモ計算スルニ於テハ、頗ル煩雜ニ渉ルヲ以テナリ、然レ𪜈罰金科料ヲ加減スル𪜈ハ、零數ヲ生シテ、一錢ニ滿タサルモノアリト雖モ、尚

ホ之ヲ計算シテ、除棄スルヿナシ、是レ計算ヲ爲スニハ、煩雜ニ渉ルヘシト雖モ、之ヲ除棄スルノ法文ナク、又之ヲ除棄セスト雖モ、實地刑ヲ執行スルニ於テ、煩雜ニ渉ルヿナケレハナリ、（七三條）

〔第六〇一號〕例ヘハ、第四百二十五條違警罪ノ犯人アリ、其本刑三日以上十日以下ノ拘留ニ相當ス、其再犯ニ係ルヲ以テ、之ニ一等ヲ加フレハ、其刑期三日以上十二日十二時以下ト爲ル、又創傷シテ疾病ニ致セル犯人アリ、第三百條ニ依リ、其本刑ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ相當ス、其豫謀ニ出テ、且ツ再犯ナルヲ以テ、之ニ二等ヲ加フレハ、其刑期三年一月二十二日十二時以下ト爲ル、此場合ニ於テ、減等スヘキモノアルトキハ、違警罪ノ長期ハ、十二日十二時ヨリ減等シ、又輕罪ノ長期ハ、七年九月二十二日十二時ヨリ減等スヘキヤ、曰ク、如此キ場合ニ於テモ、零數ニ滿タサルモノハ、之ヲ除棄スヘシ、已ニ論シタルカ如ク、減等スルモノアルトキハ、輕罪ニ七年以上、違警罪ニ十二日以上ニ至ルヿヲ、許サヽル、第七十條第七十二條ノ制限ニハ、依ラスト雖モ、零數ヲ生スルトキハ、其零數ハ、第七十三條ニ依テ、除棄セサルヿヲ得ス、故ニ輕罪ニハ、七年九月二十二日ヨリ減等シ、違警罪ニハ、十二日ヨリ減等スヘキナリ、但シ何レノ場合ニ於テモ、四分一ノ計算ハ、各本條ノ刑期金額ニ依テ、之ヲ爲シ、第九十九條ノ變則ノ外ハ、加減シタル刑期金額ノ四分一ヲ以テ、計算スルニハアラス、

〔第六〇二號〕附加ノ罰金ハ、主刑ト共ニ加減ス、即チ主刑一

等ヲ加減スルトキハ、罰金モ亦一等ヲ加減シ、主刑二等ヲ加減スルトキハ、罰金モ亦二等ヲ加減ス、其計算ノ方ハ、主刑ノ罰金ニ同シ、其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ、一等ト爲ス、而メ若シ罰金ヲ滅盡スルトキハ、止タ主刑ノミヲ科ス、凡ソ四等ヲ滅スルトキハ、常ニ主刑罰金共ニ滅盡ス、此場合ニ於テ、主タル禁錮ハ、拘留ニ換ヘテ、尚ホ之ヲ科スレトモ、附加ノ罰金ハ、科料ニ換ヘテ、之ヲ科スルコトナシ、是レ罰金科料ハ皆金刑ナリト雖モ、科料ハ違警罪ノ主刑ナレハ、之ヲ以テ附加ノ罰金ニ換フヘカラサルナリ、其事細ナレトモ、尚ホ其名ヲ正シテ、主從ノ別ヲ亂スコトナシ、（七四條）

〔第六〇三號〕　附加ノ罰金ヲ滅盡シテ、多數寡數、共ニ二圓以下ニ至ルトキハ、止タ拘留ニ處シテ、附加ノ罰金ヲ科セサルトキハ、

論ヲ待タサルコトナリ、然レトモ僅ニ滅スルノミニシテ、其寡數ハ、一圓九十五錢以下ニ降ルト雖モ、其多數、尚ホ二圓以上ナルトキハ如何、例ヘハ第百五十七條第二項ノ犯人ノ職工雇入ニシテ、本刑十五日以上六月以下ノ重禁錮、五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ當ルモノアリ、仍ホ滅等スヘキ事情アルヲ以テ、其本刑二等ヲ滅スルトキハ、七日以上三月以下ノ重禁錮、二圓五十錢以上二十五圓以下ノ罰金ト爲ル、此場合ニ於テハ、第七十一條ニ依リ、九日ノ拘留ニ處スヘキモノト認ムルトキト雖モ、尚ホ此九日ノ拘留ニ附加シテ、例ヘハ罰金二圓五十錢ヲ科スヘキヤ如何、

〔第六〇四號〕　曰ク、附加ノ罰金モ、其寡數ハ、主刑ノ如シ、二圓ナレハ、減等スルモ、二圓以上ノ金額アルニ於テハ、此罰金ヲ

附加スヘシ、即チ上文ノ場合ニ於テハ、九日ノ拘留ニ處スルモ、其附加刑タル罰金ハ、尚ホ二圓以上ナレハ、之ヲ拘留ニ、附加スヘキナリ、然レ𪜈二圓以下ノ罰金ハ、之レナキカ故ニ、減シテ二圓以下ニ降リタルモノハ、附加スヘカラス、例ヘハ、一月以上六月以下ノ重禁錮、二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ該ルモノ、一等ヲ減スルトキハ、二十二日以上四月十五日以下ノ重禁錮、一圓五十錢以上十五圓以下ノ罰金ト爲ルヘシ、此場合ニ於テハ、裁判官ニ於テ、二圓以上ノ罰金ヲ附加セントスルトキハ、之ヲ附加スヘシト雖モ、二圓以上ノ罰金ヲ附加スヘキ、事情ナシト認ムルトキハ、止タ主刑ノ重禁錮ノミヲ科シテ、附加ノ罰金ハ、之ヲ科スヘカラス、或曰ク、罰金ヲ二圓以上ニ限ルハ、其主刑タルトキノミ、附加ノ罰金ニハ、寡數ノ程限ナシ、

又第七十四條ニモ、滅盡シ寡數一圓九十五錢以下ニ降リタル場合ヲ、示サヽレハ、其寡數一圓九十五錢以下ニ至ルモ、仍ホ罰金ノ刑名ヲ用ヒテ、之ヲ附加スヘシト、余思フニ、此說ノ如クナランニハ、罰金ノ寡數ニ、程限ナキヲ以テ、所謂二圓ノ減盡スルニハ、アラスシテ、錢位ノ科スヘキモノナキニ至ルマヽ、イハサルヘカラス、是レ豈ニ法意ナランヤ、故ニ此說ニハ從ヒ難シ、

〔第六〇五號〕法律ニハ、止タ附加ノ罰金ノ加減例ヲ、示セルノミニシテ、他ノ附加刑ノ加減例ヲ、示サヽルハ如何、曰ク、剝奪公權ハ、終身ノ刑ニシテ加減ナク、又停止公權、禁治產ハ、主刑ノ期限間ノミノモノニシテ、而ノ監視モ亦重罪ニ附加ス

ルトキハ、其主刑ノ三分一ニ齊キ、時間ノミナレハ、別ニ其加減例ヲ定ムヘキニアラス、又輕罪ノ刑ニ附加スル監視ニハ、別ニ其刑期アレヒ、是レ特別ニシテ、主刑ニ從テ、常ニ加減スヘキモノニアラサレハ、亦其例ヲ示スヘキニアラサルナリ、又其主刑タル禁錮ヲ減盡シテ、違警罪ノ刑ニ處スルトキハ、監視ヲ附加スルコトナシ、是レ罰金ヲ除クノ外、總テ附加刑ニ加減例ナキ所以ナリ、

第四章　不論罪及ヒ減輕

〔第六〇六號〕凡ソ人ノ所爲ヲ刑センニハ、其所爲ハ、道德ニ悖リ、社會ヲ害スルモノナラサルヘカラス、或ハ道德ニ悖ルモ、社會ニ害ナク、或ハ社會ニ害アルモ、道德ニ悖ル所ナキニ於テハ、之ヲ刑スルコトヲ得ス、是レ嘗テ論セシ所ニシテ、社會カ刑罰ヲ行フ所以ノ大本ナリ、（第二七號以下）又國法アレハ、假令ヒ社會ニ害アリ、道德ニ悖ルノ所爲ナリト雖モ、明ニ國法ヲ犯スモノニアラサレハ、之ヲ刑スルコトヲ得ス、國法ヲ犯サヽルル所爲ナレハ、國罪ト稱スルコトヲ得ス、國罪ト稱セサルモノハ、又國法ノ刑スル所ニアラサルナリ、（第三五號以下）

〔第六〇七號〕明ニ國法ヲ犯スノ所爲ニシテ、國罪ト稱スルモノナリヒ、此所爲アレハ、輒チ之ヲ刑スルニアラス、若シ其

事情ヲ詳ニセスシテ、常ニ之ヲ刑セハ、是レ不正ニ渉リ、無用ニ陷ルナリ、亦是レ刑法ノ原則ト正ニ相反スヘシ、凡ソ此所爲ヲ刑セントニハ、必ス先ツ之ヲ分折解剖スヘシ、之ヲ分折セハ、又必ス三個ノ元素、即チ三個ノ要件アルヘシ、所謂ル元素トハ何ソ、曰ク、下手者、被害者、竝ニ有形ノ所爲、是レナリ、其事タル、法律ノ罰スル所ノモノナルモ、若シ之ヲ爲シ、人ナクンハ、法律ハ、刑ヲ施スニモノナカルヘシ、刑ヲ施スハ、其事ニアラスシテ、其人ナリ、其人ナケレハ、其事アルモ、刑スルヿヲ得ス、其人アルモ、其事ナキ、亦刑スルヿヲ得ス、故ニ人ト事トヲ待テ、茲ニ初メテ刑ヲ施スヘシ、殺傷ハ法律ノ刑スル所ノ事ナリ、然レトモ其事タル、若シ災異ニ出テハ、法律ハ之ヲ如何トモスルヿヲ得ス、故ニ其事アルモ、其人ナケレハ、刑ヲ施ス

ヘカラサルナリ、

〔第六〇八號〕 其人アレハ、輒チ之ヲ刑スルヿヲ得ヘキカ、曰ク、其人アルモ、未タ卒カニ之ヲ刑スルヿヲ得ス、之ヲ刑セントニハ、其人必ス其事ノ責ニ任スル者ナラサルヘカラス、而メ此責ニ任セシメントニハ、其人ニ辨別アリ、自由アルヿヲ要ス、若シ善惡是非ヲ辨別スルヿヲ得ス、夫ノ嬰兒ノ如キ、固トヨリ此性ナキニアラストイフテ可ナリ、未タ實地ニ能ク其用ヲ爲シテ、善惡是非ヲ辨別スルヿヲ得ス、瘋癲憃愚ノ如キモ亦然リ、此性アリト雖モ、其用ヲ爲スヿナシ、其用ヲ爲スヿヲ得ス、瘋癲憃愚ノ如キモ亦然リ、此性アリト雖モ、其用ヲ爲スヿナケレハ、此性ナキニ殆カシ、此性ナキニ殆カシ、人ニアラサルナリ、十分ノ人ニアテサレハ、其事アルモ、其責ニ任セシムルヿヲ得

不論罪減輕

ス、

〔第六〇九號〕已ニ此性ヲ備ヘテ、而メ又能ク其用ヲ爲シ、是非ヲ辨別スルニ於テハ、其事ノ責ニ任セシメ、然レドモ若シ其人ニ自由ナキニ於テハ、亦其責ニ任セシムヘカラス、其事ヲ爲スハ、其人ニアラスルナリ、自由ナキ塲合ニ於テハ、其事ヲ爲スハ、其人ニアラスシテ、而メ他ニ之ヲ爲サシムルモノアリ、若シ其事ヲ責メント思ハヽ、他ノモノヲ責ムヘシ、此塲合ニ在テハ、其人ハ一機械ニ過キス、之ヲ罪スルハ、夫ノ兵ヲ罪シ、歲ヲ罪スルト一般ナリ、罪ヲ致ス所以ハ、必ス他ニ是レアリ、人ヲ殺シ、者ハ、我ニアラサルナリ、造物者ナリ、餘人ナリトイフコヲ得ヘシ、若シ罪スヘクンハ、造物者ヲ罪シ、餘人ヲ罪スヘシ、手ヲ下タシ、人ヲ殺シ、者ハ、之ヲ罪スヘカラス、之ヲ罪スヘカラサルハ、

之ニ其責ヲ負フスヘキモノナケレハナリ、

〔第六一〇號〕故ニ其事ノ責ニ任セシメンニハ、其人自由ニ之ヲ爲シ、其事ヲ以テ、其人ニ歸セサルヘカラス、又之ヲ其人ニ歸センニハ、其事ノ是非ヲ辨別スル者ナラサルヘカラス、若シ自由ナク辨別ナキニ於テハ、其事アルモ、是レ所謂ル害災偶爾ルノ不幸ナレハ、肆赦セサルヘカラサルナリ、是レ唯罪ヲ罰スルヿノミノヿナラス、功ヲ賞スルヿモ、亦然リ、辨別アリテ、其事ノ善ナルヿヲ知リ、而メ其人ノ心ヨリ出テ、自由ニ之ヲ爲シ、ヿニアラサレハ、功アリト雖モ、賞スヘキニアラス、辨別ナク自由ナキニ於テハ、其功ハ功ニアラスシテ、是レ僥倖ナリ、又其事ノ善ナルヲ知リ、好ミテ之ヲ爲スモ、若シ其功ナキニ於テハ、亦賞スヘキニアラス、若シ之ヲ賞

セハ、夫ノ瓦ヲ毀チ、墻ニ畫キテ、其志將ニ以テ食ヲ求メントスル者ニモ、亦食セサルヘカラス、其志アリ其功アルニアラサレハ、食スルコトナカルヘシ、故ニ又其事ノ惡ナルコトヲ知リ、好ミテ之ヲ爲スモ、其罪ナキニ於テハ、亦罰スヘキニアラス、其志アリ、其罪アリテ、茲ニ初メテ之ヲ罰スヘキナリ、

〔第六一一號〕　其志アリ其罪アリテ、乃チ之ヲ罰ス、故ニ又其罪ノ罪タル所以ヲ明ニセサルヘカラス、罪ノ罪タル所以ヲ罪本トイフ、(佛語きゃるぱびりて)罪本トハ、或ハ分ニ過キ、或ハ分ヲ失ヒテ、其爲スヘキヲ爲サス、其爲スヘカラサルヲ爲スノ過失ヲイフ、刑法ノ罪トシ罰スル所ハ、則チ此過失ニアリ、責任ニ輕重アルハ、過失ニ小大アルニ由ル、過失大ナレハ、其責重ク、過失小ナレハ、其責輕シ、罪本ハ本ナリ、責任ハ末ナリ、

罪本ニ、凡概ノモノアリ、各個ノモノアリ、法律ニ於テ、廣ク世間ヲ通觀シテ、其事ノ大體ニ就キ、定メタル罪本ハ、凡概ノ罪本(きゃるぱびりて、おぶそりゃ)ニシテ、而メ一人一事ニ就キ、定メタルモノハ、各個ノ罪本(きゃるぱびりて、あんでぃびぢうえる)ナリ、刑法ノ各本條ニ於テ、法律ノ定ムル所ノ殺傷、放火、賊盜ノ類ハ、皆凡概ノ罪本ナリ、此殺傷、放火、賊盜ニ就キ、裁判官カ、其事情ヲ參酌シ、其一人一事ニ係リテ、定ムル所ハ、是レ各個ノ罪本ナリ、而メ法律ニ於テ、刑ノ長期短期、多數寡數ヲ設ケタルハ、是レ此各個ノ罪本ニ就キ、裁判官ヲシテ、適當ノ刑ヲ言渡サシメンカ爲メナリ、

〔第六一二號〕　其人アリ其所爲アリト雖モ、其所爲ニ罪本ナク、其人ニ責任ナキニ於テハ、之ヲ刑スルコトヲ得ス、故ニ其所

爲ヲ責メ、其人ヲ刑センニハ、左ノ三件ニ就キ、其事情ヲ明ニセサルヘカラス、一ニ曰ク、其人ノ衷情、二ニ曰ク、其人ノ身體、三ニ曰ク、其人ノ權利、此三件ニ就キ、其事情ヲ詳悉セサレハ、罪ノ有無輕重ヲ誤リテ、其罰スヘキヲ罰セス、其罰スヘカラサルヲ罰シ、或ハ入出其權衡ヲ失フニ至ラン、學者最モ心ヲ用ヒサルヘカラス、

〔第六一三號〕 第一罪犯ノ衷情○罪犯ノ衷情ニ係リ、審按スヘキモノ五アリ、一ニ曰ク、精神ノ力、二ニ曰ク、年齡、三ニ曰ク、精神ノ喪失、四ニ曰ク、脅迫、五ニ曰ク、意思、此五者ハ、責任ノ由テ生スル所、罪本ノ因テ立ツ所ナレハ、凡ソ罪ヲ定メ、刑ヲ科センニハ、必ス先ツ之ヲ詳ニセサルヘカラサルナリ、

〔第六一四號〕 一精神ノ力○精神ノ力ヲ論スルニモ、左ノ三

語ノ別ヲ立テサルヘカラス、曰ク知覺、(さんしびりて)曰ク識力、(あんてりぢゃんす)曰ク能動力、(あくちういて)凡ソ人ノ事ヲ爲シ、又ハ事ヲ爲サヽル、皆是レ知覺ニ由ルヿニシテ、知覺ノ職掌タル、恰モ唆敎者ノ職掌ノ如シ、然レ𪜈知覺ナルモノハ、唯其事ヲ爲シ、其事ヲ爲サヽルヿヲ、心ニ知リ覺ユルノミノ力ナレハ、知覺ハ、自由アルニアラス、亦識力アルニモアラサルナリ、故ニ知覺ハ、責任ニ關係アルモノニアラス、唯罪本ノ輕重ニ關係スル所アルノミ、識力ハ、其所爲ノ是非善惡ヲ識リテ、之ヲ分別スル所以ノモノナレハ、責任ヲ生スルニ、缺クヘカラサル一要件ナリ、其他總テ心ノ力ハ、(喜怒哀樂愛惡欲等)唯罪本ノ輕重ニ關係スルノミ、

〔第六一五號〕 能動力ナルモノモ、亦責任ヲ搆成スル一要件

不論罪減輕

ナリ、能動力トハ、事ヲ爲シ、又ハ事ヲ爲サヽルヘキヲヲ決斷シ、而メ吾四肢ヲシテ、決斷セシ所ノ如クナラシムル所以ノモノナリ、又一ニ之ヲ自由トイフ、能動力ハ意思ノ用ニシテ、而メ意思ハ、能動力ノ體ナリ、而メ自由ハ、又能動力ノ用ニシテ、能動力ノ能ク其用ヲ爲ス所ハ、是レ即チ自由ナリ、故ニ自由ハ、意思ノ用ノ又用ナルモノニシテ、意思ハ、自由ノ體ナルモノナリ、此意思ハ、自由ノ本元ナレヒ、責任ヲ構成スル所以ノモノニハアラス、然レヒ罪本ノ輕重ニ關シテハ、最緊要ノモノナリ、自由ハ責任ヲ搆成スル所以ノ元素ナリ、故ニ其事ヲ爲スノ意思ナシト雖モ、其是非ヲ辨別シテ、自由ニ其事ヲ爲シ、而メ其事ヨリ損害ヲ生スルニ於テハ、其責ニ任セサルヘカラス、然レヒ其意思ナキニ於テハ、其過失タル、極メテ輕ク、其場合ニ從ヒ、或ハ刑法ノ處分ヲ免カルヽアルヘシ、然レヒ民事ニ於テ、其損害ヲ償フノ義務ハ、免カルヽヲ得ス、此場合ニ於テハ、刑事ノ罪本ナクシテ、唯民事ノ罪本アルノミ、

〔第六一六號〕故ニ責任ヲ搆成スル元素ハ、辨別ト自由トナリ、全ク辨別ナク、又全ク自由ナキキハ、全ク責任ナシ、責任ナキカ故ニ、其事アリト雖モ、之ヲ罪トシテ、其責ニ任セシムルヿヲ得ス、又辨別アリト雖モ、其辨別全カラス、自由アリト雖モ、其自由亦全カラサルトキハ、僅ニ罪本過失ノ度ヲ減スルノミニシテ、其責ニハ全ク任セサルヘカラス、此辨別ト自由トノ有無多寡ノ原由ニ、種々アリ、其一ハ人智發達ノ程度ニ從フモノニシテ、人皆是レアラサルハナシ、此原由ハ、即チ人ノ

年齡ナリ、其一ハ偶然ニシテ生スルモノニシテ、時ニ或ハ是レアルモノナリ、此原由ハ精神ノ喪失是レナリ、

〔第六一七號〕二年齡〇八ノ生ル、ヤ、此性アラサルハナシ、然レ𪜈此心ノ用タル、尙ホ未タ備ハラス、其備ハラサルカ故ニ、能ク是非ヲ辨別スルコナシ、月ヲ重ネ、年ヲ積ミテ、漸ク其用ヲ爲ス、其用ヲ爲スコト久クシテ、始メテ其全キコトヲ得、其間智識ノ發達スル、日月ニ其段等アリ、幼兒ニシテ、自由ヲ得ス、又辨別スルノ力ナキ者、竝ニ自由アルモ、辨別スル力ナキ者ハ、皆其所爲ノ責ニ任スルコトナシ、又已ニ自由ヲ得テ、辨別スルノ力アルトキハ、其責ニ任スヘシト雖モ、尙ホ辨別スルノ力、全カラサル者ハ、其罪本ハ、輕カラサルコトヲ得ス、故ニ其刑モ、亦輕カルヘキナリ、

〔第六一八號〕此年次ヲ定ムルコハ、時ニ從ヒ國ニ依テ、異ナラサルコトヲ得ス、概シテ暖國ノ人ハ、其形體性情ノ成長發達、速ニシテ、寒國ハ、之ニ反シ、又開明ノ國ニテハ、人ノ智識ノ進ムコト早クシテ、蠻野ノ國ニテハ、晩シトイフ、周禮曰、壹宥曰不識、再宥曰過失、三宥曰遺忘、壹赦曰幼弱、再赦曰老耄、三赦曰蠢愚、以此三法者、求民情、斷民中、而施上服下服之罪、然後刑殺、幼弱ノ者ハ古モ刑ヲ加ヘサリシナリ、然レ𪜈何年ヲ幼弱トイヒシヤ、詳ナラス、曲禮曰、人生十年曰幼、學、二十曰弱、冠、三十曰壯、有室、四十曰強、而仕、五十曰艾、服官政、六十曰耆、指使、七十曰老、而傳、八十九十曰耄、七年曰悼、悼與耄、雖有罪不加刑焉、百年曰期、頤、曲禮ニ據レハ、七歳未滿ノ者、竝ニ八十以上ノ者ニハ、刑ヲ加ヘサレ𪜈、幼弱ノ者竝ニ老者ニハ、刑ヲ加フルニ似タ

リ、二書ニイフ所、同シカラサルヲ以テ覩レハ、其中必ス謬誤アルナルヘシ、唯此書ニ依リ、古モ亦幼者ヲ罰セサリシコヲ知ルノミ、又此書ニ依リ、古ハ習學婚姻公務等ニ關シテ、年齡ヲ定ムルコト、頗ル詳ナリシコト見ルヘシ、後世ノ幼年丁年ノ、別ナキカ如クナラサルナリ、湛若水曰、先王之世、禮以年制、上以是治人、人以是自待、故分易定、分易定故事易稱、事易稱故志易定、後世禮壞、治人不以其叙、用人不待其成、處人不由其識、故人欲速而志淫、國欲治可得乎ト、今亦此憂ナキニアラス、學者須ク心ヲ用フヘシ、

〔第六一九號〕唐律ニハ、罪ノ輕重ニ從ヒ老幼ノ差別ヲ爲シ、而メ或ハ宥シ、或ハ赦ス、諸年七十以上、十五以下、及廢疾、犯流罪以下、收贖、八十以上十歲以下、及篤疾、犯反逆殺人應死者、上請、盜及傷人者、亦收贖、餘皆勿論、九十以上七歲以下、雖死罪、不加刑、即有人教令、坐其教令者、若有贓應備、受贓者備之、諸犯罪時、雖未老疾、而事發時老疾者、依老疾論、若在徒年限內老疾、亦如之、犯罪時幼小、事發時長大、依幼小論、明律清律、並ニ我養老律モ亦之ニ同シ、但文ニ小異アルノミ、德川氏ノ時ニハ、幼者ト雖モ、僅ニ寬假スルノミニシテ、之ヲ放赦スルコトナシ、科條類典下卷、七十九、十五歲以下之者、御仕置事ノ條ニ曰ク、一、子心にて、無辨、人を殺候もの、十五歲迄、親類江預置、遠島、一、子心にて、無辨、火を付候もの、右同斷、遠島、一、盜いたし候もの、大人之御仕置より、一等輕可申付、(右寬保元年極)又寬保二年極、追加ニ曰ク、一、十五歲以下之無宿者、途中其外にて、小盜いたし候においてハ、非人手下ト、老者ニハ、別ニ寬假スルコヲ聞カ

ス、新律綱領ハ、明律清律等ニ同シ、

〔第六二〇號〕羅馬ニテハ、十四歳前後ヲ以テ差別シ、十四歳未滿ノ者ハ、無能力者トシテ、婚姻ヲ爲シ、契約ヲ結ヒ、遺囑ヲ爲ス等ノコトヲ禁止シ、而メ刑事ニ於テモ、其責ニ任セシムルコトナシ、十四歳以上ノ者ハ、私權ヲ行フコトヲ許シ、又刑事ノ責ニモ、任セシメシトイフ、佛國刑律ニハ、十六歳以上以下ニテ、區別ヲ爲セリ、十六歳未滿ノ幼者ニハ、辨別ノ有無ヲ審按シテ、或ハ宥シ、或ハ赦ス、即チ十六歳未滿ノ幼者ニシテ、辨別ナキトキハ、之ヲ放赦シ、又辨別アルモ、常ニ寬宥ス、而メ其以上ハ、法律ニテ常ニ辨別アルモノト推測シテ、十分ニ其責ニ任セシム、(佛刑法六六條以下)然レトモ、老者ニハ、赦宥スルノ法アルコトナシ、

〔第六二一號〕今我刑法ニ於テ、八ノ年次ヲ四段ニ別チテ、赦宥ノ法ヲ設ケラレタルハ、頗ル備ハレリトイフヘシ、第一、十二歳未滿ノ者、第二、十二歳以上十六歳未滿ノ者、第三、十六歳以上二十歳未滿ノ者、第四、二十歳以上ノ者、是レナリ、十二歳未滿ノ者ハ、常ニ辯別ナキモノト看做ス、辨別ナキモノトスルカ故ニ、又責任モ常ニ之レナキモノトス、責任ナキヲ以テ、罪アリト雖モ、刑ヲ加ヘス、(七九條)故ニ重罪輕罪違警罪ノ別ナク、如何ナル罪ヲ犯スモ、十二歳未滿ノ幼者ナレハ、決シテ刑ヲ加フルコトナシ、十二歳以上十六歳未滿ノ幼者ナレハ、辨別ノ有無ヲ審按シテ、或ハ宥恕シ、或ハ放赦ス、此年齡ノ者ハ、法律ニ於テハ、其辨別ノ有無ヲ推測スルコトナク、一ニ裁判官ノ審定ニ任ス、裁判官ニ於テ、辨別ナキ者ト認ムレハ、其刑ヲ

免シ、辨別アル者ト認ムレハ、其刑ヲ科ス、然レ𪜈尚ホ本刑ニ一等、又ハ二等ヲ減ス、是レ辨別アリト雖モ、長大ノ人ノ如ク、全キコヲ得サレハナリ、故ニ十二歳以上十六歳未滿ノ者ハ、或ハ刑シ、或ハ刑セス、又之ヲ刑スルモ、必ス常ニ宥怒シテ、一等又ハ二等ヲ減ス、（八〇條八三條）

〔第六二二號〕　或曰ク、所謂ル辨別トハ、如何ナルコヲ、辨別スルノ謂ナルヤ、廣ク其所爲ノ是タリ非タルコヲ、辨別スルノ辨別スルノ謂ナルヤ、將タ其所爲ノ社會ヲ害スヘキモノタルヤ否ヤヲ、辨別スルノ謂ナルヤ、固ヨリ人ニモヨルコナルヘケレ𪜈、盜ノ爲スヘカラサルコノ如キハ、三尺ノ童子モ、皆能ク之ヲ知ラン、然レ𪜈其所爲ノ道德ニ悖リ、社會ノ害ト爲ルヘキコハ、大人モ尚ホ或ハ之ヲ識別スルニ困シムモノアラン、如何、曰ク、法文ニ、其所爲是非ヲ辨明シタルト否トヲ、審按シトアリ、故ニ其所爲ノ道德ニ悖リ、社會ヲ害スルコヲ、辨別スルコヲイフナリ、廣ク善惡ヲ辨別スルノ謂ニアラス、此意ハ、刑法草案ノ註解ニハ明瞭ナリ、註解ニ曰ク、假令ヒ犯人、已ニ善惡ヲ識別スヘキ年齡ナルモ、其所爲ノ社會ヲ害スルヤ否ヤヲ、知ラサル者ナレハ、之ヲ罰シ難シ、社會ノ害ハ、罪ヲ成スノ一原因ナリ、社會ヲ害スルト否トヲ、識別スルハ、事ノ善惡ヲ識別スルヨリモ、難キコナリ、何トナレハ、其人已ニ社會ノ情態ヲ知リ、其所爲ノ公益ヲ損スルコヲ、知ラサルヘカラサレハナリ、歐洲諸國ノ法律ハ、社會ノ害タル、此第二ノ目的ヲ、度外ニ置キテ、唯道德上ノ善惡ヲ、識別スル一點ヲ以テ、犯人ノ責任ヲ定メ、社會ノ利害ヲ、識別スルノ一

自七九條至八三條

點ハ、之ヲ參酌セサルカ如シ、然レ𪜈歐洲ノ輿論ハ、已ニ全キ責任ヲ負フスルノ年齡ハ、之ヲ晩クスヘキ方向ニ傾キタリ、故ニ日本ニ於テモ、此說ニ從ヒ、今ヨリ正理ニ適スル法律ヲ設クヘシト、故ニ其所爲ノ道德ニ悖リ、社會ニ害アリテ、眞ニ法律ノ罪タルヘキヲヲ、識別スルノ力ナキ者ナレハ、肆赦シテ、其罪ヲ論セサルヘキナリ、

〔第六二三號〕第八十條ニハ、明文ナケレ𪜈、第八十三條ト比照スレハ、第八十條ハ、重罪輕罪ニ就テノヲニシテ、違警罪ニハ關係ナキヲ、知ルヘキナリ、故ニ違警罪ニ就テハ、第八十三條ニ依リ、處分スヘキナリ、然ルニ第八十三條ニハ、滿十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ、其罪ヲ宥恕シテ、本刑ニ一等ヲ減スト、アルノミニシテ、其所爲ノ是非ヲ、辨別スルト否トヲ、分タサル主意ナルヤ、又第八十條ニ準シテ、重罪輕罪ノ如ク、辨別スルト否トヲ分ヲテ、辨別ナキトキハ、其罪ヲ論セス、辨別アルトキハ、宥恕シテ、一等ヲ減スルノ主意ナルヤ、分明ナラサルナリ、如何、曰ク、違警罪ハ一種別格ノ罪ニシテ、專ラ取締ノ爲メニスルモノナレハ、辨別ノ有無ヲ分タス、一體ニ之ヲ罰スルナリ、小惡ヲ戒シメサレハ、終ニ大惡ヲ犯スニ至ルノ懼アリ、又取締ヲ嚴ニセサレハ、終ニ社會ヲ維持スヘカラサルニ至ルノ懼アレハナリ、此意モ草案ノ註解ニハ、明示セラレタリ、註解ニ曰ク、違警罪ノ犯人ヲ罰スルニハ、社會ヲ害シ法律ヲ犯ス意思ノ有無ハ、之ヲ論スルヲナシ、違警罪ニ就テハ、多クハ唯法律ヲ知ラサルノミヲ以テ、之ヲ罰ス、必スシモ犯人ノ丁年以上ナルヲヲ要セス、又犯人ニ十分ノ知覺アル

コヲ要セスト、其丁年幼年ヲ分タス、知覺ノ備ハルト否トヲ別タサルヲ以テ、之ヲ視レハ、辨別ノ有無ヲ論セサノ意ナルコト、自ラ明ナルヘキナリ、

〔第六二四號〕十二歲未滿ノ幼者ニ係ルヒ、竝ニ十二歲以上ノ者ナリト雖モ、十六歲未滿ニシテ、辨別ナクシテ、罪ヲ犯セル幼者ニ係ルヒハ、其責任ナキヲ以テ、法律ハ、其罪ヲ論セス、其所爲、法律ノ罰スル所ナルモ、其人ニ責任ナキニ於テハ、其人ニ就テハ、罪ナシトイハサルヘカラス、故ニ刑法草案ニハ、罪ヲ論セストアリテ、罪ヲ論セストアレハ、其實ハ罪アレヒ、幼者ニ係ルヲ以テ、其罪ヲ問ヒ、刑ヲ科スルコハ、之ヲ爲サストイフカ如クニ聞ユヘシ、然レヒ其罪アレヒ、之ヲ論セストイフノ意ニハアラス

シテ、罪ノ論スヘサモノナシトイフノ意ナルヘシ、其語ヲ以テ、其意ヲ害セサルヘシ、其所爲罪ナレヒ、其刑ヲ科セサルヒニハ、免訴ノ言渡ヲ爲シ、其所爲罪ト爲ラサルヒニハ、無罪ノ言渡ヲ爲ス、今此幼者ノ場合ニ於テハ、無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ、免訴ノ言渡ハ爲スヘキニアラス、

〔第六二五號〕其責ニ任スヘキニアラサレハ、其人ニ就テハ、罪ナシト雖モ、法律ニ於テハ、八歲以上ノ者ナレハ、十六歲ニ滿タサル時間、又十六歲以上ノ者ナレハ、二十歲ニ滿タサル時間、其情狀ニ因リ、其幼者ヲ懲治場ニ留置スルコヲ許ルセリ、此留置ハ刑ニアラス、懲戒ノ爲メニスル、一個ノ權宜ナリ、故ニ其幼者、是非ヲ辨別スルノ力アリ、而メ留置中ニ於テ逃走スルモ、已決ノ囚徒逃走スルヲ以テ、論スヘキニアラス、逃

自七九條至八三條

走スレハ、唯逮捕シテ、再ヒ之ヲ留置スルノミ、又刑ノ期滿免除ノ如キモ、此幼者ニハ之ヲ適用スヘキニアラス、已ニ本案ノ裁判ニ於テ、無罪ノ言渡ヲ爲スニ於テハ、決シテ之ヲ罪人視スヘカラサルナリ、

〔第六二六號〕留置ノ處分ヲ爲ス如何、檢察官ニ於テスルヤ、將タ裁判官ニ於テスルヤ、曰ク、是レ夫ノ罰金ヲ禁錮ニ換フルト同ク、第二十七條ノ例ニ準シ、檢察官ノ求ニ因リ、裁判官之ヲ命スヘキナリ、檢察官ハ、公益ヲ保護センカ爲メ、其處分ヲ求ムル者ニシテ、自ラ斷シテ、其處分ヲ爲スヘキ者ニアラス、又裁判官ハ、他ノ求ニ因テ、其事ヲ斷シ、其處分ヲ言渡ス者ニシテ、自ラ職權ヲ以テ、處分スヘキ者ニアラス、故ニ裁判官カ、職權ヲ以テ處分スヘキトキハ、必ス法律ニ其明文アリ、裁判官ハ、告クルヲ待テ、而メ斷シ、檢察官ハ告ケテ、而メ斷セサルモノナリ、

〔第六二七號〕豫審判事モ、亦留置ヲ命スルヿヲ得ヘキヤ、曰ク、豫審判事ハ、取調ノ處分ヲ爲シ、證據ノ有無ヲ斷スルノミノ者ナレハ、留置ノ如キハ、其命スヘキモノニアラス、佛文原稿第九十一條ニモ、裁判所ヨリ之ヲ命スルトアリ、故ニ立案者ノ意ニ於テモ、豫審判事ニ、此處分ヲ任セサルヿ明ナリ、然レハ豫審終結シ、免訴ノ言渡ヲ爲セシトキハ、檢審官ハ、何レノ裁判所ニ、留置處分ヲ求ムヘキヤ、刑事裁判所ハ、未タ其事ニ預ラス、又幼者タル被告人ハ、其事件ニ就テハ、已ニ無罪ナレハ、輕罪ノ被告人トモ、亦重罪ノ被告人トモイフヘキ者ニアラサルヘシ、曰ク、如此キ塲合ニ於テハ、刑事裁判所ニハ、留置處

分ヲ求ムヘキニアラス、檢察官ハ、民事裁判所ニ之ヲ求ムヘキナリ、此法制未タ備ハラサレ𪜈、民事裁判所ニ請求シテ可ナルヘシ、凡ソ人ノ自由權利義務等ニ關シテ、刑事ニ渉ラサル處分ハ、民事裁判所ノ管掌スヘキハ、當然ノコトナレハナリ、

〔第六二八號〕留置處分ニ對シ、上訴スルコトヲ得ヘキヤ、曰ク、此處分ニ對シテハ、上訴スヘキニアラス、留置ノ言渡ハ、所謂ル命令ニシテ、別ニ裁判ヲ用フルモノニアラス、故ニ留置ノ命令アルトキハ、直チニ之ヲ決行シ、其命令ノ確定スルト否トハ、之ヲ論セス、假令ヒ其命令ニ不當ノコトアルモ、夫ノ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ト同ク、權利ヲ用ヒ、法律ニ據テ、論スヘキニアラス、又檢察官ノ請求ニモ、別ニ其程式アラサレハ、其手續ノ當否モ、論スヘキニアラス、檢察官ハ、便宜之レカ請求ヲ爲スノミ、其請求、總テ治罪法ノ手續ヲ行フニ及ハス、民事裁判所ニ於テスルトキモ、亦同樣ナリ、民事訴訟ノ程式ニ從フニ及ハス、何トナレハ、是レ治罪ノ爲メニアラス、訴訟ノ爲メニアラサレハナリ、

〔第六二九號〕懲治場ニ留置スルトキハ、改過自新ノ情、顯然タルモ、留置ヲ解キ、釋放スルコトヲ得サルヘキヤ、或曰ク、重罪輕罪ノ主刑、竝ニ監視ニハ、法律ニ假出獄、免幽閉、免監視ヲ許スノ明文アレ𪜈、懲治場ノ留置ニハ、之ヲ免スルノ明文ナケレハ、之ヲ免スルコトヲ得サルナリト、余思フニ、是レ法律ヲ知ラサルノ論ナルヘシ、眞ノ罪人ニ於テスラ、假出獄免幽閉等ヲ以テ、其刑ヲ免スレハ、罪人ナラサル者ニ、其束縛ヲ免スヘカラサルノ理ナカルヘシ、法律ニ明文ナシト雖モ、其重キニ處

スルノ法意ヲ推シ、以テ其輕キニ處スルノ法意ヲ、察スヘキナリ、眞ノ刑法上ノ處分ノ如キハ、別段ナレ𪜈、其他ノ處分ニ至テハ、必シモ明文正條ヲ要セサルナリ、若シ明文正條アルニアラサレハ、處分スルコヲ得ストセハ、留置モ亦爲スヘカラサルナリ、何トナレハ法律ニ之ヲ求メ、之ヲ命シ之ヲ執行スル等ノ明文ナケレハナリ、故ニ闕文ハ、法意ヲ解釋シテ、之ヲ補フヘシ、何ソ必シモ拘泥セン、但シ留置ヲ解クヘキハ、留置ヲ命スルヘキノ手續ニ從ハサルヘカラス、即チ檢察官ノ求ニ由リ、裁判官之ヲ命スヘキナリ、其他ハ總テ便宜處分シテ可ナリ、但シ實際ニ於テハ、總テ茲ニ論セシ所トハ異ナリテ、豫審判事ヨリ、公判ニ送リテ、公判々事ハ、裁判ヲ以テ留置ヲ言渡シ、又其言渡ニ對シテ、上訴スルコヲ許スト聞ケリ、果シテ然ルヤ否ヤ、學者須ク實際家ニ質シ、尙ホ法理ヲ推シ、法意ヲ考ヘテ、自ラ決スヘシ、

〔第六三〇號〕 被告人ノ年齡ヲ計算スルニ、其出生ノ年月日ノ明ナル者ハ、論ナシト雖モ、其年月日ノ明ナラサル者ハ、如何スヘキヤ、法律ニ之レカ規則ナシ、其生年ノ知レサル者ハ、其相貌體格等ニ由リ、醫師等ノ鑑定スル所ヲ以テ、之ヲ定ムルノ外、途ナカルヘシ、其年ヲ知ルト雖モ、其月ヲ知ラサルトキハ如何、曰ク、此場合ニハ、十六年七月十三日海軍省伺、同年八月二十二日太政官指令ニ依ルヘシ、伺ニ曰ク、生年ヲ知テ生月ヲ知ラサル被告人、年齡計算方ノ儀、舊法ニ在テハ、改定律例第九十三條ニ依リ、生年ニ計算致候得共、新法ニハ、右等ノ明文無之、且ツ生月ヲ知ラサル者ハ、其六月前ニ

自七九條至八三條

出生セシヤ、將タ七月以後ノ出生ナルヤヲ、知ルヘカラサルニ付、舊法ノ如キ、計算法ニシテハ、被告人ニ於テ、大ニ幸不幸ヲ來シ、不都合ト被存候處、地方法衙ニ於テハ、生月ヲ知ラサルヲ以テ、生月ト爲シ、計算致候由、右ハ算定方穩當哉ト、存候條、當軍衙ニ於テモ、生年ヲ知テ、生月ヲ知ラサル者ハ、十二月ヲ以テ、生月ト定メ、計算致度、此段相伺候也、指令ニ曰ク伺ノ通ト、是レ軍衙ノ爲メニセル指令ナレトモ、司法々衙ニモ、亦適用シテ可ナルヘシ、況ンヤ已ニ從前如此キノ慣例アルニ於テヲヤ、凡ソ疑義ヲ生シテ、決シ難キ時ハ、被告人ノ便利ニ、之ヲ決スヘシ、倘ホ此意ヲ推シ、生日ノ知レサルトキモ、亦月末ノ日ヲ以テ、生日トスヘキナリ、

〔第六三一號〕其罪ヲ犯ス時、幼小ナレハ、事發スル時、長大ナルモ、幼小ニ依テ論ス、法文ニ曰ク、罪ヲ犯ス時云々ト、是レ唯幼者ノミナラス、脅迫瘋癲等、亦皆之ニ同シ、犯時ニ依テ其責任ノ有無、罪本ノ輕重ヲ定ム、是レ理ニ於テ然ラサルヲヲ得サルナリ、明律清律新律綱領、皆如此シ、然レトモ老疾者ニ就テハ、昔時ノ法律ト異ナリテ、責任ヲ免スルヲナシ、精神ノ作用ハ、壯健ノ者ト異ナルヲヲナケレハナリ、老疾者ニハ、法律ニ於テ、辨別ナシト推測スルヲ得ス、

〔第六三二號〕又官吏ニテモ、二十歲未滿ノ幼者ナレハ、赦宥セラルヘシ、是レ事理ニ於テハ、當ラサルヲナレトモ、辨別ナシトシ、又ハ辨別アルモ精密ナラサル者ナリトスル、法律上ノ推測ハ、反對ノ證據ヲ以テ破ルヘキモノニアラサレハ、官吏ナリ、聰明ナリトシテ、丁年者ト同ク、罰スルヲヲ得サルナリ、

其結果如此クナレハ、已ニ法律ニ於テ、辨別スルノ力足ラサル者ト、推測スル幼者ノ如キハ、官吏タラシムヘカラサルナリ、

〔第六三三號〕三精神ノ喪失○精神ハ、一身ノ主宰ニシテ、而メ四肢之レカ用ヲ爲ス、又精神ハ靈知ノ存スル所、道理ノ宿スル所ナリ、故ニ精神ヲ失ヘハ、是非ヲ辨別スルコヲ得ス、動作亦自由ナカルヘキナリ、言行云爲、皆其主宰ノ命ニ依ルニアラス、事ニ觸レテ、氣之ヲ使フナリ、凡ソ其所爲ノ責ニ任スルモノハ、身ニアラスシテ、心ナリ、心ニアラスシテ、其主宰ナリ、其精神ナリ、心ハ是非ノ存スル所、自由ノ府ナリ、其府ニ長タルモノハ、精神ナリ、知府事ノ知ラサル府政ハ、府政ニアラス、精神ノ命セサル所爲ハ、其人ノ

コトナシ、然レトモ精神ノ形狀ニモ、亦種々アリ、全ク精神ヲ喪失スルニアラサレハ、其責ニ任セサルコヲ得ス、唯罪本ニ輕キヲ加フルノミ、（七八條）

〔第六三四號〕然レトモ精神ヲ喪失スルト、セサルトハ、事實ニ因ルコニシテ、法律ニ於テハ、其喪失スルコヲ、推測セサルノミナラス、却テ人ノ精神ハ、皆健全ナルモノト推測ス、固ト事理ニ於テ、然ラサルコヲ得サルナリ、豈ニ人ヲ看テ、輒チ瘋癲ナリ、惷愚ナリトスルコヲ得ンヤ、然レトモ精神ヲ喪失スルノ原由、如何ニハ拘ハラス、或ハ疾病ニ因リ、或ハ痴情ニ因リ、或ハ忿怒ニ因ル等ヲ分ツコナシ、凡ソ罪ヲ犯ス時、是非ヲ辨別セサルニ於テハ、其罪ヲ論セス、又其度ニ從ヒ、僅ニ辨別アルモ、其全カラサルトキハ、酌量シテ宥恕スヘシ、然レトモ是等皆事

實ニ因ルヿナレハ、幼者ノ𠮟ノ如ク、法律ニ於テ、推測シテ宥恕スルヿナシ、一ニ裁判官ノ意見ニ任スルノミ、

〔第六三五號〕佛國刑法第六十四條ニハ、所爲ノ時、でまんそニテアル者トアルカ故ニ、種々ノ疑義ヲ生セリ、蓋シでまんそハ、疾病ニ由リテ、精神ヲ喪失セル白癡瘋癲ノ類ヲ、イフノミノ語ナレハ、疾病ニ由ラスシテ、精神ヲ喪失セル者ハ如何スヘキヤ、法文ニテハ、分明ナラサルナリ、今我刑法ニハ、廣ク精神ノ喪失ニ因リ、是非ヲ辨別セサル者トアレハ、精神ヲ喪失スル所以ノ如何ヲ問ハス、醉狂夢癲(そんなんぴやりそむ夢妄想ナリ)ノ如キモ、皆其中ニアリ、爛醉シテ、德ヲ壞リ人ヲ害スルノ所爲ニ就テハ、世間往々異論アリ、或曰ク、酒ハ固ト狂藥ナリ、狂藥ナルヿヲ知テ、而メ醉狂スルハ、是レ敎戒ヲ破リテ、量ヲ過コシ亂ニ及フナリ、此風決シテ長セシムヘカラス、況ンヤ酒力ヲ借リテ、故ラニ道ニ違ヒ、人ヲ害スルカ如キニ於テヲヤ、故ニ醉狂シテ、罪ヲ犯ス者ハ、皆之ヲ罰スヘシト、

〔第六三六號〕然レトモ一概ニ之ヲ罰スルハ、固トヨリ非ナリ、又立法者ノ意ニモアラサルナリ、刑法草案註解ニ曰ク、醉フヘキモノナルヿヲ知ラスシテ、之ヲ飲ミ、又ハ他ノ惡計ニ陷リテ、之ヲ飲ミ、而メ醉狂セル者ハ、固トヨリ其意ニ出テサルヿナレハ、罪ヲ犯スモ、之ヲ罰スヘカラス、但シ此場合ニ於テ、本人ハ其無意ナルヿヲ證スヘシ、然レトモ故ラニ醉ヲ取ラン爲メニ、酒ヲ飲ミシトキハ、其處分頗ル困難ナリ、何トナレハ、歐洲中ノ若干ノ國、竝ニ日本ニ於テスルカ如ク、醉狂ヲ罰スルトキハ勿論、之ヲ罰セサルトキト雖モ、到底其事ハ、一過失ナレ

ハナリ、先ツ醉狂スト雖モ、故ラニ酒力ヲ借リテ、惡ヲ爲サンカ爲メニ、飲酒セシニアラサル場合ヨリ、論セン、此場合ニ於テハ、本人ノ過失ハ、唯飲酒醉狂セルニアルノミ、然レトモ從來暴行等ヲ爲スノ酒癖アリ、而メ飲酒醉狂セルトキハ、其過失タル殊ニ大ナリ、但シ何レノ場合ニ於テモ、本人カ酩酊セル程度ヲ、酩酊セサルヘカラス、總テ以上ノ場合ニ於テハ、其程度ニ從ヒ、有罪ト爲シ、又ハ無罪ト爲シ、又ハ寬宥スルヲ得ヘシト、故ニ酒力ヲ借リテ、罪ヲ犯サンカ爲メニ、飲酒セシトキニアラサレハ、飲酒醉狂ノ原由、如何ニ拘ハラス、精神ヲ喪失セルトキハ、其罪ヲ論セス、又全ク精神ヲ喪失セシニハアラサレトモ、殆ンド是非ヲ辨別スルヲ能ハサリシ者ナレハ、酌量シテ其罪ヲ宥恕スヘキナリ、

〔第六三七號〕酒力ヲ借リテ、罪ヲ犯サンカ爲メ、故ラニ飲酒セシトキハ如何、曰ク、此場合モ、亦註解ニ之ヲ詳論セリ、註解ニ曰ク、其有罪タルハ、論ヲ待タス、且ツ豫メ謀リシヲナレハ、加重ノ情狀アリトイフモ可ナルニ似タリ、然レトモ審思熟考スレハ、決シテ然ラサルヘシ、凡ソ罪ヲ犯シテ、其責ニ任スルハ、之ヲ犯スノ時ニ當リテ、辨別アリ、自由アリ、意思アルトキニ限ルヲナリ、例ヘハ人ヲ殺ス者アランニ、其此罪ヲ犯ス時ニ當リテ、忍ヒ難キヲ忍ヒテ、之ヲ犯スノ決意アルニアラサレハ、之ヲ決行スルヲ能ハサルヘシ、然レトモ此決意ハ、犯罪ヨリ以前ニハアレトモ、犯罪ノ時ニハ、是レナキナリ、是レ謀殺ト異ナリ、此罪ヲ犯サントシテ、飲酒セシ時ニハ、未タ此罪ナクシテ、僅ニ此意思アルノミ、而メ實地ニ此罪ヲ犯セル時ニハ、此意

七八條

思ハ已ニ亂レテ、主宰ノ爲メニ指揮セラルヽナキナリト、偏ニ法理ニ依テ論スルヲハ、如此クナラサルヘカラサルナリ、

〔第六三八號〕 又註解ニ曰ク最初刑法草案ニハ、罪ヲ行フカ爲メ、故ラニ爛醉シ、而メ實ニ其事ヲ行フ者ハ、罰ヲ受クヘキノ知覺アリトイフコヲ得キヲ以テ、其第九十條ニハ、罪ヲ行ハントシテ、故ラニ爛醉セル者ハ、本條放免ノ限ニ在ラストイヘル、一項ヲ置カレシカヒ、終ニ削除セラレキ、而メ又之ヲ削除スルノ說ヲ擧ケ曰ク、罪ヲ行ハントシテ、故ラニ爛醉セル者ハ、有罪ナリト明言スルヲハ、其意ナクシテ、爛醉セル者ハ、辨別ナシト推測シテ、常ニ放免セサルヘカラス、豈ニ不條理ナラスヤト、今按スルニ、此說ノミニテハ、醉狂者ヲ放免スル

カ爲メニ、夫ノ一項ヲ削除セラレシモノトハ、思ハレサレヒ、已ニ削除セラルヽニ於テハ、法理ニ悖リテ、之ヲ罰スルヿ能ハサルヘキナリ、凡ソ法理ニ違フ處分ハ、法律ノ明文ニ依ラサレハ、之ヲ行フヿヲ得ス、故ニ假令ヒ故意ニ爛醉スルモ、犯時精神ヲ喪失セハ、其罪ヲ論セサルヘキナリ、但シ其罪ヲ行フカ爲メ、故ラニ爛醉シ、而メ果シテ實地ニ其罪ヲ行ハヽ、多クハ眞ニ爛醉シテ、精神ヲ喪失セシ者トハ、思ハレサルヘシ、若シ眞ニ精神ヲ喪失セサルニ於テハ、此場合ニハ、唯之ヲ罰スルノミナラス、其情殊ニ重キヲ以テ、刑ノ上限ヲ以テ、罰シテ可ナルヘキナリ、

〔第六三九號〕 瘖啞者、罪ヲ犯セシトキモ、亦其罪ヲ論セス、唯其情狀ニ因リ、五年ニ過キサル時間、之ヲ懲治場ニ留置スルノ

ミ、(八二條)是レ亦精神ヲ喪失セル者ニ、同キヲ以テナリ、嘗テ論セシカ如ク、瘖啞者ハ、佛文原稿ニハ、そーる、みゃえトアリ、(第四六號)そーるハ聾ナリ、みゃえハ啞ナリ、聾啞ノ二語ヲ合シテ、一語ト爲セルモノニシテ、耳聽ク能ハサルヲ云フ能ハサル者ナイフ、法律ニ於テ、罪ヲ論セサルハ、耳人語ヲ聽クコトナキヲ以テ、精神アリ、知覺アリト雖モ、其用ヲ爲スコトナク、是非善惡ヲ解スルヲ得ス、全ク精神ヲ喪失スル者ト、一般ナルカ故ナリ、今法文ニハ、瘖啞者トアレハ、單ニ口言フ能ハサルノミニシテ、耳能ク聽クコトヲ得、是非ヲ辨別スルコトヲ得ル者ニテモ、其罪ヲ論セサルカ如シ、然レ𪜈法意ハ、決シテ然ルニアラサルナリ、假令ヒ口言フ能ハスト雖モ、若シ耳能ク聽クコトヲ得テ、是非ヲ辨別スルコトヲ得ル者ナランニハ、其罪ヲ論セサルヘカラス、耳聽ク能ハス、口言フ能ハサルヲ以テ、憐テ之レカ罪ヲ免スルニハアラス、其所爲ノ責ニ任セシムヘキ辨別ナキヲ以テ、罪アレ𪜈、之ヲ論セサルナリ、從前ノ老少癈疾收贖ノ條例ニイフ所トハ、大ニ其旨趣ヲ異ニス、混スヘカラス、

〔第六四〇號〕法律ニ瘖啞者ト、記載セラレシハ、蓋シ眞成ノ瘖啞者ハ、即チ聾ニシテ、口言フ能ハサル者ナルヲ、以テナルヘシ、又假令ヒ聾啞者ト記載スルモ、我文字ニテハ、佛語そーる、みゃえノ意ヲ、盡ク能ハサルヲ以テナルヘシ、聾啞者トイヒテハ、聾者ト啞者トヽイフコトニ聞エテ、聾ニシテ啞ナル者トハ、聞エサルヘキナリ、故ニ瘖啞者ト記載スルノ外、他ニ適當ノ文字ナカルヘシ、是レ已ムコトヲ得サルナリ、此種ノ文字

ニ就テハ、事理ヲ推究シ、又原文ニ參照シテ、法意ノ在ル所ヲ了解スヘシ、文字ニ拘泥スヘカラサルナリ、

〔第六四一號〕生來ノ聾者ニアラスシテ、後ニ耳聽クコト能ハサルニ至リ、爲メニ又口言フコトヲ得サルニ至リシ者ハ、如何、

曰ク、耳聽クコトヲ得ス、口亦言フコトヲ得サル者ハ、皆其罪ヲ論セサルヘシ、其生來ニ係ルト否トハ、區別スヘキニアラス、然レトモ已ニ人語ヲ解シ、是非ヲ辨別スルニ至リテ後、聾ト爲リシ者ハ、不論罪ノ限ニ在ラス、法律ノ罪ヲ論セサルハ、聾タリ啞タルカ爲メニアラスシテ、其是非ヲ辨別スルコト能ハサルカ爲メナレハナリ、而メ是非ヲ辨別スルニ至リシト否トハ、十二歳ヲ以テ別ツヘシ、即チ十二歳未滿ニシテ、舌耳ノ用ヲ爲サヽルニ至リシ者ハ、生來ノ瘖啞者ト同視シテ、

其罪ヲ論セス、其十二歳以後ニ係ル者ハ、通常ノ人ト同ク、其罪ヲ論スヘキナリ、十二歳未滿ノ者ノ罪ハ、之ヲ論セサルノ法意ヲ推シテ、此別アルコトヲ知ルヘシ、又此意ハ、草案ノ註解ニモ之ヲ明言セリ、註解ニ曰ク、法律ニ於テハ、生來聾啞者タル者モ、幼年ノ時聾啞者ト爲リシ者モ、同一ナリ、此規則ヲ實行スルニハ、滿十二歳迄ヲ以テ、右ノ幼年ノ期ト看做スヘシト、（茲ニ所謂ル聾啞者ハ即チそーる、みゑ、ナリ）

〔第六四二號〕十二歳未滿ノ幼者瘖啞者ハ、法律ニ於テ辨別ナキ者ト、推測セラル、カ故ニ、其十二歳未滿ノ幼者タリ、瘖啞者タルノ證據アルニ於テハ、其罪ヲ論セラル、コトナカルヘシ、實地ニ於テハ、十二歳未滿ノ幼者ニテモ、大人モ及ハサルカ如キ、明敏ノ者アルヘク、又瘖啞者ニテモ、敎育其宜ヲ得

テ、善ク是非ヲ辨別スル者アルヘケレヒ、決シテ其罪ハ論スルコトナカルヘシ、法律ノ此推測ハ、反對ノ證據ヲ擧ケ、之ヲ破ルコヲ許サヽルナリ、其他二十歳未滿ノ幼者ニ就テモ、是レ亦同樣ナリ、其智其才、衆ニ超エ、其識亦人ニ秀ル者アルヘケレヒ、法律ニ於テハ、血氣未タ定ラス、識量尙ホ足ラサル者ト推測シテ、常ニ其罪ヲ宥恕ス、瘋癲癡愚老疾ノ如キハ、是レニ異リテ、法律ニ於テ、其無智ナルヲ推測スルコトナシ、犯罪ノ時、實ニ精神ヲ喪失シ、是非ヲ辨別スルコト能ハサリシ證據ヲ擧ケ、以テ其事實ヲ明ナラシメサルヘカラス、然ラサレハ、放赦セラルヽコヲ得サルナリ、

〔第六四三號〕十二歳未滿ノ幼者、瘖啞者、瘋癲人等、總テ識力ナク、辨別ナキヲ以テ、其罪ヲ論セラレサル者ト雖モ、財產ニ相續スルコト、能ハサルニアラス、十三年十一月三十日第五十二號布告、第五條ニ據ルニ、死亡者失踪者等ノ家督相續、遺產相續ニ由リ、土地ヲ讓受ケ、而メ其相續ノ時ヨリ、六個月內ニ、戶長役場迄、地券書換願書ヲ差出サヽルヘシ、若シ其相續人辨別ナキ者ナルトキハ、五倍ノ科料ヲ科セスシテ、地券ヲ書換フヘキヤ、又ハ後見人管財人等ニ科料ヲ言渡シテ、書換ヲ爲スヘキヤ、曰ク、幼者ノ如キ無能力者ニシテモ、書換ヲ請求スルコヲ得ヘキヤ否ヤ、又其後見人アリト雖モ、其職掌如何ナルヤ、之ヲ區別シテ論スヘシ、理ヲ以テ論スレハ、十二歳未滿ノ幼者ノ如キハ、自ラ財產ヲ處置シ、自ラ請願訴訟等ヲ爲スコヲ、得サルヘキナリ、然レヒ法律ニ其規則ナケレハ、無能力者ト雖モ、自ラ之ヲ爲シ

テ妨ナカルヘシ、又其場合ニヨリテ、自身ニ之ヲ爲サシメサルコヲ得サルナリ、又後見人管財人等モ、無能力者ノ爲メニ、必ス之ヲ設クルニアラス、總テ無能力者、自身ニ書換ヲ請求スヘキ場合ニハ、科料ヲ言渡スコトナクシテ、書換ヲ爲スヘキナリ、又後見人ニモ、其規則ナケレハ、其權利責務ノ及フ處如何ナルヘキヤ、豫メ之ヲ知ルコヲ得サルナリ、若シ其地方ノ慣習ニ於テ、後見人ニアラサレハ、書換ヲ請求スルコヲ許サヽルトキハ、之ヲ請求スル人ノ任ナリ、後見人此職ヲ盡クサスシテ、書換ヲ請求セサルトキハ、後見人ニ科料ヲ言渡スコヲ得ヘキナリ、然レトモ後見人アリト雖モ、其職掌分明ナラスシテ、幼者ニ於テモ、之ヲ請求スルコヲ得ルカ如キトキニ於テハ、其責後見人ニノミアルニアラサレハ、後見人ヲ罰スル

コヲ得サルヘキナリ、

〔第六四四號〕過失殺傷、失火、其他總テ踈虞懈怠、無意ニ出ル罪ニ係ルトキハ如何、是非ヲ辨別スルト否トヲ別タス、之ヲ罰シテ可ナルニ似タリ、曰ク、踈虞懈怠ノ罪ハ、却テ是非ヲ辨別スルノ精密ナル者ニアラサレハ、罰スヘカラストイフテ可ナルヘシ、本分ノ固有スル所ヲ知ル者コソ、本分ニ過キ、本分ヲ失ヒシノ過失アリトイフヘケレ、本分ノ守ルヘク、職分ノ盡クスヘキコヲ、知ルノ力ナキ者ニハ、過失アリトイフヘカラス、即チ思慮ノ精密ナランコヲ責メ、職分ノ敬守スヘキコヲ責ムルハ、十分ニ辨別アリ、十分ニ自由アル者ニアラサレハ、能ハサルナリ、幼者瘋癲人ノ如キ、辨別ナク自由ナキ者ニ、望ムヘキコカハ、

〔第六四五號〕 又幼者瘖啞者ノ如キ、法律ニ於テ其罪ヲ論セサル者ハ、犯人ノ數ニ加ヘテ、論スルコヲ得サルヘシ、多數ニ因リ、刑ヲ加重スヘキヤ、例ヘハ、二人以上ニテ、盜罪ヲ犯シ、第三百六十九條、第三百七十九條ニ於テ、刑ヲ加重スルカ如キ場合ニ於テ、其中ニ幼者、瘖啞者等、法律ニ於テ其罪ヲ論セラレサル者アルトキハ、之ヲ犯人ノ數ニ加ヘテ、多數ト爲シ、其刑ヲ加等スルコヲ得サルヘシ、何トナレハ、此等ノ者ハ、罪本ナク、責任ナキヲ以テ、犯人ト稱セラルヘキ者ニアラサレハナリ、又犯罪人ナルコヲ知テ、之ヲ藏匿シ、又ハ之ヲ隱避セシメタル者ハ、第百五十一條ニ據リ、罰セラルヘシト雖モ、幼者瘖啞者ノ如キ者ヲ、藏匿シ、又ハ隱避セシメタル者ハ、罰セラルルコトナカルヘシ、總テ辨別ナク、自由ナクシテ、罪本アラス、責任アラサル者ハ、純白無罪ノ人ト爲スヘキナリ、

〔第六四六號〕 然レハ、贓物ニ關スル罪ニ就テハ如何、強竊盜、其他詐欺取財等ニ、關スル贓物ナルコヲ知テ、之ヲ受ケ、又ハ寄藏故買シ、牙保ヲ爲シタル者ハ、第三百九十九條、第四百一條ニ依リ、罰セラルヘシ、若シ幼者瘖啞者等ノ竊取シ、強奪シタル物件ナルコヲ知テ、之ヲ寄藏故買スル等ノ者アラハ如何、尙ホ之ヲ罰スヘキヤ、或曰ク、之ヲ罰スルコトナカルヘシ、寄藏故買スル者ノ情ハ、實ニ惡ムヘク、賤シムヘキモノナレトモ、竊盜ト爲ラス、強盜ト爲ラサル者ヨリ、寄藏買取セシコトナレハ、即チ純白無罪ノ人ヨリ、寄藏買取セシト同樣ナリト、余思フニ、是レ然ラサルヘシ、瘖啞者等ノ所爲ハ、罪ト爲ラサルニハアラス、固トヨリ其所爲ハ、即チ法律ノ罰スル所ノ罪ナリ、

然ルニ法律ニ於テ、之ヲ罪トセサルハ、其人ニ就キ、其事ニ限リテノコトナリ、即チ其所爲ハ、罪ナレトモ、其責ニ任セシムヘカラサルヲ以テ、其人ニ限リ、其事ニ限リテ、之ヲ罪トシ罰セサルナリ、他ノ辨別アリ、自由アル人ニ於テハ、固トヨリ罪トシ罰スル所ノモノナリ、故ニ辨別アリ、自由アル人ニ在テハ、瘖啞者等ノ竊取シ、强取セシ物件モ、亦是レ贓物ナリトセサルコトヲ得ス、已ニ之ヲ贓物ナリトスルニ於テハ、之ヲ寄藏買取セシ者ハ、亦必ス罰セサルコトヲ得サルナリ、

〔第六四九號〕是レ亦敎唆者從犯ニ就テモ、同樣ナリ、正犯タル者ノ罰セラレサルハ、責任ナキニ由ルナリ、責任ヲ負フヘキ能力アル者ハ、其責ニ任セサルヘカラス、正犯タル者ノ所爲ハ、固トヨリ法律ノ罰スル所ノ所爲ナレトモ、前ニイヘルカ

如ク、之ニ責任ナキヲ以テ、之ヲ罪トシ罰セサルノミ、責任アル者ニアラス、故ニ敎唆者ノ罰セラルヘキハ勿論、從犯モ亦罰セラルヘキナリ、刑ヲ加減スルニ就テモ、其一身ニ係ルモノハ、其人限リニシテ、他ノ正犯從犯敎唆者等ニ及ホスヘカラサルナリ、

〔第六四八號〕四脅迫○已ニ十分ノ能力アリト雖モ、外物ノ爲メニ、制縛セラレテ、其自由ヲ行フコトヲ得サルコトアリ、而メ其制縛ヲ受クルノ甚シキ、全ク自由ヲ失フニ至リ、又其甚シカラサルモ、或ハ自由ヲ滅スルニ至ルヘシ、全ク自由ヲ失ヘハ責任ナク、僅ニ之ヲ滅スレハ、罪本輕シ、其要領ハ何レノ塲合モ、皆同樣ナリ、又此制縛脅迫ハ、人ノ所爲ニ出ルコトアリ、或

ハ造化ノ變ニ出ルヿアリ、其何ニ出ルヲ論セス、縛制ヲ受ケ自由ヲ失フニ至テハ皆一ナリ、故ニ又責任ノ有無、罪本ノ小大ニ就テモ、一樣ノ効力ヲ生スヘキナリ、(七五條)

〔第六四九號〕 又脅迫ニ有形ノモノアリ、無形ノモノアリ、例ヘハ、或ハ暴行ヲ以テ抑勒監禁セラレ、或ハ震災洪水疫病等ノ爲メニ、自由ヲ失ヒ、意思ナクシテ、又怠慢ナルヿナクシテ、爲スヘキ事ヲ爲サス、爲スヘカラサル事ヲ爲スカ如キ、是レ皆有形ノ脅迫ナリ、又例ヘハ他人暴行暴威ヲ以テ、我ニ逼迫シ、又ハ氷災火災等ノ切迫シテ、其危難ノ避クヘカラサルニ至リ、其身ヲ救フノ急ニシテ、他ヲ顧ルニ暇アラスシテ、罪ヲ犯スカ如キモ亦是レナリ、此場合ニ於テハ、坐シテ危害ヲ受ケンヨリハ、寧ロ其悪事ヲ爲サントノ思ヒ、其利害ヲ計較シテ、二個

中ノ一ヲ撰ムノ心アルナルヘシ、然レトモ、其所爲ヲ刑スルニ足ルヘキ十分ノ自由ハ、是レナカルヘキナリ、

〔第六五〇號〕 脅迫ヲ受クルト雖モ、之レカ爲メ罪ヲ犯スノ權ヲ、得ルニアラス、故ニ脅迫セラルヽモ、罪ヲ犯スヘカラサルハ、固トヨリ論ヲ待タサルヿナリ、唯自由ヲ失フヲ以テ、其所爲ノ責ニ任セシメサルノミ、又果シテ自由ヲ失フヿ甚シクシテ、其所爲ノ責ニ任セシムヘカラサルヤ否ヤハ、其事情ニ由ルヿナリ、而メ之レカ事情ヲ審案センニハ、脅迫ノ爲メニ、受クヘキ危害ト、此危害ヲ避ケンカ爲メニ、爲サヽルヘカラサル惡事トノ、輕重大小ヲ比照スヘシ、危害ト惡事トヲ計較セハ、其責ニ任セシムヘキヤ否ヤヲ、知ルヿヲ得ン、而メ其輕重大小ハ、豫メ法律ニ於テ、之ヲ定ムルヿヲ得ス、一人

一事ニ就キ、裁判官ニ於テ、實地ニ之ヲ量定スヘキナリ、

〔第六五一號〕抗拒スヘカラサル強制ニ、數種アリ、或ハ直チニ我身體財產ニ、危害ヲ加ヘントスルモノアリ、或ハ親屬等ノ身體財產ニ、危害ヲ加ヘントスルモノアリ、又或ハ暴行ニ出ルモノアリ、或ハ勢威ニ出ルモノアリ、暴行ニ出ルモノハ、所謂ル有形ノ脅迫ニシテ、勢威ニ出ルモノハ、所謂ル無形ノ脅迫ナリ、有形ノ脅迫ハ、一ニ之ヲ外部ノ脅迫トイヒ、無形ノ脅迫ハ、一ニ之ヲ內部ノ脅迫トイフ、有形外部ノ脅迫ト、無形內部ノ脅迫トハ、差別スルモ、法律上ニハ別ニ其要ナシ、何レノ脅迫ニ係ルモ、其人ノ自由ヲ縛制スルニ至テハ、一ナリ、例ヘハ一暴行人アリ、我カ身體ヲ縛制シ、我カ手ヲ取テ、他ヲ刺サシム、我之ヲ欲セストハ雖モ、之ヲ拒ムノ力ナクシテ、他ヲ刺ス、是レ有形ノ脅迫ナリ、我之ヲ刺スト雖モ、其實、我之ヲ刺スニアラスシテ、我ヲ強制セシ人、之ヲ刺スナリ、故ニ我其責ニ任セス、又例ヘハ、我ニ對シテ、勢威ヲ有スル人アリ、我ヲ恐赫シテ、他ヲ刺サシム、我其命ニ循ハサレハ、彼將ニ我ヲ殺サントス、我已ムコヲ得スシテ、終ニ其命ニ循ヒ、他ヲ刺ス、是レ無形ノ脅迫ナリ、之ヲ有形ノ脅迫ニ比スレハ、僅ニ間アルモノノ如クナレ𪜈、我自由ヲ失フニ至テハ一ナリ、故ニ亦其所爲ノ責ニ任セス、

〔第六五二號〕脅迫ノ外部ニ係ルト、內部ニ係ルトヲ論セス、凡ソ我カ身體ヲ束縛セラレ、我カ身體ニ危害ヲ受クヘキ𪜈ハ、罪ヲ犯スモ、我其責ニ任セス、然レ𪜈我カ財產等ニ、損害ヲ加ヘラルヘキノミノ𪜈ハ如何、例ヘハ、人アリ、我ヲ脅迫シテ、

曰ク、汝若シ云々セサレハ、我將ニ汝カ家屋ニ、放火セント、蓋シ財產ノ如キハ、身體ノ重キニ比スヘキニアラス、如此キノ脅迫ニテハ、眞ニ我カ自由ヲ失フヘシトハ、想像セラレサルヘシ、如何、曰ク、一概ニハ、論セラレス、前ニモイヒシカ如ク、常ニ其受クヘキ害ト、其行フヘキ事トヲ、比照セサルヘカラス、內亂暴動ノ時ノ如キハ、我カ家屋ヲ燒燬セラレ、我カ器物等ヲ毀壞セラレンコヲ恐レテ、之ニ與ミシテ、罪ヲ犯スニ至ルコト、數々是レアリ、附和隨行スルニアラスシテ、脅迫セラレテ、已ムコトヲ得ス、隨行スル者ノ如キハ、則チ其罪ヲ論セサルヘキナリ、草案註解ニ曰ク、本條ニ所謂ル脅迫ハ、重大ニシテ、抗拒スヘカラサルモノナイフナリ、然レ𪜈死ヲ以テ脅迫セラレシ𪜈ニアラサレハ、殺人ノ罪ヲ赦サストイフノ理ハ、是レ

ナカルヘシ、創傷、強姦、監禁、又ハ財產毀壞ヲ以テ、脅迫スルモ、亦犯人ヲシテ、已ムコトヲ得サラシムルモノト看做スコトヲ得ヘシ、就中其犯ス所ノ事ト、脅迫セラルヽ所ノ害トヲ比照シテ、其害大ナルトキハ、如此ク看做シテ可ナリ、又裁判官ハ、脅迫ヲ受ケシ者ノ體格、年齡、身分、男女等ニ注意スヘシト、

〔第六五三號〕親屬朋友ノ身體ニ、危害ヲ加ヘント、脅迫セラレシトキハ如何、例ヘハ人アリ、脅迫シテ曰ク、汝若シ云々セサレハ、我汝カ父母ヲ殺サント、如此キ場合ニ於テモ、亦其罪ヲ論セラレサルヘキヤ、曰ク、然リ、法文ニハ、廣ク抗拒ス可ラサル強制ニ遇ヒト、アルノミニシテ、其自己ニ係ルト、他人ニ係ルトヲ、分タサルナリ、強制セラルヽ者、我ナレハ、害ヲ受クヘキ者ハ、他人ナリトモ、我カ心志ヲ亂タシ、我カ自由ヲ失フコ

アルヘシ、已ニ我カ心志ヲ亂タシ、已ニ我カ自由ヲ失フニ至テハ、危害ノ他人ニ係ルトハ、分タスシテ可ナリ、但シ此場合ニ於テハ、危害ト犯罪トノ輕重ヲ、比照スルノミナラス、又危害ヲ受クヘキ人ト、強制セラレシ人トノ交誼、愛情ノ深淺ヲ、察セラルヘカラス、法律ニ於テハ、其輕重深淺ノ程度如何ヲ、推測スルヲ、其輕重ヲ比照シ、其深淺ヲ量定スルモ、亦一ニ裁判官ノ意見ニ在リ、

〔第六五四號〕 以上ノ場合ニ於テ、罪ヲ犯シテ、其責ヲ免レンニハ、暴行威迫ノ強大ニシテ、且ツ切迫ナルモノタルヲ要ス、故ニ危害重大ナラサレハ、切迫ナリト雖モ、責ニ任セサルヘカラス、又危害重大ナリト雖モ、切迫ナラサレハ、亦責ニ任セサルヘカラス、危害切迫シテ、之ヲ避クルニ途ナク、又勢力

強大ニシテ、抗敵スヘカラサルヲ、得サルナリ、法文ニ所謂ル、抗拒スヘカラサル強制トハ、唯我カ力ノ足ラスシテ、抗敵スヘカラサルノミナラス、又危害切迫シテ、猶豫スヘカラサルモノナイフナリ、然レ𪜈是レ亦事實ニ由ルヲナレハ、豫メ之ヲ定メ難シ、一ニ裁判官ノ判定ニ任スルノミ、

〔第六五五號〕 唐律ニ曰ク、若家人共犯、止坐尊長ト、又其註ニ曰ク、於法不坐者、歸罪於其次尊長、尊長謂男夫ト、明清律並ニ我新律綱領モ亦之ニ同シ、止タ文ニ小異アルノミ、又西洋ニテモ、往昔家長ノ權力ノ強盛ナリシ時ニハ、如此クナリシナリ、婦女幼童奴隸ノ如キ、其尊長ノ命ヲ受ケ、罪ヲ犯セシ者ハ、其罪ヲ論セサリシナリ、是レ尊長ヲ敬重シ、其勢權ニ恐懼シ

テ、卑幼ハ自由ヲ失ヒ、敢テ其命ニ違フヘカラサルヲ以テナリ、此情ヲ敬畏（くをえんとうらん云る）トイフ、今亦敬畏ノ情ニ出テ、已ムコトヲ得スシテ、罪ヲ犯セシ𠮟ハ、其罪ヲ論セサルヘキヤ、歐洲諸國ノ如キハ、法律ニ對シテハ、自他平等、殆ント尊卑ノ別ナキヲ以テ、敬畏ノ情ニ出ルモ、今日ハ、其責ヲ免ルヽコトヲ得サルナリ、我國ニ於テハ、歐洲諸國ト異ナル所アリ、又明治十五年前迄ハ、共犯罪分首從ノ條ニ、明示セラレ、久ク實地ニ如此クナリシコトナレハ、今モ亦舊例ニ從ヒ、止タ尊長ヲ坐シテ、卑幼ハ論セサルヘキニ似タリ、如何、

〔第六五六號〕曰ク、止タ尊長ノ命ヲ受ケ、敬畏ノ情ニ出テシト、イヘルノミニテハ、責ヲ免ルヘカラサルナリ、此事ニ就テハ、昔日ノ律法ニイフ所ニハ、依リ難シ、又昔日ト雖モ、何レノ

罪ヲ論セス、常ニ尊長ヲノミ、坐セシニハアラス、唐律ニ曰ク、侵損於人者、以凡人首從論ト、明清律新律綱領並ニ同シ、若シ果シテ尊長專制ノ義アランニハ、如此ク區別スヘキニアラス、如何ナル塲合ニ於テモ、尊長ノミヲ坐シテ、卑幼ノ罪ハ、論セサルヘキニ、盜罪、詐欺取財、鬪歐、殺傷等ニハ、子造意ニシテ、父隨從ナレハ、即チ子ヲ以テ首ト爲シ、父ヲ從ト爲セリ、是レ理ニ於テ解スヘカラサルモノナリ、今ハ如此キ不條理ノ區別ハ、一切之ヲ廢シヽナリ、又法律ノ罪ヲ論セサルト否トハ、犯人ノ自由ノ有無ニ由ルコトナリトシテ、犯罪ノ責ヲ免カルヘキニアラス、又法律ニ於テモ、尊長ノ命ナレハ、卑幼ハ自由ヲ失フモノナリト推測スルコトヲ得ス、昔日モ一般ニ自由ヲ失フモノト推測セシニアラ

ス、故ニ今ハ其事實ニ由リテ處斷スヘシ、眞ニ尊長ノ爲メニ、拘束セラレテ、自由ヲ失ヒシモノト認ムルトキハ、其罪ヲ論セス、然ラサルトキハ、論スヘシ、是レ亦一ニ裁判官ノ意見ニ依ルコトナリ、

〔第六五七號〕 以上論セシ所ハ、皆脅迫ノ人爲ニ出ルモノナリ、然レトモ又脅迫ノ異變ニ出ルモノナキニアラス、即チ或ハ地震、或ハ洪水、或ハ火災、或ハ破船、或ハ疲病等ノ爲メニ、自由ヲ失ヒ、我カ職分ノ爲スヘキヲ知ルト雖モ、我カ意ニ任カス ルコトヲ得ス、敢テ等閑ニ付スルニアラサレトモ、之ヲ爲スヘキノ時期ヲ失ヒ、終ニ爲スコトヲ得サルニ至ルコトナキニアラス、是レ亦所謂ル、有形外部ノ脅迫ナリ、又同上ノ災異ニ由リ、我其害ヲ受ケンヨリ、寧ロ他人ヲ害シテ、我カ害ヲ免レントシ、

終ニ重輕罪ヲ犯スニ至ルコトアリ、是レ亦所謂ル無形内部ノ脅迫ナリ、

〔第六五八號〕 人爲ニ出ルト、災異ニ出ルトヲ拘ハラス、其自由ヲ失フニ至テハ一ナリ、又已ニ自由ヲ失フニ至テ一ナレハ、其責任ノ有無ニ就テモ、亦同一ノ效力ヲ生スヘキナリ、故ニ結局スル所ハ、前ニ論セシ所ト同一ナリ、嘗テ西洋ニ、三名ノ舟子アリ、大洋ニ漂泊シ、漸ク一小嶼ニ上ルコトヲ得テ、人ノ救助ヲ待ツコト久シ、未タ救助ヲ得スシテ、食先ツ盡キ、三人共ニ饑餓ニ迫レリ、一日相約シテ曰ク、三人齊ク死センヨリ、寧ロ籤ヲ探リ、之ニ當ル者ハ、其身ヲ殺シ、其肉ヲ以テ、他二人ノ食ニ當ツヘシト、終ニ其約ノ如クシ、一人ヲ殺シテ、他ハ其命ヲ全クスルコトヲ得タリトイフ、人ヲ殺シ其肉ヲ食フカ如キハ、

法律ノ極罰スル所ナリ、又破船ノ時ニ當リ、一人ハ已ニ板子ヲ拾ヒ得テ、僅ニ之ニ依リ逃レントシ、他ハ之ヲ觀テ、此板子ヲ奪ヒ、加之彼ヲ排シテ、水中ニ溺死セシムルカ如キ、亦是レ法律上罪ナキコトヲ得ンヤ、然レトモ是レ皆其自由ヲ失ヒ、其身ヲ救フノ急ニシテ、他ヲ顧ルニ暇ナキモノナリ、故ニ災異ノ時ニ於テハ、其責ニ任セシムヘカラサルナリ、

〔第六五九號〕已ニ災異ノ爲メニ、我カ自由ヲ失ヒシトキハ、自己ノ身體ヲ、防衛スルニ出テタル所爲ハ、勿論、親屬ノ身體ヲ防衛スルカ爲メニセル、所爲モ、亦其罪ヲ論セサルナリ、然レトモ人爲ノ脅迫ヲ受ケシトキハ、異ナリテ、總テ財產ニ損害ヲ生スルノミノトキナレハ、親屬ノ財產ハ、固トヨリ論ナク、自己ノ財產ニ係ルトキト雖モ、其罪ヲ免ルヘカラサルナリ、例ヘハ火災ノ爲メニ、我カ家屋ノ將ニ燒失セントスルヲ看テ、之ヲ防衛センカ爲メ、誤テ他人ヲ創傷スル如キコトアラハ、過失創傷ノ罪ハ、之ヲ免ルヽコトヲ得ス、是レ直チニ我カ身ニ對シテ、脅迫ヲ受クルニアラス、他ノ指定シテ、我ニ爲サシムル所ニモ、アラサレハナリ、強制ニ遇フトキハ、之ニ異ナリ、他ヨリ其事ヲ直指シテ、我ヲシテ、強ヒテ之ヲ爲サシム、我之ヲ爲サヽレハソコトヲ欲スルモ、得ヘカラサル難ニ遇フトキトノ別ナリ、

〔第六六〇號〕尙ホ此別ハ、第七十五條ノ法文ニモ、自ラ顯ハレタリ、第一項ニハ、其意ニ非サルノ所爲トアリ、而メ第二項ニハ、此語ナシ、又第一項ニハ、廣ク其意ニ非サルノ所爲トア

リテ、何ノ爲メニスルノ所爲タルヲ示サヽレヒ、第二項ニハ、自己若クハ親屬ノ身體ヲ、防衞スルニ出テタル所爲トアリ、故ニ身體ヲ防衞スルカ爲メナレハ、罪ナケレヒ、財產ヲ防衞スルカ爲メナレハ、罪ナキヲ得サルナリ、又第一項ニハ、其意ニ非ストアリ、之ヲ爲スノ意ナクシテ、而メ勢終ニ爲サヽルヲ得サルニ至ルナリ、故ニ之ヲ爲スノ心アリテ、之ヲ爲スキハ、其責ヲ免ルヽヲ得ス、第二項ニハ、此語ナシ、故ニ之ヲ爲スモ、尙ホ其責ヲ免ルヽヲ得、前ニ揭ケシ塲合ノ如ク、籤ヲ探リテ、他ノ當籤者ヲ殺シ、其肉ヲ食ヒシカ如キハ、是レ之ヲ殺スノ心アリ、其肉ヲ食フノ心アリ、然レヒ其責ニ任セサルナリ、第一項ノ塲合ニ於テハ、外部ノ强制ト、內部ノ强制トヲ論セス、若シ我カ一念之ヲ殺ス

ニ意アラハ、我其責ヲ免ルヽヘカラサルナリ、

〔第六六一號〕貧窮ニ迫リ饑寒ニ堪エスシテ、食ヲ盜ミ、衣ヲ盜ム等ノ如キアラハ、亦以テ其罪ヲ論シ難シ、例ヘハ日晩レ道遠クシテ、容易ニ他ノ救助ヲ得ヘカラサル時ニ於テ、僅ニ饑寒ヲ凌キ、露命ヲ繫クヘキノ衣食ヲ、盜ムカ如キハ、ニ於テハ、其罪ヲ論スヘカラサルナリ、生命ヲ保タンカトスレハ、衣食ヲ盜マサルヲ得ス、衣食ヲ盜マサランカトスレハ、生命ヲ失ハサルヲ得ス、是レ實ニ其自由ヲ失フモノナリ、然レヒ市塲其他、人ノ救助ヲ得ルヲ得ヘキノ地ニ於テハ、饑寒ニ迫リ、殆ンカ生命ヲ保ツヘカラサルノ時ト雖モ、人ノ衣食ヲ盜マハ、其罪ハ免ルヘカラサルヘシ、之ヲ盜マスト雖モ、必シモ死スルニアラサレハナリ、

況ンヤ衣食外ノ物ヲ盗ミ、又ハ許多ノ衣食ヲ盗ムニ於テヲヤ、總テ是等ノ場合ニ於テハ、其事情ヲ憐ミ、酌量シテ、減等スルコアルヘシト雖モ、罪ヲ犯セシ責ニハ、任セシメサルヲ得サルナリ、

〔第六六二號〕然レニ是レ亦事情ニ由ルコニシテ、救助ヲ得ヘキ地ナレハトテ、常ニ其責ニ任セシムルニハアラサルヘシ、千八百五十六年ノコトカイヘリ、巳里ニ一婦人アリ、其心實ニ正シキモノナレニ、如何ナリケン、不幸ニシテ、清貧洗フカ如ク、二子ヲ設ケヌレニ、殆ント之ヲ養フコ能ハス、加之第三子ヲ懷胎スルニ及ンテ、其夫ヲ失ヒ、貧困益甚シ、最初ハ多クモアラサル家財ヲ賣却シテ、僅ニ其日ヲ送リシカトモ、終ニ亦賣ルヘキ物モ盡キ果テ、今ハ如何トモスヘカラサル

ニ至リ、已ムコヲ得サルヲ以テ、一日某ノ警察署ニ到リ、其情ヲ陳シテ、長次二子ヲ救助セラレンコヲ乞フ、然レニ個ハ是レ警察官ノ預ルコニアラサレハ、警察官ハ、其乞フ所ヲ許サス、懇々說諭シテ歸ラシム、其婦巳ムコヲ得スメ、更ニ貧院ニ到リ、救助ヲ乞ヒシカトモ、貧院ニテハ、未タ其記名簿ニ記名セラレサル者ナレハ、即時ニハ救助シ難シトテ、亦其乞フ所ヲ許サス、今ヨリ八日ヲ經テ、再ヒ來ランコヲ告ケテ、婦ヲ去ラシム、婦悲哀ニ堪エス、歎息シテ曰ク、嗚呼如何ニセン、八日トイハルレニ、兒子ハ已ニ饑エニキ、八日ヲ待ツコ能ハストテ、當時四歳ノ長子ト、二歳ノ次子トヲ携ヘ、流涕シテ此ヲ退キ、終ニ之ヲ誘フテ、サン、ユースタシュトイヘル天主堂ニ到リ、二子ヲ此ニ置キ、其子ノ幸福ヲ神ニ祈誓シ、且ツ曰ク、今此子

ヲ神前ニ遺セハ、神ノ之ヲ救ハレサルコアランヤト、終ニ去テ其跡ヲ隱クセリ、其子ハ果シテ救助ヲ得、幸ニシテ其命ヲ保チヌレヒ、寥闊ナラサル地ニ、幼者ヲ遺棄セリトイフヲ以テ、(佛刑三五二條)檢察官ハ、其母ニ對シ、輕罪裁判所ニ公訴ヲ起セリ、然レヒ、檢察官ハ、自ラ被告人ノ陳述ヲ聞クニ及ヒテ、大ニ其情ヲ憐ミ、裁判官モ亦之ヲ愍ミキ、故ニ檢察官ハ、務メテ寬宥ノ處置アランコヲ請求シ、裁判官モ亦大ニ其事情ヲ原諒シ、減等シテ僅ニ十五日ノ禁錮ニ處セリ、訟廷ニ於テ、其裁判ノ局ヲ結フヤ、首トシテ檢察官ハ、竊ニ婦ニ贈ルニ物ヲ以テシ、而メ又新聞紙ニ、公判宣告書ヲ登錄シテ、世間ニ發行スルヤ、世人亦皆之ヲ憐ミテ、或ハ物ヲ與ヘ、或ハ金ヲ贈リテ、此婦ヲ救助セリトイフ、蓋シ如此キ塲合ニ於テハ、概シテ自由ヲ失ヒ、責任ナキモノナルヘケレハ、其罪ヲ論セスシテ可ナリ、

〔第六六三號〕 如何ナル塲合ヲ論セス、總テ精神自由ヲ喪失シタルヒハ、其罪ヲ論セサルヘキナリ、實地ニ於テハ、其事ニ千態萬狀アリ、一々法律ニ揭クルコヲ得ス、又此ニモ之ヲ擧ケ盡クスコヲ得サルナリ、然レヒ幼者瘖啞者等ヲ除クノ外ハ、法律上ノ推測ナキヲ以テ、每事責任ナキノ證ヲ擧ケサルヘカラス、其證擧ラサルヒハ、罪ナキコヲ得サルナリ、但シ其事ノ疑シキヒハ、法官ハ輕キニ從フヘシ、書曰、與其殺不辜、寧失不經、

〔第六六四號〕 五意思〇寘過無大、刑故無小、意思アレハ、罪本重クシテ、小ナレヒ寬宥セラルヽコトナク、意思ナケレハ、罪本

輕クシテ、大ナレ𪜈寛宥セラルヘシ、故ニ意思ノ有無ニ由リ、罪本ニハ輕重ノ差ヲ生スヘシ、然レ𪜈意思ハ必シモ罪ヲ構成スルノ元素タルニハアラス、又必シモ責任ヲ生スルノ要件タルニモ、アラサルナリ、然レ𪜈法律ニ於テハ、意思ヲ以テ、罪ヲ構成スルノ元素ト爲シ、責任ヲ生スルノ要件ト爲スヲ、原則トス、其元素ト爲ラス、要件ト爲ラサルハ、是レ變則ナリ、例ヘハ殺傷ノ如キ、其意思ナキニ於テハ、謀故殺傷ノ罪ト爲ルコナシ、盜罪放火ノ如キモ、亦然リ、其意思ナキニ於テハ、盜罪放火ノ罪ト爲ルコナシ、是レ原則ナリ、然レ𪜈過失殺傷失火ノ加キ、其意思ナシト雖モ、亦罪タルコヲ妨ケス、已ニ職分ニ違フノ過失アリテ、而メ他ヲ害スル所アルニ於テハ、之ヲ罪トシ罰スルコヲ得ヘキナリ、職分ニ違フノ過失ハ、即チ道德上ノ惡ナリ、他ヲ害スルハ、即チ社會上ノ害ナリ、已ニ道德ニ悖ル所アリ、而メ又社會ヲ害スルノ實アルニ於テハ、其意思ノ有無ハ、必シモ之ヲ論セサルナリ、(七七條)

〔第六六五號〕 意思ヲ以テ、罪ヲ構成スルノ元素ト爲スモノハ、所謂ル有意犯罪ニシテ、而メ意思ヲ以テ、罪ヲ構成スルノ元素ト爲サヽルモノハ、所謂ル無意犯罪ナリ、(第五七號)而メ無意犯罪ニ於テハ、其過失輕ク、有意犯罪ニ於テハ、其過失重シ、惡ヲ爲サヽラント爲メニ、心ヲ用ヒス、意ヲ注カサルハ、惡ヲ爲サンカ爲メニ、故ラニ惡ニ心ヲ用ヒ、惡ニ意ヲ注キシヨリモ、其情實ニ輕キヲ以テナリ、有意ノ場合ニ於テハ、刑事ノ責ニ任スルノミナラス、又多クハ民事ノ責ニモ任スト雖モ、無意ノ場合ニ於テハ、民事ノ責ニ任スルノミニシテ、刑事ノ

責ニハ任セサルヿ多シ、又刑事ノ責ニ任スルモ、有意ノ塲合ニ於ケルカ如ク、重刑ヲ以テ罰セラルヽヿナシ、

〔第六六六號〕 有意犯罪ト、其大要ハ明ナレモ、各本條ニ就キ、細ニ之レカ別ヲ立テントスルキハ、其明ナラサルモノモ亦多シ、例ヘハ第百六十二條ニ曰ク、道路橋梁等ヲ損壞シテ、往來ヲ妨害シタル者ト、又第百六十四條ニ曰ク、電信ノ器械柱木ヲ損壞シ、又ハ條線ヲ切斷シテ、電氣ヲ不通ニ致シタル者ト、又第二百九十條ニ曰ク、諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏、正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ト、又第三百六十條ニ曰ク、醫師藥商等、其身分職業ニ於テ、委託ヲ受ケタル事ニ因リ、知得タル陰私ヲ漏告シタル者ト、是等ノ塲合ニ於テ、意思ハ、何レノ事ニ在ルヲ要スルヤ、詳ナラサルナリ、道路橋梁柱

木等ヲ、損壞スルニ意アルノミナラス、往來ヲ妨害シ、電氣ヲ不通ニ致スニモ、亦意アルヿヲ要スルヤ、橋梁柱木等ヲ損壞スルニハ、意ナシト雖モ、之ヲ損壞スレハ、終ニ往來ヲ妨害シ、電氣ヲ不通ニ致スヿアルヘシ、又正數外ノ金穀ヲ、徵收スルニ意ナク、陰私ヲ漏告スルニ意ナケレハ、正數外ノ金穀ヲ受收シ、陰私ヲ說話スルモ、其罪ナキヤ否ヤ詳ナラス、此ニ揭ケシ罪ニハ佛文原稿ニハ皆故ラニ、又ハ故意ヲ以テノ語アリ、而メ又文ニ轉動アリ、其辭ノ係ル所自ラ定マルカ故ニ、有意ノヿニアラサレハ、之ヲ罰セサルヿ明ニシテ、而メ其意思ノ在ル所モ亦自ラ明ナリ、然レモ今ハ之ヲ刪除セラレシカ故ニ、其法文ノミニ就テ考フルキハ、或ハ明ナラサルモノアルヘシ、又假令ヒ之ヲ刪除セラレサルモ、我カ文ニハ轉動ナキカ

故ニ、其辭ノ係ル所、尙ホ或ハ明ナラサルモノアルヘキナリ、

〔第六六七號〕今ノ法文ニハ是レナケレヒ、草案中、故ラニノ語ア
ハ故意ヲ以テノ語アリシ箇條、大略左ノ如シ、故ラニノ語ア
リシモノ十三條、即チ第百三十二條、第百五十一條、第二百
八條、第二百七十四條、第二百九十條、第三百三十四條、第
三百五十九條、第三百六十條、第三百九十九條、第四百一條、
第四百十五條、第四百十七條、是レナリ、故意ノ語ア
リシモノ十四條、即チ第百五條、第百四十八條、第百六十二條、
第百六十四條、第二百七十三條、第四百十條、第四百十七條、第
四百十五條、第四百二十四條迄、是レナリ、
今此語ナケレハ、或ハ意思ノ有無ヲ問ハスシテ罰スルモノ
ノ如ク、聞ユルコトアルヘケレヒ、之ヲ犯スノ意ナキ時ハ、決シ

テ罰スルコトナカルヘキナリ、凡ソ罪ヲ犯スノ意ナキ所爲ハ、
其罪ヲ論セス、是レ第七十七條ニ掲クル所ノ原則ナリ、其意
思ノ在ル所ハ、尙ホ後ニ之ヲ論セン、

〔第六六八號〕又法文ニ情テ知テノ語アルモノアリ、第百二
十七條、第百八十七條、第百九十條、第百九十八
條、第二百十四條、第二百二十八條、第二百三十條ノ如キ、是レ
ナリ、又唯知テノ語アルモノアリ、第百五十一條、第百九十三
條ノ如キ、是レナリ、又圖リノ語アルモノアリ、第百五十二條、
第百七十八條、第二百四十條、第二百六十條、第四百十三條ノ
如キ、是レナリ、是等ノ場合ニ於テハ、唯其事ヲ爲スノ意アル
ノミニテハ、未タ罪ト爲スコトヲ得ス、知ル所アリ、圖ル所アリ、
且ツ其事ヲ爲スノ意アルコトヲ要ス、然ラサレハ、罪ヲ搆成ス

七七條

ルコトナシ、故ニ二樣ノ意思ナカルヘカラス、例ヘハ犯人ニ集會所ヲ給與スルニハ、意思アルモ、內亂ノ情ヲ知ラサレハ、第百二十七條ニ從ヒ、罰スルコトヲ得ス、內亂ノ情ヲ知リ、而メ又之ヲ給與スルノ意アリテ、給與スルノ意ナキヲ以テ、之ヲ拒ムト雖モ、彼ノ勢力、強クシテ、我カ家屋ヲ橫領セラレシトキハ、假令ヒ官ニ其事ヲ告ケスト雖モ、罰セラルヽコトナカルヘキナリ、又犯人ヲ藏匿スルノ罪モ、之ニ同シ、藏匿スルノ意アリト雖モ、犯人ナルコトヲ知ラス、又ハ犯人ナルコトヲ知ルト雖モ、藏匿スルノ意ナキトキハ、第百五十一條ニ從ヒ、之ヲ罰スルコトヲ得ス、例ヘハ犯人ナルコトヲ知ルヲ以テ、我之ヲ逐斥スト雖モ、彼我カ家ニ隱レテ、敢テ出テ去ラス、或ハ怠慢ニシテ、吾之ヲ官ニ告ケサル

モ、決シテ罰セラルヽコトナカルヘシ、又罪證ヲ隱蔽スル罪ノ如キモ、亦然リ、罪證タルコトヲ知リ、又意アリテ、之ヲ隱蔽スト雖モ、他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖ルニアラサレハ、罪ト爲ルコトナシ、例ヘハ我カ家宅內ニ於テ、罪證タルヘキ物件ヲ發見スト雖モ、我カ證人トシテ、又召喚セラルヽ等ノ煩ヲ省クカ爲メ、之ヲ隱蔽セシトキノ如キ、是レナリ、又他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ、其物件ノ罪證タルコトヲモ知ルト雖モ、我之ヲ隱蔽スルニアラス、他人竊ニ之ヲ我カ家宅內ニ隱蔽シ、我之ヲ知ラスシテ、其物件ヲ他物ト共ニ川河ニ投シ、又ハ毀壞スルカ如キハ、我カ所爲ヲ以テ罪證ヲ湮滅セシムト雖モ、此所爲ハ、亦罪ト爲ラサルヘキナリ、

〔第六六九號〕 又結果ニ從テ、罪ニ輕重ノ別アルモノハ、其原

因ニ意思アレハ、其結果ニハ、意思ナキモ、之ヲ罰スヘシ、例ヘハ毆打創傷ノ罪ノ如キ、毆打ニ意アレハ、兩目ヲ瞎シ、兩耳ヲ聾スル等ニハ、意ナキモ、實ニ毆打ニ原由シテ、兩目ヲ瞎シ、兩耳ヲ聾スルノ結果ヲ生スレハ、則チ第三百條一項ニ據リ、之ヲ罰スヘシ、然レトモ罪ヲ犯スノ方法ニ由リ、輕重ノ別アルモノハ、之ニ異ナリ、罪ノ本位ト爲ル所爲ト、之ヲ犯ス方法トニ、意思ナカルヘカラス、例ヘハ獄舍ヲ毀壞シ、逃走スルカ如キ、若シ獄舍ヲ毀壞スルニ於テハ、獄舍ヲ毀壞シテ逃走シタル者ヲ以テ、論スヘカラサルナリ、其他總テ犯スノ方法ニ由リ、罪ニ輕重ノ別アルトキハ、其方法ハ、即チ罪ノ加等ノ情狀ナリ、此加等ノ情狀アルヲ以テ、罪ニ重キヲ加フルモノハ、其情狀ヲ知ラサレハ、加等スヘキニアラス、故ニ之ニ意思ナカルヘカラサルナリ、又四徒三人以上通謀シテ、逃走スルカ如キ是レナリ、此三人以上ノ通謀ハ、則チ罪ノ加等ノ情狀ナリ、例ヘハ甲乙ノ四徒二人アリ、通謀シテ逃走セントス、甲ハ唯乙ト通謀セシノミナルニ、乙ハ一己ノ意ヲ以テ、更ニ丙丁ノ二人ト通謀シ、而メ四人同ク逃走ス、甲ハ其事情ヲ知ラス、逃走シテ後ニ、始メテ乙丙丁ノ通謀セシコトヲ知ル、如此キ場合ニ於テハ、乙丙丁ハ、意アリテ三人以上通謀スルヲ以テ、第百四十五條ニ據リ、各一等ヲ加ヘテ、論スヘシト雖モ、甲ハ三人以上通謀スルニ意ナキヲ以テ、加等シテ論スヘキモノニアラサルナリ、

〔第六七〇號〕 又原因ト結果ト相合シテ、始メテ一罪ヲ成シ、輕重ノ別ナキモノアリ、前ニイヒシ所ノ道路橋梁ヲ損壞シ

テ、往來ヲ妨害スル罪ノ如キ是レナリ、損壞ハ原因ニシテ、而メ妨害ハ結果ナリ、此原由アリ、此結果アリテ、始メテ一罪ヲ成スト雖モ、此場合ニ於テハ、其原因ニ意思アレハ、輒チ罰スヘシ、其結果ニハ、意思アルヿヲ要セサルナリ、故ニ損壞スルノ意アリテ、損壞スルニアラサレハ、罪ト成ルヿナシト雖モ、妨害スルノ意思ハ、其有無ヲ問ハサルナリ、例ヘハ誤テ架柱ニ船舶ヲ衝突セシメテ、橋梁ヲ損壞シ、爲メニ往來ヲ妨害セシカ如キ是レナリ、損壞シテ又妨害スト雖モ、此場合ニハ損壞ニ意思ナキヲ以テ、其罪ヲ論スルヿナシ、又例ヘハ我田ニ水ヲ引カンカ爲メニ、河溝ヲ損壞シ、又ハ道路修繕ノ事業等ニ關シテ、不平ノ念ヲ發シ、而メ之ヲ損壞シ、其目的決シテ往來ヲ妨害スルニアラスト雖モ、之ヲ損壞スルニ意アルニ於

テハ、其罪ヲ論スヘキナリ、

〔第六七一號〕以上ノ場合ヲ約言スルニ、專ラ犯人ノ目的ヲ罰スルモノアリ、情ヲ知リ事ヲ圖ルノ目的ヲ罰スルモノ、是レナリ、此場合ニハ二樣ノ意思アルヿヲ要ス、(第六六八號)又結果ニ從テ、罪ニ輕重ノ別アルモノアリ、此場合ニハ其原因ノ所爲ニ意思アレハ、其結果ニハ意思ノ有無ヲ問ハス、毆打創傷ノ類是レナリ、(第六六九號)又原因ト結果ト相合シテ、一罪ヲ成スモノアリ、此場合ニモ原因ノ所爲ニ意思アレハ、其結果ニハ、意思ノ有無ヲ問ハサルナリ、(第六七〇號)

〔第六七二號〕罪ヲ犯スノ意思ナキ場合ト、強制災異ノ場合トヲ、混スヘカラス、或曰ク、強制災異ノ場合ハ、即チ罪ヲ犯スノ意ナキ場合ナレハ、此無意ノ場合ノ規則アルニ於テハ、強

制災異ノ場合ニ就テハ、別ニ規則ヲ掲クルヲ要セサルナリト、是レ此二個ノ場合ヲ混スルノ說ナリ、強制災異ノ場合ニハ、必シモ意思ナキニアラス、或ハ意思アリト雖モ、自由ヲ失フカ故ニ、其意思全カラサルナリ、無意ノ場合ニハ、十分ノ自由アリト雖モ、意思ハ全ク是レナキナリ、一ハ自由ノ有無ヲ主トシ、一ハ意思ノ有無ヲ主トスルノ規則ナリ、是レ其別ニシテ、混スヘカラサルモノナリ、

〔第六七三號〕原則ニ於テハ、犯罪ノ意思アルニアラサレハ、之ヲ罰セスト雖モ、意思ハ必シモ犯罪ヲ搆成スルノ元素ニアラサレハ、意思ナシト雖モ、其罪ヲ論スルモノ亦多シ、余之ヲ疎虞懈怠ノ罪トイフ、或ハ意ヲ用フルノ密ナラス、或ハ意ヲ用フルノ專ラサルヲイヒ、罪トシ罰スルモノナリ、此罪ハ專ラ取締ヲ嚴ニシ、社會ノ安寧ヲ保タンカ爲メニ、罰スルモノニシテ、道德ニ於テハ、賤シムヘク、惡ムヘキ所アルニアラサルナリ、故ニ又之ヲ變則ノ罪トイフモ可ナリ、刑法中疎虞懈怠ヲ罰スル箇條、大畧左ノ如シ、第百五十條、第百七十六條、第二百八十一條、第三百十七條ヨリ第三百十九條マテ、第三百二十五條、第四百九條、第四百十條、第四百十四條、第四百二十六條第七第八等、是レナリ、其他違警罪ハ、概シテ意思ノ有無ヲ問ハスシテ、之ヲ罰スヘシ、又特別犯罪モ、概シテ意思ノ有無ヲ問ハサルヘキナリ、例ヘハ地券書換ヲ爲サヽルノ意思アリテ、爲サヽルニアラスト雖モ、六月ヲ過キテ、尙ホ書換ヲ爲サヽルトキハ、之ヲ罰スヘシ、又例ヘハ證券印紙ヲ貼用セサル罪ノ如キモ、亦然リ、意アリテ貼用セサルニアラスト雖モ、

之ヲ貼用セサルニ於テハ、亦輒チ之ヲ罰スヘキナリ、

〔第六七四號〕意思アレハ、輒チ罰シ、意思ナケレハ、多クハ罰セス、又意思アリト雖モ、或ハ全ク事實ヲ知了セス、或ハ事實ヲ誤認スルトキハ、假令ヒ自由アリ、又隨意ニ其事ヲ爲スト雖モ、罪ノ罪タル所以ヲ知ラサレハ、亦以テ罪ヲ犯スノ意思ナキモノトシ、其罪ヲ論セサルナリ、余之ヲ事實ノ錯誤トイフ、例ヘハ有夫ノ婦ヲ、處女ト誤認シテ、之ト私通シ又ハ結婚シ、二十歳以上ノ者ナリト認信シテ、二十歳未滿ノ幼者ヲ誘拐シ、贓物タルコヲ知ラスシテ、之ヲ故買寄藏シ、十二歳未滿ノ幼者タルコヲ知ラスシテ、之ニ對シテ猥褻ノ所行ヲ爲シ、阿片烟又ハ之ヲ吸食スル器具タルコヲ、知ラスシテ、之ヲ所有スルノ類ハ、皆是レ事實ノ錯誤アルモノニシテ、其事ノ罪タル所以ヲ、知ラサレハ、之ヲ罰セサルナリ、

〔第六七五號〕上文論セシ所ハ、主タル事實ニ係ル錯誤ナリ、尙ホ此錯誤ヲ以テ、犯罪ノ意思ナキモノトシ、其罪ヲ論セサルノ旨趣ヲ推シ、罪ノ加重ノ情狀ニ係ル錯誤ノ場合ニモ、亦其錯誤ニ係ル所ハ、之ヲ論セサルヘキナリ、例ヘハ官吏タルコヲ知ラスシテ、之ヲ創傷シ、(一四〇條)懷胎ノ婦女ナルコヲ、知ラスシテ、之ヲ毆打シ、(三三四條)尊屬親ナルコヲ、知ラスシテ、之ヲ殺傷スル(三六三條以下)ノ類、是レナリ、此場合ニ於テハ、殺傷ニハ、意思アレトモ、其加重ノ情タル事ハ、之ヲ知ラサレハ、此情狀ニハ、犯意ナシ、主タル事ニ、意思アレハトテ、之ヲ及ホシテ、意思ナキ從タル事ニマテ、意思アリトスヘキニアラス、法文ニ曰ク、罪本重カル可クシテ、犯ス時知ラサル者ハ、其

重キニ從テ、論スルヿヲ得ストヿ、是レ之ナイフナリ、

〔第六七六號〕例ヘハ本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ、姦所ニ於テ直ヲニ姦夫姦婦ヲ殺傷セシ片、ハ、其罪ヲ宥恕シテ、二等又ハ三等ヲ減スヘシ、(三一一條)若シ他ノ男女ノ交接スルヲ誤認シテ、己レカ妻ト做シ、其現場ニ於テ、之ヲ殺傷セハ如何、嘗テ某地ニ一夫妻アリ、而メ其夫ニ弟アリ、共ニ同居ス、夫事アリ、一日他處ニ行カントシ、妻ニ告ケ曰ク、四五日ヲ經ルニアラサレハ、歸ルヿヲ得ス、注意我カ家ヲ守リテ、歸ルヿヲ待ツヘシト、後其弟モ亦事アリ、他ニ行キテ、未タ家ニ歸ラス、而メ夫ノ將ニ歸ラントスルノ期ニ際シ、婦モ亦已ムヿヲ得サル事故アリ、他ニ行ク、婦行ニ臨ミ、隣家ノ嬸婦ニ家ヲ托シテ、之ヲ守ラシム、夫其夕家ニ歸リ、門ヲ敲クニ、堅ク鎖シテ、寂トシテ聲ナシ、時ニ夫之ヲ怪ミ、竊ニ鎖ヲ破リテ、內ニ入リ、寢室ヲ窺フニ、男女衾ヲ同クシテ臥ス、夫思フ、是レ正ニ我カ妻ト弟トノ姦通スルナリト、由テ大ニ怒リ、側ニ在ル菜刀ヲ取リ、男女ヲ刺シテ、之ヲ殺セリ、而メ後ニ之ヲ檢スレハ、豈ニ料カランヤ、其男女ハ我カ妻弟ニアラス、妻カ看守ヲ托セシ隣家ノ嬸婦ノ、其情郎ヲ誘ヒ來テ、我家ニ宿セシナリ、如此キ場合ニ於テ、罪本ト重カルヘクシテ、而メ犯ス時ニ、其重キ凡人タルヿヲ知ラサレハ、姦夫姦婦ヲ殺傷セシモノヲ以テ論シ、其罪ヲ宥恕スヘキヤヽ、

〔第六七七號〕曰ク、法文ニ所謂ル、罪本ト重カルヘクシテトハ、廣ク輕重ヲ比較シテ、其重キヿヲ知ラサレハ、則チ輕キヲ以テ論スト、イフノ意ニハアラス、一罪ニシテ、其加重ノ情狀

ヲ知ラサレハ、則チ本位ノ罪ヲ以テ、論スルナイフナリ、佛文原稿ニハ、被告人若シ罪ノ一個、又ハ數個ノ加重ノ情狀ヲ、知ラサルトキハ、之ニ附着セル、刑ノ加等ヲ受クルコトナシトアリ、今法文ニハ、唯罪本ト重カルヘクシテト、アルノミナルカ故ニ、廣ク輕重ヲ比較スルモノヽ如クニ聞ユレトモ、已ニ原稿ニハ、罪ノ加重ノ情狀トアリ、又罪本ト加カルヘクシト、イヘルハ、即チ加重ノ情狀ヲ知ラサルトキノミヲ、イフノ意ナルコト明ナリ、新律綱領、本條別有罪名ノ條ニ曰ク、若シ本條、罪名アリト雖モ、其心規避スル所アリテ、本罪ヨリ重ケレハ、其重キ者ニ從テ論ス、其罪、本重カルヘクシテ、犯ス時、知ラサル者ハ、凡人ニ依テ論ス、假令ハ、叔姪、別處ニ生長シテ、素相識ラス、姪、叔ヲ打傷シ、官司推問シテ、始テ其叔

ナルヲ知レハ、止タ凡人鬪法ニ依ル、又別處ニ竊盜シテ、大祀神御ノ物ヲ、偷得ル如キ、竝ニ犯ス時、知ラサレハ、止タ凡盜律ニ依テ論スト、明清律等モ亦如此シ、故ニ加重ノ情狀ヲ知ラサレハ、止タ罪ノ本位ヲ以テ論シ、加重ノ情狀ヲ以テ、論セサルノ意ナルコト明ナリ、然レトモ舊法ノ時ニハ、加重ノ情狀ヲ知ラサレハ、本位ヲ以テ、論セシノミナラス、又明文アリテ、本位ヲ知ラサレハ、減輕ノ情狀ニ從テ、論セシナリ、舊律ノ法文ニ曰ク、其罪本輕カルヘキ者ハ、本法ニ從フコトヲ聽ス、假令ハ、父、子ヲ毆打ノ後、始テ子ノ、父ナルコトヲ知ル者ハ、止タ父打子法ニ依ル、凡毆ヲ以テ論スヘシト、明清律亦同シ、然レトモ今ハ如此キノ明文ナシ、恐クハ又事理ニ於テモ、舊律ハ其當ヲ得タルモノニハアラサルヘシ、何トナレハ、罪ノ本末ノ分ヲ

混シテ、寛ニ失スルモノナレハナリ、

〔第六七八號〕然レハ他人ノ所有物ヲ、親屬ノ所有物ナリト誤信シテ、竊取セシカ如キ亦他人ノ所有物ヲ、竊取セシヲ以テ、論スヘキヤ、前例ニ於テ、姦夫姦婦ハ、親屬ノ所有物ニ比スヘク、他人ハ、即チ他人ノ所有物ニ比スヘシ、如何、曰ク、然リ、然リト雖モ、罪ノ加重ノ情狀ト、罪ト爲ルヘキ事實トヲ、混スヘカラス、又罪ノ減輕ノ情狀ト、罪ト爲ルヘキ事實トヲモ、混スヘカラス、他人ノ所有物ハ、罪ト爲ルヘキ事實、即チ罪ヲ構成スル元素ナリ、故ニ法律ニ於テモ、親屬相盜ノ場合ニハ、其罪ヲ論セス、即チ其罪ノ論スヘキモノナシトシ、其所爲ヲ罪トセサルナリ、夫ノ二十歳未滿ノ幼者ヲ、誘拐セシ等ニ同シ、總テ此所爲ハ、決シテ善事ニハアラサレトモ、法律上ヨリ

論スレハ、是レ人ノ自由隨意ニ、爲スコトヲ得ヘキモノニシテ、決シテ、惡事トハイフヘカラサルモノナリ、姦婦姦夫ト雖モ、人ヲ殺傷スルハ、之ニ異ナリ、殺傷ハ法律ニ於テ惡事ト爲シ、犯罪ナリトスル所ナリ、決シテ人ノ自由隨意ニ、爲スコトヲ得ヘキモノニアラス、姦淫ハ僅ニ滅輕ノ情狀タルニ過キサルモノナリ、是レ殺傷姦夫ト親屬相盜トノ、大ニ異ナル所以ナリ、又加重ノ情狀ハ、本位タル罪ノ上ニ、更ニ又重ヲ加フル情狀ナリ、故ニ此加重ノ情狀ナシト雖モ、其所爲ハ固トヨリ、法律ノ罰スル所ノ罪ナリ、本位ノ罪モ、加重ノ情狀モ、又滅輕ノ情狀モ、皆其事ト其心ト、竝ヒ備ハルニアラサレハ、罪トセス、加ヘス、又滅セサルナリ、故ニ罪ト爲ルヘキ元素ヲ知テ、而メ其事實、當ラサレハ、罪トスルコトナシ、又加重ノ情狀ヲ知テ、而

メ實ニ其情狀アルニアラサレハ、加フルコトナク、又減輕ノ情狀モ、之ヲ知テ、而メ實ニ其情狀アルニアラサレハ、減スルコトナク、其本位ノ罪ヲ以テ論スヘキナリ、

〔第六七九號〕罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラス、又ハ加重ノ情狀ヲ知ラスシテ、事實上ノ錯誤アルトキハ、或ハ其罪ヲ論セス、或ハ加等スルコトナシ、然レハ法律ヲ知ラスシテ、法律上ノ錯誤アルトキモ、亦之ニ準シテ、其罪ヲ論セス、加等スルコトナカルヘキ理ナリ、何トナレハ、罪ハ即チ法律ノ禁スル所ヲ爲シ、法律ノ命スル所ヲ爲サヽルノ謂ニシテ、而メ加等ノ情狀モ、亦法律ノ定ムル所ノモノナレハナリ、之ヲ知ラサレハ、則チ其意思ナシトイフテ可ナリ、然レトモ法律ヲ知ラサルヲ以テ、罪ヲ犯スノ意ナシトスルコトヲ許サス、又法律ニハ明文ナケレトモ、

法律ヲ知ラサルヲ以テ、加等ノ情狀ヲ知ラサルモノト爲シ、本位ニ從テ論スルコトヲ許サヽルナリ、故ニ猥褻ノ書圖ヲ、公然販賣スルコトヲ、罰スルノ法律アルコトヲ、知ラスシテ、之ヲ販賣スルモ、其罪ヲ免ルヽコトヲ得ス、又二人以上ニテ、犯シ、盜罪ニ、加等ノ明文アルコトヲ知ラスシテ、二人以上ニテ犯スモ、亦加等ヲ免ルヽコトヲ得サルナリ、

〔第六八〇號〕如此ク法律上ノ錯誤ハ、之ヲ赦宥セサルハ、是レ蓋シ法律ハ、天下之ヲ知ラサル者ナシト、看做スノ推測ニ由ルコトナリ、實地ハ、却テ大ニ此推測ト相反スルモノナキニアラサレトモ、勢如此ク推測ヲ立テサルコトヲ得サルナリ、就中各地方官カ、設定セル違警罪ノ如キニ至テハ、其法律ヲ知ラサル者、實ニ多カルヘシ、境ニ入テ禁ヲ問ヒ、邦ニ入テ俗ヲ問

フハ、古ノ禮ナリト雖モ、族人到ル處ニ、悉ク之ヲ問フ能ハサルナリ、又常ニ法律ニ從事スル學士ト雖モ、一々之ヲ知ルヿヲ得サルナリ、然レ𪜈天下皆法律ヲ知ラサル者ナシト、セサルニ於テハ、法律ヲ頒布スルモ、其法律ノ罪トシ罰スルモノ、如キハ、多クハ法律ナシト雖モ、事理ニ於テ、必ス爲スヘカラサル事ナレハ、自ラ省ルモ、其罪タルヿヲ知リヌヘケレハ、之ヲ罰シテ妨ナカルヘシ、然レ𪜈事理ニ於テ、罪ト爲ルヘキ事ニアラスシテ、取締ノ爲メニ、設ケシモノニシテ、而メ犯人實ニ其法律アルヿヲ、知ラサルニ於テハ、其過失ハ小ニシテ、其罪本ハ輕カルヘキナリ、

〔第六八一號〕第二罪犯ノ身體○身體ハ、人ノ心志氣力ヲシ

テ、其用ヲ爲サシムル所以ノ、一機械ニ過キサルナリ、故ニ責任ノ事ニ就テハ、身體ニハ、重要ノ關係ナシ、責任ヲ生スル所以ハ、犯人ノ衷情ニ在ルノミ、又罪本ノ輕重ヲ致ス所以モ、亦專ラ犯人ノ衷情ニ在レハ、罪本ニ就テモ、身體ニハ重要ノ關係ナシ、然レ𪜈諸種ノ犯罪ヲ酌量スルカ爲メニハ、身體ノ形狀モ亦之ヲ考察スヘキナリ、裁判官ハ、一人一事ニ就キ、身體ノ形狀ヲ審案シ、罪本ノ輕重ヲ酌量シテ、刑ノ範圍内ニ於テ、相當ノ處分ヲ爲スヘキナリ、

〔第六八二號〕自ラ造意シ、自ラ決斷シテ、又自ラ其事ヲ行フ者ハ、即チ其罪ノ無形ノ犯人(即チ造意者)ニシテ、兼テ又有形ノ犯人(即チ下手人)ナリ、而メ是レ常ニ多クアル所ナリ、然レ𪜈自ラ造意シ、自ラ決斷スト雖モ、自ラ手ヲ下タシテ、其事ヲ

行フコトナク、詐欺、脅迫、贈與、結約、威權等ヲ以テ、他人ニ之ヲ行ハシムルコトナキニアラス、是レ有形ノ犯人ニアラスシテ、無形ノ犯人タリト雖モ、亦之ニ其罪ヲ歸シ、其責ニ任セシムルコトヲ得ヘキナリ、但シ其情狀ニ因リ、刑ノ範圍内ニ於テ、其刑ヲ輕重スルハ格別ナリ、又有形ノ犯人ト爲リ、現地ニ其事ヲ爲スト雖モ、其無形ノ犯人ト爲ラス、心ナクシテ、體ノミアルモノアリ、夫ノ抗拒スヘカラサル强制ニ遇ヒ、又ハ災異ニ依リ、避クヘカラサル危難ニ遇ヒテ、犯セルトキノ如キ、是レナリ、此場合ニハ、之ニ罪ヲ歸シ、其責ニ任セシムヘカラサルナリ、體アリト雖モ、心ナケレハ、死屍ト一般ナリ、死屍ニハ、責ヲ負フスヘカラス、又之ヲ刑スヘカラサルナリ、

〔第六八三號〕第三罪犯ノ權利○被告人ハ、辨別アリ、自由ア

リ、又他ヲ害スルノ意アリテ、法律ノ定メテ罪トスル所ノモノヲ行フモ、未タ遽ニ目シテ罪アリトスルコトヲ得ス、唯之ヲ行フノ權アルノミナラス、或ハ之ヲ行ハサルヘカラサルノ職分アルコアリ、其所爲ニハ、罪本タル過失ナキノミナラス、却テ或ハ稱譽スヘキ功勞アルコアリ、若シ其權利ヲ搆成スル所以ノ條件ニ缺クルコアルニ於テハ、罪本アルコトヲ免カレス、然レトモ尚ホ其刑ヲ減輕スヘキナリ、如此クナルカ故ニ、罪犯ノ衷情身體ニ就キ、罪本ノ有無大小ヲ論定スルトキハ、更ニ其權利ニ就キ、罪本ノ有無大小ヲ論定セサルヘカラサルナリ、

〔第六八四號〕第一正當防衛ノ權○人獸ノ別ナク、凡ソ生ヲ此世ニ保ツモノハ、皆其身體生命ヲ防衛スルノ權ヲ、有セサ

ルハナシ、社會カ刑法ヲ設ケ、以テ罪人ヲ罰スルモ、亦此意ニ基クコトナリ、而メ社會カ罪人ヲ罰スルコトヲ得ルハ、又各人皆自ラ其身體生命ヲ防衛スルノ權アルニ由ルナリ、此權ヲ正當防衛ノ權（佛語れじちむで ふぁんす）トイフ、正當防衛ノ權ニ出ル所爲ナレハ、假令ヒ其所爲、法律ノ罰スル所ナルモ、其罪ヲ論セラルヽコトナカルヘシ、（三一三條）此事件ニ就テハ、尚ホ後ニ詳論スヘケレハ、此ニハ之ヲ贅セス、

（第六八五號）第二本屬長官ノ命令○法律ノ罪トシ罰スル所爲ナルモ、正ク本屬長官ノ命令ヲ受ケタルニ於テハ、其罪ヲ論スルコトナシ、其所爲ハ、則チ意思アリ、自由アリ、辨別アリテ、行フモノナリト雖モ、職務ヲ以テ爲シタルモノナレハ、其責ニ任セシムルコトヲ得ス、却テ之ヲ爲サヽルニ於テハ、其責

ニ任セシメラルヘシ、本人ハ、之ヲ爲スノ權利アルノミナラス、多クハ之ヲ爲スノ義務アリ、故ニ刑法ノ處分ヲ受ケサルノミナラス、民事ノ要償モ、亦之ヲ受クルコトナカルヘシ、（七六條）

（第六八六號）本屬長官ノ命令ヲ受クルニ於テハ、假令ヒ其所爲、法律ニ背キテ、重罪タリ、輕罪タルヘキモノナルモ、屬官ハ、尚ホ之ヲ爲スノ權利アリ、職分アリテ、刑事ノ責ニ任セサルヘキヤ、曰ク、第七十六條ニ曰ク、本屬長官ノ命令ニ從ヒ、其職務ヲ以テ、爲シタル者ト、故ニ其命令スル者ハ、則チ本屬長官ニシテ、而メ其屬官ニアラス、故ニ本屬長官ノ命令スル所務內ノ事ニ係ラサルヘカラス、之ヲ奉スル者ハ、則チ其職權內ノ事ニ係ラサルヘカラサルナリ、之ヲ命スル

者ハ、其職權ヲ以テシ、之ヲ奉シ、之ヲ行フ者モ、亦其職務ヲ以テセサルヘカラス、已ニ其職權ニ出テ、其職務ニ係ルキハ、其所爲ハ、固トヨリ重罪タリ、輕罪タルヘキモノナリト雖モ、其罪ヲ論スルヿナシ、初メヨリ其所爲、重罪タリ、輕罪タルモノニアラサレハ、本屬長官ノ命令ニ出ルト、出テサルトハ、論スルニ及ハス、茲ニテハ、其所爲ハ、當然重罪タリ、輕罪タルヘキモノナレヒモ、本屬長官ノ命令ヲ受ケ、其職務ヲ以テ、爲ス所ナルヲ以テ、其責ニ任セシメサルナリ、

〔第六八七號〕 如此ク、本屬長官ノ職權ヲ以テ命シ、其所屬官吏ノ職務ヲ以テ、行ヒタル所爲ノ、罪トシ罰セラレサルハ、是レ法律ノ執行ニ係ルヲ以テナリ、故ニ直ヲニ法律ノ執行ニ係ル所爲ハ、亦之ヲ罪トシ、罰スルヿナカルヘシ、人ヲ殺スハ、

法律ノ重罪トシテ罰スル所ナリ、裁判官、死刑ヲ宣告シ、司法卿之ヲ命令シ、檢察官、其執行ヲ司リ、獄丁之ヲ決行スト雖モ、司法卿、裁判官、檢察官ハ、此重罪ノ敎唆者タルニアラス、獄丁ハ其下手人タルニアラス、司法卿、裁判官、檢察官ハ、皆法律ヲ執行スル者ニシテ、而メ獄丁ハ、其本屬長官ノ命令ヲ執行スル者ナルカ故ナリ、而メ立法官カ、此法律ヲ制定スルハ、是レ社會カ有スル、依理自防ノ權ヲ行フナリ、故ニ立法官モ、亦人ヲ殺スノ法律ヲ設ケテ、而メ其責ニ任スルヿナシ、

〔第六八八號〕 刑法草案第八十八條第三ニ曰ク、法律ヲ執行シ、又ハ本屬長官ノ職務ヲ以テ、命令シタル事件ヲ、執行シタル時ト、今法文ニハ、法律ヲ執行シタルノ語ナシト雖モ、法律ノ執行ニ係ル所爲ナレハ、之ヲ罪トシ論セサルヘシ、是レ蓋

シ言ヲ待タサルコトナリ、本屬長官ノ命令スルハ、是レ即チ法律ヲ執行スルニ外ナラサルコトナリ、法律ヲ執行シテ、命令ヲ下タセシトキニアラサレハ、其命令ハ、職權外ノモノニシテ、長官モ罪アルコトヲ免レス、之ヲ奉セシ屬官モ、職務外ノコトナレハ、亦罪アルコトヲ免レサルナリ、然レトモ法律ノ正否ハ、論スルニ及ハサルナリ、假令ヒ不正不當ノ法律ナルモ、其廢セラレサル限リハ、必ス之ヲ遵守セサルヘカラス、故ニ長官ハ不正不當ノ法律ナルモ、之ニ循テ命令セサルコトヲ得ス、屬官モ亦其命令ニ從テ、事ヲ行ハサルコトヲ得サルナリ、已ニ頒行ノ法律アリ、之ニ循テ命令シ、從テ事ヲ行フニ於テハ、假令ヒ其法律ハ、不正ニシテ、而ノ其命令モ、亦從テ正シカラス、之ニ由テ其處分モ、亦正シカラスト雖モ、長官屬吏ハ共ニ其罪ヲ免ルヘキナリ、又此不正ノ法律ヲ制定頒行セル立法官モ、亦刑事ノ責ニ任スルコトナカルヘシ、是レ天命ヲ奉シ、衆望ニ從ヒ、其位ニ在リ、其職ヲ行フヲ以テ、制定頒行セルモノナレハナリ、且ツ或ハ其職ニ違フ所アルモ、罪ヲ犯スノ意ナキモノニシテ、而ノ又何レノ國ノ法律ニ於テモ、立法官ヲ責ムルニ、刑法ヲ以テスルコトナケレハナリ、但シ如此キノ極處ハ、國體ニ關スル至重至大、敢テ容易ニ論スヘキコトニアラス、又一朝一夕ニ論シ盡クスヘキコトニアラス、而メ刑法ノミニ就テハ、必シモ如此ク極論スルコトヲ要セサレハ、茲ニハ之ヲ述ヘサルナリ、

〔第六八九號〕前ニ論セシカ如ク、法律命令ヲ執行シテ、其所爲ノ正當ナランニハ、法律命令ニ定ムル所ノ、一切ノ條件ニ從テ、之ヲ行ハサルヘカラス、例ヘハ逮捕官吏ノ人ヲ逮捕セ

ソコハ、唯令狀ヲ携帯スルノミナラス、尙ホ且ツ治罪法ニ定ムル所ノ、程式ニ從ハサルヘカラス、令狀ヲ携帶スルモ、立會人ヲ取ラス、又ハ夜中ニ人ヲ逮捕シ、又ハ監倉ニアラサル處ニ、之ヲ監禁スル等ノ、コトアルトキハ、不正ニ人ヲ逮捕シ、監禁シタルノ罪ヲ、免ルヽコトヲ得ス、又況ンヤ令狀ヲ携帶セスシテ、人ヲ逮捕監禁スルトキニ於テヲヤ、故ニ基礎ノ要件ト、程式ノ要件トヲ具備セサルヘカラス、然ラサレハ罪アルコトヲ免レサルナリ、

〔第六九〇號〕然レハ本屬長官ノ命令ヲ受クルト雖モ、唯法律ニ違フノミナラス、重罪タリ、輕罪タル所爲ヲ行フニ於テハ、常ニ刑事ノ責ヲ免ルヘカラサルヤ、或曰ク、長官其職權內ノ事ヲ命シ、屬吏其命令ニ從フテ、行ヒタル事ノ罪ト爲ラサルコトハ、法律ノ明文ヲ待タサルコトナリ、第七十六條ハ、本屬長官其職權內ノ事ヲ命シタル場合ノ爲メニ、設ケタルモノニアラス、此場合ハ、事理ノ當然ニシテ、イハヽシテ可ナルモノナリ、然ルニ法律ニ於テ、故ラニ第七十三條ノ明文ヲ揭ケタルハ、是レ本屬長官其職權外ノ事ヲ命シタルトキノ爲メナリ、例ヘハ檢事故意ヲ以テ罪ナキ者ニ對シ、令狀ヲ發シ、巡查ヲシテ、之ヲ執行セシメタルカ如キ場合ノ爲メニ、第七十六條ハ、設ケタルモノナリ、此場合ニ於テ、其所爲タル固トヨリ罪タリト雖モ、巡查ハ檢事ノ命令ヲ以テ、正當ノモノナリト信シテ、之ヲ執行セシモノニシテ、惡意ヲ以テ爲シタルコトアラサレハ、法律ニ於テハ、檢事ヲ罪アリトシテ罰スルモ、巡查ハ

〔第六九一號〕　余思フニ、此說ハ、法意ニ違ヒ法理ニ戻ルモノナリ、刑法草案第八十八條第三項(今第七十六條)ノ註解ニ曰ク、長官ノ命令ヲ執行スル者ノ罪ナキハ、其長官職掌中ノ事ヲ命令セル片ニ限ルヘシト、又曰ク、命令ヲ下スヘキ長官ノ命令ナリト雖モ、分明ニ法律ニ背キテ、不法ノモノナキニシモアラサルヘシ、例ヘハ軍隊ノ指揮官、其兵士ニ命シテ、無辜ノ人民、又ハ政府ノ官吏ニ發砲セシムルカ如シ、兵士ハ固トヨリ將官ノ命令ニ循フヘキ者ナリト雖モ、如此キ不法ノ命令ヲ執行スル片ハ、其兵士ハ、全ク罪ナキ者トハ看做シ難シ、此場合ニ於テハ、長官ノ命令ニ循ハスシテ受クヘキ害ハ、其命令ニ循テ爲スヘキ害ヨリハ大ナリ、故ニ其所爲ハ、法律ノ放免スル限ニアラサルヘシト、註解ニイフ所、如此クナレハ、

長官ノ職權外ニ係ル命令ヲ執行シテ、法律ノ罰スル所ノ所爲アルニ於テハ、其罪ヲ免ルヘカラサルハ、分明ノコトナルヘキナリ、

〔第六九二號〕　又法理ニ據テ論スル片ハ、長官ノ命令ヲ下タシ、屬吏ノ之ヲ奉スルハ、共ニ其職掌内ノ事ニ限ルヘシ、已ニ其職掌ニアラサレハ、長官モ、長官タルニアラス、屬官モ、屬官タルコアラス、皆是レ尋常一樣ノ人民ナリ、尋常ノ人民ニ在テハ、命令スル者ハ、即チ敎唆者ニシテ、之ニ循テ手ヲ下タシタル者ハ、正犯ナリ、職權ヲ行フモノコソ、官吏トイフヘケレ、職權外ノ事、職務外ノ事ニ就テハ、官吏ニハアラサルナリ、例ヘハ會計事務ニ係ル長官モ、亦長官ナリ、其屬官モ亦屬官ナリ、然レ片會計官吏ハ人ヲ逮捕監禁シテ、之ニ死

七六條

刑ヲ施スカ如キコトヲ得ス、假令ヒ長官ノ命ナリト雖モ、會計官吏ニシテ、如此キ命ヲ下タシ、又之ヲ奉シテ、人ヲ逮捕監禁シ、加之人ヲ死ニ處サハ、如何、會計ノ長官ハ、此命ヲ下タスノ職權ナク、其屬吏モ亦此命ヲ奉スルノ職務ナシ、命ヲ下タシタル者モ、奉シタル者モ、共ニ殺人ノ罪ヲ免ルヘカラサルナリ、然レハ撿事カ故意ニ令狀ヲ發シテ、巡查ヲシテ無辜ノ人ヲ逮捕セシメタルトキモ、亦撿事巡查共ニ、不法監禁ノ罪ヲ免ルヘカラサルナリ、之ヲ會計官吏ニ比スレハ、或ハ五十歩百歩ノ差アルヘシト雖モ、其職掌ニ違フニ至テハ一ナリ、

〔第六九三號〕命セラルヽ所ノ所爲ノ罪タルヘキヤ否ヤ、分明ナラス、就中屬官ニ於テ、之ヲ識別スヘカラサルトキニ於テ

ハ、屬官ハ其罪ヲ免ルヘキヤ、曰ク、其罪ヲ免ルヘシ、然レトモ此場合ニ於テハ、長官ノ命令ヲ執行セシカ爲メニアラスシテ、罪ヲ犯スノ意ナキ所爲ナルヲ以テナリ、概シテ屬官ハ、長官ノ如クニ、其事實ヲ詳悉スルコトナク、又概シテ長官ノ命スル所ハ、正當ノモノニシテ、其不正當ナルハ、稀有非常ノコトナレハナリ、故ニ又概シテ長官ノ命令ニ依ルトキハ、屬官ハ、罪ヲ犯スノ意ナキモノト推測セラルヘキナリ、本屬長官ノ命令ナリト雖モ、其不當不正ナルヲ能ハスト雖モ、然レトモ概シテ屬官ハ、當然ニシテ罪ヲ免ルヽヘシ、故ニ其所爲ノ不正不ノト推測セラレテ、其罪ヲ免ルヽヘキコトヲ知リ、而メ故意ニ其命令ヲ執行セシトキニアラサレハ、罰セラルヽナカルヘシ、就中職權ノ妄

用ニ係ル罪ニ就テハ、屬官ハ、其長官ノ命令ヲ奉スルニ於テハ、其罪ヲ免ルヘシ、此場合ニ於テハ、其不當不正ノ責ニ任スル者ハ、獨長官ノミナルヘシ、但シ此場合ト雖モ、屬官其不當不正ニシテ、長官權限外ノ處分ニ係ルコトヲ知テ、行ヒタルトキハ、其罪ヲ免ル能ハサルヘシ、

〔第六九四號〕　又法意ヲ誤解シテ、之ヲ執行セシトキモ、亦前ニ同シ、故意ニ法意ニ違フテ、之ヲ執行セシトキハ、罪ヲ免ルヘカラスト雖モ、其誤解ニ出ルモノハ、罪ノ論スヘキナシ、刑法草案第八十九條ノ註解ニ曰ク、法律ノ命スル所ニ循ヒ、一事件ヲ執行シタル者ノ罪ナキハ、言ヲ待タス、加之法律ノ意ヲ誤解シテ、之ヲ執行シタル者モ、亦罪ヲ論セサルナリ、何トナレハ、此者ハ、罪ヲ犯スノ意ナケレハナリト、然レトモ法律ヲ知ラ

サルヲ以テ、犯スノ意ナシトスルトキモ、亦犯スノ意ナシトスルコトヲ得サレハ、誤解ニ出ルニ似タリ、然レトモ是レ大ニ異ナリ、混スヘカラス、法律ヲ知ラサル場合ニ於テハ、惡事ヲ行フノ意アリ、法律ノ誤解ニ出ル場合ニ於テハ、惡事ヲ行フノ意ナシ、偏ニ法律ノ命スル所、如此クナラサルヘカラスト誤信シテ、法律ヲ行ヒ、而メ其結果ノ終ニ惡ニ陷ルヲ、其原因ハ、惡ニアラス、一ニ法律ニ循フノ意ニ出ツルナリ、之ニ反シテ、法律ヲ知ラサル場合ニ於テハ、唯其結果ノ惡タルノミナラス、其原因モ亦惡タリ、即チ此惡ヲ行フノ意ニ出ツレハナリ、一ハ原因、正クシテ、而メ結果正シカラス、一ハ原因結果共ニ皆不正ナリ、是レ其別ナリ、

〔第六九五號〕　以上ノ不論罪、宥恕減輕ハ、普通ノモノニシテ、

何レノ罪ニモ、之ヲ適用セサルハナシ、而メ尚ホ此外ニ特別ノモノアリ、法律ハ、各本條ニ於テ、別ニ之ヲ記載セリ、正當防衛、親屬容隱、親屬相盜、正當發怒、殺傷姦夫姦婦ノ類、是レナリ、是等ハ其事件ニ限リ、赦宥スルモノニシテ、他ノ事件ニハ、之ヲ適用スルコトナシ、然レトモ普通ノ宥恕ハ、以上ノモノニ限ルニアラス、以下論スル所ノ自首減輕、酌量減輕ノ如キモ、亦是レ普通ノモノナリ、總テ刑法ノ總則中ニ在ルモノハ、皆普通ノモノニシテ、何レノ罪ニモ、適用セサルハナシ、今之ヲ別ヲテ、二ト爲ス、一ハ法律上ノ赦宥ニシテ、一ハ事實上ノ赦宥ナリ、酌量減輕ハ、即チ事實上ノ赦宥ニシテ、其他ハ普通ト特別トヲ論セス、皆法律上ノ赦宥ナリ、法律上ノ赦宥ハ、直チニ法律ノ與フル所ナレハ、裁判官、之ヲ與ヘサルニ於テハ、檢察官

被告人ハ、竝ニ上訴シテ、之ヲ得ンコトヲ求ムルコトヲ得、然レトモ事實上ノ赦宥ハ、之ニ異ナリ、是レ法律ニ於テ、裁判官ノ意見ニ一任スル所ナレハ、之ヲ與フルト否ト、全ク裁判官ノ意見ニアリ、他ヨリ强ヒテ求ムルコトヲ得サルモノナリ、是レ法律上ノ赦宥ト、事實上ノ赦宥トノ別ナリ、（八四條）

〔第六九六號〕已ニ論セシカ如ク、其罪ヲ歸シ其過ヲ責メンコトハ、是非ノ心アリ自由アル者ナラサルヘカラス、自由アリト雖モ、是非ノ心ナキコトヲ於テハ、其罪ヲ歸シ、其過ヲ責ムヘカラス、故ニ禽獸ノ如キハ、罪過アルモ、之ヲ責罰スヘカラサルナリ、古昔ハ東西洋諸國ニ、禽獸ヲ責罰セシ例アレトモ、是レ皆道理ノ明ナラサルニ出テシコトナリ、今日文明ノ國ニ於テハ、決シテ如此キコトナシ、禽獸ヲ責罰スヘカラサルハ、言ヲ待タ

サルコトナレドモ、夫ノ無形人ナルモノハ、其罪過ヲ責罰スルコヲ得ヘキヤ否ヤ、分明ナラサルナリ、所謂ル無形人（佛語ペるそんぬ、もらる又之ヲ法律上ノ人トモイフ、ぺるそんぬ、じゅりすてく）トハ官院省府縣郡區町村會社等、數人相集テ一體ヲ爲シ、權利ヲ有シ、義務ヲ負フヲ得ルコト、猶ホ吾人ノ如クナル者ヲイフ、而メ如此ク權利ヲ有シ、義務ヲ負フヲ得ルコハ、是レ法律ニ於テ認ムル所ナルヲ以テ、又之ヲ法律上ノ人トモイフナリ、此無形人ハ、民事ニ於テ、權利ヲ有シ、義務ヲ負フハ勿論、公事ニ於テモ、亦然ルナリ、官院省府縣等ノ政令ヲ施スハ、是レ公事ニ於テ、無形人カ權利ヲ行ヒ、義務ヲ盡クスナリ、已ニ如此ク權利アリ、義務アルニ於テハ、刑事ノ責ニモ、亦任セシムルコヲ得ルニ似タリ、

〔第六九七號〕　無形人ハ、素ト眞ノ人ニアラス、法律ニテ、看テ假ニ人ト做スモノナリ、故ニ無形人ハ其體アリテ、而メ其心ナシ、即チ刑事ノ責ニ任セシムヘキ、是非ノ心ト自由ナシ、此心ナク、此自由ナキニ於テハ、眞個ノ人ト雖モ、罪ヲ論セラレス、況ンヤ人ニアラサルモノニ於テヲヤ、然レトモ無形人タル會社等ノ管理人、又ハ其社員等ノ所爲ニ、公害アルトキハ、之ヲ解散セシムルコアリ、是レ之ヲ罰スルカ如クナレトモ、決シテ刑法上ノ處分ニハアラスシテ、行政上ノ處分ナリ、或ハ條件ヲ定メテ解散ヲ命シ、而メ裁判所ヲシテ、之ヲ宣告セシムルコトアルヘケレトモ、是レ人民ノ自由權利ヲ重ンスルニ出ルモノニシテ、刑法ヲ以テ論スヘキモノニアラス、又民事ノ責任ノ如キモ、過失ニ基クモノナレハ、是非ノ心

ナキ者ニハ、之ヲ負フスルコトヲ得ストイフヲ得ヘシ、然レ𪜈
契約ヲ結ヒ、權利者ト爲リ、義務者ト爲ルコトヲ許スニ於テハ、
其契約ニ違ヒ、權利ヲ妄用シ、義務ヲ盡サヽル等ノ過失アル
ニ於テハ、其責ニ任セシメサルコトヲ得サルナリ、又民事ノ責
任ハ、財產ノミニ係ルモノナレハ、實地ニ之ヲ行フコトヲ得レ
𪜈、刑ノ責任ノ身體ニ係ルモノニ至テハ、無形人ニ對シ、實地
ニ之ヲ行フコトヲ得サルナリ、是レ眞人ト假人トノ別ナリ、故
ニ刑事ノ被告ト爲ル者ハ、眞個有形ノ人ニ限ルヘシ、假定無
形ノ人ハ、刑事ノ被告ト爲ルコトナシ、
〔第六九八號〕一ニ道理ノミニ據テ、論スルヲハ、道心アリ、自
由アル者ハ、其犯セル罪ニ就テハ、總テ責ニ任シ、刑ヲ受ケサ
ルコトヲ得サルナリ、決シテ之ニ反スルノ變則アルヘカラス、

然レ𪜈社會ノ爲メニスル刑法ナレハ、唯至正至直ノミニ基
クニアラス、又社會ノ便宜ニ據ラサルコトヲ得サルナリ、若
シ社會ノ爲メニ便ナラスンハ、至正至直モ、亦何ノ用ヲカ、是
レ爲サン、故ニ道理ヲ以テ、本ト爲スト雖モ、常ニ社會ノ公益
ニ參酌スル所ナカルヘカラサルナリ、此公益ノ爲メニスル
所アルヲ以テ、多少正理ニ違フ所アルモ、權宜便法ヲ設ケサ
ルコトヲ得ス、夫ノ共和政體ノ國ニ於テハ、大統領ナル者ハ、普
通ノ犯罪ノミナラス、職務上ノ犯罪ニ就テモ、亦其責ニ任シ、
刑ヲ受クヘシト雖モ、君主政體ノ國ニ於テハ、君主タル者ハ、
決シテ刑事ノ責ニ任シ、刑ヲ受クルコトナカルヘシ、大統領ノ
責ニ任スルハ、唯道理ニ於テ、然ルノミナラス、又其政體ニ於
テモ、然ラサルコトヲ得サレハナリ、君主ノ責ニ任セサルモ、亦

其政體ニ於テ、然ラサルコトヲ以テナリ、君主政體ノ國ニ於テハ、君主ヲシテ責ニ任シ、刑ヲ受ケシムルトキハ、爲メニ國政ノ廢スルノミナラス、又國體ト正ニ相反スヘシ、其國ノ公害、是ヨリ大ナルハナシ、已ニ此政體タルニ於テハ、夫ノ天人共ニ棄ル所ノ獨夫ノ如キハ、之ヲ知ラス、其他ハ、公罪トモ私罪トヲ論セス、總テ君主ハ、其責ニ任セシムヘカラサルナリ、而メ此原則ハ、或ハ法律ニ之ヲ明示スルモノアリ、或ハ之ヲ明示セサルモノアリ、蓋シ法律ニ明示セスト雖モ、政體上自ラ然ラサルコトヲ得サルナリ、故ニ君主政體ノ國ニ於テハ、君主ハ刑事ノ被告ト爲スコトヲ得ス、

附言　亞墨利加合衆國ニ於テハ、千八百八十七年九月十七日建國法、佛國ニ於テハ、共和三年フリュメル月五日ノ建國法、千八百四十八年十一月四日ノ建國法等ニ、大統領ノ責任ヲ負フヘキコトヲ定メタリ、又佛國千七百九十一年九月三日ノ建國法ニハ、王ノ身ハ、神聖ニシテ侵スヘカラサルモノナリトアリ、又千八百十四年ノ憲章(法律ノ名)モ、同文ヲ載セタリ、是レ皆刑事ノ責ニ任セシメサルモノナリ、加之佛國其他ノ國ニ於テモ、國會議院カ、議場ニ於テ、討議中ハ、誹謗讒謗等ノ罪ヲ犯スモ、其責ニ任セシメサルコトセリ、合衆國千七百八十七年九月十七日ノ建國法ニ、之ヲ定メタリ、又佛國ニテハ、千七百九十一年九月三日、共和三年フリュクチドル月五日ノ建國法ニ之ヲ定メタリ、且ツ佛國共和八年フリュメル月二十二日ノ建國法ニテハ、此意ヲ握充シテ、元老院、立法議院、

參議院等ノ會議中ニ於テスル、職務上ノ犯罪ニハ、責任ナキコトセリ、

〔第六九九號〕 曲禮ニハ、刑不上大夫ノ文アリ、又支那律ニハ、古ヨリ八議ノ法アリ、(周禮ニハ、八辟トアリ、)司寇刑官ノ職ノ條ニ曰ク、以八辟麗邦法、附刑罰、一曰議親之辟、二曰議故之辟、三曰議賢之辟、四曰議能之辟、五曰議功之辟、六曰議貴之辟、七曰議勤之辟、八曰議賓之辟ト、唐律以下、其目ニ前後スルモノアレ𪜈、皆同シ、我國ノ太寶律ニモ、六議ノ法アリ、(制度通ニ曰ク、本朝ノ制、全ク唐ノ制ニヨリテソノ內ニ勤賓ノ二ケ條ヲケヅリテ、是ヲ六議ト云、議勤ノ一條ハ、議功ノ條ト相通スルユヘニ、是ヲ削ラルヽト見ヘタリ、)又議賓ノ一條ハ、本朝イニシヘヨリ、一姓ニシテ、前代勝國ノ子孫ナキユヘニ、又是ヲ除カル云々、)皆刑事ノ責ヲ免スルモノニ似タレ𪜈、決シテ之ヲ免スルノ法ニハアラス、唯其人ヲ重ンスルカ故ニ、敢テ曹司ニ委シテ、專決セシメス、奏請シテ、決ヲ上裁ニ取ルノミナリ、

孟子ニ曰ク、桃應問曰、舜爲天子、皐陶爲士、瞽瞍殺人、則如之何、孟子曰、執之而已、然則舜不禁焉、曰夫舜惡得而禁之、夫有所受之也ト、孟軻カ論セシ所ノ如クナランニハ、上古ニ在テハ、天子ノ父ト雖モ、亦常人ト同ク、處分スルノミ、夫ノ八辟ノ法ノ如キハ、蓋シ周以後ノ制ナルヘシ、而メ此制ハ、今ノ治罪法ニ於テ、皇族勅任官等ノ犯罪ハ、高等法院ナシテ、裁判セシメ、敢テ普通裁判所ニ委セサルト、一般ノ旨趣ナルヘシ、之ヲ刑事ノ被告トスルニ至テハ、更ニ一般人民ト異ナルコトナシ、

〔第七〇〇號〕 又此外ニ、萬國公法ニ據リ、刑事ノ被告ト爲ス

コヲ得サルモノアリ、全權公使(佛語あんばさづーる)及ヒ其家族等是レナリ、全權公使
際官(あじゃん、ぢぷろまちく)交際官ノ被告ト爲スヘカラサルハ、是レ治外法權ヲ有スル
ヨ由ルナリ、即チ使命ヲ奉シテ、外國ニ在リト雖モ、其自國ニ
在ル者ト、看做スヲ以テナリ、蓋シ兩國ノ交際ヲ全カラシメ
ントスルニハ、如此ク之ニ治外法權ヲ與ヘサルコヲ得サル
ナリ、加之我國ニ於テハ、外國條約ニ據リ、概シテ外國人ハ、皆
治外法權ヲ有スルヲ以テ、唯交際官等ノミナラス、尋常人民
ト雖モ、外國人民ハ、我國ニ於テ、刑事ノ被告ト爲スコヲ得サ
ルナリ、但シ尋常人民ハ勿論、交際官ト雖モ、全ク刑事ノ責任
ナキニハアラサルナリ、唯我國ニ於テ其罪ヲ責メサルノミ、
其本國ノ法律ニ據リ、本國裁判所ニ於テ、其罪ヲ問ハルヘキ

ハ、論ヲ待タサルコナリ、

〔第七〇一號〕以上三種ノ人ヲ除クノ外ハ、其罪過アリ、責任
アルニ於テハ、皆被告トシテ、罰スルコヲ得ヘシ、然レモ被告
事件アリ、被告人アリト雖モ、被害人ナキニ於テハ、其罪ヲ問
フヘカラサルナリ、然レモ已ニ被告事件アリ、被告人アルニ
於テハ、必ス被害人ナキコヲ得ス、若シ被害人ナキニ於テハ、
是レ所謂ル社會ノ公害ナキモノナレハ、假令ヒ其事件ハ、道
德ヲ犯スト甚シキモノナルモ、決シテ罰スヘカラサルナリ、故
ニ被告事件、被告人ノ事ヲ論セサルコヲ得サルナリ、

〔第七〇二號〕凡ソ權利ヲ有スルコヲ得ヘキ者ハ、皆被害人
タルコヲ得ヘキナリ、故ニ人民各自ハ、被害人ト爲ルコヲ得

ヘク、又官院省府縣町村合會々社等ノ如ク、法律ニ於テ、認テ人ト爲ス者モ、亦被害人タルコトヲ得ヘシ、是レ皆其權利ヲ害セラルヽコアルヲ以テナリ、又直チニ邦國社會モ、被害人タルコトヲ得ヘキナリ、加之直接ニ害ヲ被リシ者ノ、如何ニ拘テス、刑法ノ眞理ヨリ論スレハ、被害人タル者ハ、常ニ社會ナリ、若シ社會カ被害人タラサルニ於テハ、社會ハ刑罰ノ權ヲモ、有スルコトナカルヘシ、今社會カ此刑罰ノ權ヲ有スルハ、社會ノ公益ヲ害セラルヽカ故ナリ、神祠佛堂等ニ對スル不敬ノ罪、(二六三條)死屍ヲ毀棄スル罪、(二六四條)自殺ニ關スル罪、(二一〇條)等ノ如キハ、皆社會カ其被害人タリ、此種ノ罪ハ、道德ニ悖リ、又社會ニ害アルヲ以テ、之ヲ罰スルナリ、若シ社會ニ害ナキニ於テハ、假令ヒ道德ニ悖ルコ

甚シキモ、社會ノ法律ヲ以テ罰スヘキニアラサルナリ、〔第七〇三號〕以上論セシ所ノ、被告人ト被害人トノ關係ヨリシテ、罪ノ有無輕重ノ差ヲ生スルコアリ、尊卑屬親、夫婦、幼年老疾、官職等ノ如キ、是レナリ、身體ニ對スル罪ニ就テ、被害人、尊屬親タリ、被告人卑屬親タルトキハ、其罪重ク、財產ニ對スル罪ニ就テハ、其罪ナシ、夫婦タル身分ハ、姦罪ヲ構成スルノ元素ト爲リ、又姦夫姦婦ヲ殺傷スルノ場合ニ於テハ、減等ノ情狀ト爲ル、幼年老疾ノ如キモ、還棄ノ罪ニ就テハ、構成ノ元素ト爲リ、官職ハ多クハ、加等ノ情狀ト爲ル等、被告人被害人ノ身分ハ、大ニ罪本ニ關係アリ、然レトモ是レ一般ノ罪ニ係ルモノニアラサレハ、玆ニ之ヲ贅セス、尙ホ各本條ニ於テ、之ヲ論セン、

原被兩造

〔第七〇四號〕以上ハ、主トシテ不論罪ノ事ヲ述ヘ、併セテ宥恕ノ一原由タル幼年ノ事ヲ論セシナリ、蓋シ宥恕ニ二種アリ、一ハ法律上ノ宥恕ナリ、法律ノ宥恕ニ係ルトキハ、其原由アルニ於テハ、裁判官ハ必ス宥恕シ、減輕セサルヲヲ得ス、被告人ハ、宥恕減輕セラレンコヲ請求スルノ權アリ、故ニ其原由アルニ、裁判官、宥恕減輕セサルニ於テハ、被告人ハ勿論、檢察官モ、亦其裁判ノ法律ニ違フヲヲ述ヘ、以テ上訴シテ、宥恕減輕ヲ要求スルヲヲ得、事實上ノ宥恕ハ、之ニ異ナリ、之ヲ與フルト、與ヘサルトハ、一ニ裁判官ノ意見ニアルヲナレハ、他ヨリ要求スルヲヲ得サルナリ、法律上ノ宥恕ニ、二アリ、一ハ幼者減輕、一ハ自首減輕ナリ、而メ事實上ノ宥恕ハ、唯酌量減輕アルノミ、

〔第七〇五號〕幼者ナルヲヲ以テ、宥恕スルコハ、已ニ之ヲ論シタリ、（第六二一號以下）即チ總テ幼者ハ、辨別アリト雖モ、尚ホ未タ全カラサルヲヲ以テ、重罪輕罪ニ就テハ、十二歳以上十六歳未滿ノ者ハ、宥恕シテ二等ヲ減シ、十六歳以上二十歳未滿ノ者ハ、一等ヲ減ス、又違警罪ニ就テハ、十二歳以上十六歳未滿ノ者ニ限リ、宥恕シテ一等ヲ減ス、（八〇條、八三條）今ヨリ第二ノ原由ナル、法律上ノ減輕、即チ自首減輕ノ事ヲ論セン、頑行ノ刑法ニハ、第四章第二節ニ自首減輕ノ規則ヲ掲ケラレシカニ、最初草按ニハ、第四章第一節ノ減輕中ニ、自首減輕ノ規則ヲ併記セラレニキ、（草按九六條以下）今分テ第二節ニ之ヲ記載セラレシハ、何ノ故ナルヤ、未タ之ヲ詳ニセスト雖モ、

其法律上ノ宥恕タルニ至テハ、決シテ幼者ト異ナルコトナカルヘキナリ、

〔第七〇六號〕自首ハ、佛語ニ之ヲれうえら玄よんトイフ、然レトれうえら玄よんい、今ノ所謂ル告發ト同一ノ事ニシテ、而メ自首トハ、自ラ異ナリ、古昔羅馬ニテ、チベル帝ノ時ニハ、帝室ニ對スル陰謀ヲ告發(れうえれ)セサル者ハ、則チ至尊ヲ害スルノ罪アリトシテ、死刑ニ處セラレキ、又佛國ニテモ、リシリユー路易十三世ノ宰相タリシ時ニ、メツーナル者、其友人サンマルスノ陰謀ヲ以テ、之ヲ死刑ニ處シヽコトアリキ、又近世迄モ、國安ヲ害スル陰謀ヲ告發セサル者ハ、嚴刑ニ處セラレキ、(佛刑一〇三條以下)然レニ千八百三十二年以後ハ、此條規ハ之ヲ廢止セリ、是等皆他人ノ罪ヲ告發スルコトヲ、而メ之ヲ告發スルトハ、是レ即チ人民ノ一義務ナリキ、人民此義務ヲ盡サヽルヘカラサルナリ、(八五條)

〔第七〇七號〕自首減輕ハ、蓋シ支那律ニ因原シ、而メ我國ニ入リシモノナルヘシ、支那ニ於テハ、始メテ唐律ニ、犯罪自首ノ例ヲ設ケテヨリ以後、明清律ニ至ル迄、稍ヤ變更アリト雖モ、大同小異ニシテ、皆之ヲ明記セサルハナシ、而メ其始ハ、遠ク尚書ニ出ツ、康誥曰、既道極厥辜、時乃不可殺、丘濬曰、此後世律文、自首者免罪之條、所自出也ト、我國ニ於テハ、大寶律ハ、殘缺シテ、今之ヲ詳悉スルコトヲ得スト雖モ、素ト唐律ニ倣ヒタルモノニシテ、而メ名例律中ニ其語見エ、又令ニモ、其事アル

チ以テ、之チ視レハ、當時已ニ自首ノ例アリシコト明ナリ、明治維新ニ至ルニ及テ、新律綱領、改定律例、亦皆犯罪自首ノ例チ掲ケ、而メ現行ノ刑法ニモ、亦之チ載セラレタリ、蓋シ此例ハ、支那律ニ原由シ、舊慣チ襲用セシモノナリ、故ニ今自首滅輕ノ律意チ論究センニハ、和漢古今ノ法律チ探討セサルヘカラサルナリ、

〔第七〇八號〕 唐律ニ曰ク、諸犯罪未發、而自首者、原其罪ト、疏議ニ曰ク、過而不改、斯成過矣、今能改過來首其罪、皆合得原、若有文牒言告官司、判令三審、牒雖未入曹局、即是其事已彰、雖欲自新不得成首ト、又改定律例第六十九條ニハ、眞ニ罪チ悔ルノ心ナク云々、又悔懼ノ心尤モ薄シ等ノ語アリ、是ニ由リ、之チ觀ルトキハ、古今自首滅免ノ律チ設ケタルノ意ハ、犯人チシテ、眞心悔悟、過チ改メ自ラ新タニセシムルニ在ルコト明ナリ、

刑法ハ、固トヨリ悪チ懲シ、善ニ勸ムルコチ以テ、其本意ト爲スモノナレハ、改過自新ノ主意ハ、眞ニ刑法ノ原則ニ適シテ、問然スル所ナキナリ、然リト雖モ、律ニ自首滅等ノ例チ掲載シテ、天下ニ之チ明示スルニ至テハ、大ニ議スヘキモノアリ、何トナレハ、律ニ明示シテ、之チ以テ例ト爲ストキハ、徒ニ改新セシムルノ主意チ、達スル能ハサルノミナラス、却テ大ニ弊害チ生スヘシ、而メ又實地現ニ此弊害アレハナリ、且ツ若シ果シテ眞心悔悟ノ情アリトスルトキハ、他ニ方法アリ、以テ其罪チ酌量シ、其刑チ減等スルコチ得レハナリ、故ニ古來襲用スル所ノ自首免罪ノ例ハ、實ニ無用ノモノナリ、且ツ當ニ無用ナルノミナラス、實ニ有害甚シキモノナリ、西洋各國ノ律

ニ、自首免罪ノ例ナキハ、蓋シ此ニ見ルアルカ故ナリ、

〔第七〇九號〕已ニ律ニ明示シテ、以テ例ト爲ストキハ、即チ是レ所謂ル法律上ノ免罪ニシテ、假令改過自新ノ實ナキモノト認定スルモ、必ス其罪ヲ免セサルヲ得ス、而メ犯人ニ於テハ、免罪ヲ要求スルノ權ヲ有スヘシ、已ニ此權ヲ有スルカ故ニ、若シ其罪ヲ免セラレサルニ於テハ、犯人ハ上訴ヲ爲シ、以テ之ヲ要求スルニ至ルヘシ、其勢已ニ如此クナルトキハ、犯人ハ改過自新ノ爲メニアラスシテ、偏ニ法律上ノ免罪ヲ得ンカ爲メニ、自首スルニ至ルヘシ、加之其甚シキニ至リテハ、豫メ免罪アルコトヲ知テ、而メ故ラニ罪ヲ犯スモノアルニ至ルヘシ、然レハ僅カニ自首免罪ノ例ヲ設ケタルカ爲メニ、終ニハ他ヲ害シ罪ヲ犯シ、唯私利ヲ是レ圖リテ、忌憚スル所ナク、八々相率ヒテ、罪惡ヲ犯スニ至ルヘシ、路ニ當リ局ニ立チテ、法ヲ設ケ法ヲ布ク者ノ用意、最モ精密ナラサルヘカラサルナリ、

〔第七一〇號〕今ノ律文ニ於テハ、全ク其罪ヲ免スルコトナシト雖モ、尙ホ未タ其弊ナキコトヲ保セス、今一例ヲ揭ケテ、其弊ヲ示サン、自首シテ贓物ヲ還給シ、損害ヲ賠償スル時ハ、自首減等ノ外、仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス、（八六條）故ニ犯人ハ、贓物ヲ使用シテ、得ル所ノ利ト、罪ヲ犯シテ、受クル所ノ刑トヲ比較シ、其利多クシテ、其刑輕キトキハ、輒チ故ラニ罪ヲ犯シ、他ヲ害シ、以テ己レノ利益ヲ、是レ圖ラントス、如此キハ、其情最モ惡ムヘク、其害殊ニ甚シ、法律ノ嚴罰シテ、決シテ寬假スヘカラサルヘキ所ナリ、然レ𪜈自首シテ贓物ヲ還給シ、損害ヲ賠償

スルトキハ、法律上ノ宥恕アリ、必ス本刑ニ三等ヲ減セサルヲ得ス、自首滅輕ノ弊ヤ、夫レ如此シ、故ニ改過自新ノ主意ヲ達スル能ハサルノミナラス、却テ人ヲシテ罪ヲ犯サシムルニ至ルヘシ、況ンヤ昔日ノ如ク全免スルトキニ於テヲヤ、

〔第七一一號〕今ノ律ヲ解スル者曰ク、自首滅輕ハ、改過自新ノ爲メニアラサルナリ、社會ヲシテ、犯罪捜査ノ勞ヲ免カレシムル所アルヲ以テナリ、是レ唯現行刑法ノ主意タルノミナラス、古來律法ノ主意モ亦然リ、疏議ノ說ノ如キハ、律法ノ眞意ヲ得サルモノナリ、若シ果シテ改過自新ノ意ニ出テハ、何ソ事ノ未發ト既發トヲ論セン、何ソノ時ナリトモ、過ヲ改メ、來リテ其罪ヲ首セハ、輒チ宥恕スヘシ、來リテ其罪ヲ首スルハ、是レ即チ改過自新ノ證ナリ、然ルニ唯未發ノ時ノミ

ニ限リテ、自首ヲ許スルヲ以テ觀ルトキハ、改過自新ノ爲メニアラスシテ、專ラ社會ヲシテ、犯罪捜査ノ勞ヲ免カレシムル所アルカ爲メナルコト明ナリ、故ニ自首滅輕ヲ與フルハ、殆ント功罪相償フカ如キノ情アルヲ以テナリト、

〔第七一二號〕古昔律法ノ主旨ハ、姑ク置テ論セス、現行刑法ニ自首滅輕ヲ、設ケタルノ主意ハ、此說實ニ其當ヲ得タルモノナリ、犯人自首スルトキハ、罪人刑ヲ免レ、無辜冤ニ陷ルノ懼ナク、又共犯人ヲ知ルノ利アルヘシ、然リト雖モ、余ヲ以テ、之ヲ考フルニ、假令ヒ此說ノ如ク、犯罪捜査ノ勞ヲ免カレシムル所アリトスルモ、尙ホ自首滅輕ハ、法律ニ明記スヘキモノニアラサルナリ、何トナレハ、法律ニ明記シ、以テ定例ト爲スヘキハ、事實ノ如何ニ拘ハラス、必ス宥恕セサルヘカラサルニ

至レハナリ、已ニ事實ヲ論セス、自首スル者ニハ、即チ宥恕ヲ與フヘシトスルトキハ、亦必ス上文論セシ所ノ弊害ヲ生スヘシ、然レハ此例ヲ、設クルノ意ハ、異ナリト雖モ、其弊ヲ生スルニ至テハ一ナリ、故ニ自首ヲ以テ、法律上ノ宥恕ト爲サスシテ、而メ事實ニ從ヒ、或ハ改過自新ノ効アリ、或ハ犯罪捜査ノ勞ヲ免カレシムルノ實アラハ、其罪ヲ酌量シ、其刑ヲ減輕スヘシ、然レハ弊ノ生スヘキナクシテ、刑亦酷ニ失スルコトナカルヘキナリ、故ニ自首減輕ノ例ハ、寧ロ是レナキノ優ルニ如カサルナリ、

〔第七一三號〕然リト雖モ、法律ニ是レアルニ於テハ、其意ヲ得テ、之レカ適用ヲ爲シ、彼是矛楯、甲乙權衡ヲ異ニスルカ如キコト、アラシムヘカラサルナリ、依テ是レヨリ、律文ノ細目ニ就キ、研究センカ爲メ、先ツ舊律ト比照セン、

第八十五條　罪ヲ犯シ、事未タ發覺セサル前ニ於テ、官ニ自首シタル者ハ、本刑ニ一等ヲ減ス、但謀殺ニ係ル者ハ、自首減輕ノ限ニ在ラス、

先ツ此律文ニ就キ、論究スヘキ事件、左ノ如シ、第一、事未タ發覺セストハ如何、第二、官トハ如何ナル官ヲ指スヤ、第三、自首ノ方法如何、第四、謀殺故殺ニ自首減輕ヲ許ルサヽルハ、何ノ理由ニ基クヤ、第五、謀殺故殺ト他罪トヲ、併セテ自首スルトキハ如何、是レ直チニ此律文ヨリ生スル所ノ、論題ナリ、而メ又舊律ニ比照セハ、更ニ他ノ論題ヲ生スヘシ、是レ亦現行刑法ノ意ヲ解スルカ爲メ、論究セサルヘカラサルモノナリ、故ニ又茲ニ舊律ノ要領ヲ揭ケン、

新律綱領　凡罪ヲ犯シ、事未タ發覺セスシテ、自ラ出首スル者ハ、其罪ヲ免ス、

其本犯、人ヲ遣シテ、代首セシメ、若クハ相容隱スルコトヲ得ル者、爲メニ代首シ、及ヒ告言スルハ、云々罪ヲ免ス、

又自首シテ、不實不盡ノ罪ヲ以テ、之ヲ罪ス、

改定律例　凡罪ヲ犯シ、人ノ官ニ陳告セントスルコトヲ知テ、自首スル者ハ、本罪ニ二等ヲ減ス、官ノ捕獲セントスルコトヲ聞テ、自首スル者ハ、本罪ニ一等ヲ減ス、

事已ニ告發ヲ經ルト雖モ、本犯未タ知ラス、及ヒ官罪犯ノ名ヲ知ラスシテ、自首スル者ハ、仍ホ未發自首ト同ク、並ニ罪ヲ免ス、

凡首免ヲ與フルノ事ニ因リ、首免ヲ與ヘサル罪ヲ犯シ、自首スル者ハ、因ル所ノ原罪ヲ免シ、止タ首免ヲ與ヘサルノ本罪ヲ科ス、

凡罪ヲ首シ、減免ヲ經ルノ後、再ヒ同罪ヲ犯ス者ハ、減免スルコトヲ聽サス、

〔第七一四號〕　舊律ヨリ亦生スル論題、左ノ如シ、第一、本犯自ラ出首スルヲ本法トスト雖モ、人ヲ遣シテ代首セシメタルトキハ、新法ニ於テモ、亦之ヲ自首ト同視スヘキヤ、第二、自首シテ不實不盡ナルトキハ如何、第三、人ノ官ニ陳告セントスルコトヲ聞テ、自首スルトキハ如何、第四、事已ニ告發ヲ經ルト雖モ、本犯未タ知ラス、官亦犯罪ノ名ヲ知ラスシテ、自首スルトキハ如何、第五、自首減等ヲ受ク

ルノ後、再ヒ同罪ヲ犯スト雖モ、已ニ盜罪ノ告訴告發アリテ、其事件ノ發覺スルトキハ、自首滅等ヲ許スコトナカルヘシ、事未タ發覺セサルノ語ハ、舊律ヨリ出テシモノナリ、舊律ニ曰ク、凡罪ヲ犯シ、事未タ發覺セスシテ、自ラ出首スル云々、又曰ク、自首シテ不盡ナル者云々、又改定律例ニ曰ク、官ノ捕獲セントス欲スルヲ聞テ、自首スル者云々、又曰ク、事已ニ告發ヲ經ルト雖モ、本犯未タ知ラス、及ヒ官、罪犯ノ名ヲ知ラスシテ、自首スル者云々ト、是等ノ語ニ參照セハ、事未タ發覺セストハ、即チ犯罪事件ノ發覺セサルノ謂ニシテ、犯人ノ發覺セサルノ謂ニアラサルコト知ルヘキナリ、不盡不實ナルトキハ、犯人ハ、已ニ發覺スレトモ、其事ハ未タ發覺セサルナリ、又事已ニ告發ヲ經ルトイヒ、官罪犯ノ名ヲ知ラストイフカ如キ語ニ由テ、之ヲ觀レ

法ニ比照シテ、考究スヘキ論題ナリ、是レヨリ先後各五個ノ論題ニ就キ、比照參考シテ之ヲ論セン、

〔第七一五號〕第一、事未タ發覺セストハ、如何、甲說ニ曰ク、事未タ發覺セストハ、犯人ノ未タ發覺セスシテ、官其誰タルコトヲ知ラサルヲイフナリ、例ヘハ、盜罪アランニ、其盜罪ニ就テハ、已ニ告訴告發等アリテ、官已ニ其事ヲ知ルト雖モ、其犯人ノ誰タルコトノ知レサル前ニ於テ、犯人自ラ出首スルトキハ、則チ其自首ヲ許シテ、滅等スヘキナリ、是レ司法省內訓ノ主意ニシテ、實地處分スル所、亦如此シト、（內訓ハ後ニ揭ケタリ）乙說ニ曰ク、然ラス、事未タ發覺セストハ、盜罪ニ就テハ、即チ其盜罪事件ノ發覺セサルコトヲイフナリ、故ニ犯人ノ誰タルコ

ハ、分明ニ、事未タ發覺セサルハ、犯罪ノ發覺セサルノ謂ナルコト知ルヘキナリ、又文字ニ就テ考フルモ、事未タ發覺セストイヒテハ、人未タ發覺セサルノ意ニハ、解スヘカラサルナリ、

〔第七一六號〕　余思フニ、法律ノ本意ハ、當ニ甲説ノ如クナルヘシ、即チ事未タ發覺セストハ、犯人ノ未タ發覺セサルヲイフナリ、佛文原稿第九十六條ニハ、犯人ニ對シテ、如何ナル徴憑又ハ告言モ、生セサル前ニトアリ、即チ犯人ニ對シテ、犯罪ノ證憑ノ生セサル前ニ、自首スヘキヲイフナリ、草案並ニ法文ニハ、之ヲ譯シテ、事未タ發覺セサル前ト、セラレシナリ、故ニ左ノ如ク、解スヘキナリ、曰ク、犯罪事件ハ、何人ノ所爲ニ係ルヤ、其未タ發覺セサル前ニ於テ、官ニ自首シタル者ハ、本刑ニ一等ヲ減スト、舊律ノ時ニハ、事未タ發覺セストハ、全ク

共事ノ未タ發覺セサリシヲヲ、イヒシモノナレヒ、今ハ眞ニ事ノ發覺セサルヒニテモ、已ニ自首シテ、不實不盡ナルヒニテモ、又事已ニ發覺シテ、官、罪犯ノ名ヲ知ラサルヒニテモ、皆事未タ發覺セサルノ語中ニ、之ヲ包括スルナリ、其事アリト雖モ、其人ナキニ於テハ、其罪ヲ問フヘカラサレハ、發覺ストイヘハ、事ト人ト竝ニ發覺スルヲヽ、又發覺セストイヘハ、事ト人ト共ニ發覺セサルヲナルヘキナリ、事ハ即チ罪ナリ、而メ問フヘキノ罪ニハ、必ス其被告人ナカルヘカラス、故ニ事未タ發覺セストハ、猶ホ問フヘキノ罪、未タ發覺セストイハンカ如シ、

〔第七一七號〕　或曰ク、已ニ自首滅輕ノ例ヲ設ケシヲヲ、不可ナリトスルニ於テハ、務メテ狹ク解釋セサルヘカラサルナ

リ、然ルニ、被告人ノ誰タルコノ知レサル前ニ、自首スルヒハ、則チ滅輕ストイハヽ、是レ所謂ル自家撞着ノ論ニシテ、前後矛盾スルコナキヲ得ンヤ、如何ト、余曰ク、然ラサルヘキナリ、余ノ不可ナリトイヒシハ、自首滅輕ヲ以テ、法律上ノ寃怨トナスルニハアラス、法律ニ明記シテ、定例ト爲スヒハ、終ニ其弊害ノ生スヘキコヲ患フルノミ、然レヒモ已ニ定メテ自首滅輕ノ例ヲ設クルニ於テハ、其宜ヲ得テ、是レカ適用ヲ爲サヽルヘカラス、直チニ其事ノ惡ニシテ、而メ其方法モ亦惡ナルモノアリ、又其事ハ惡ナラスト雖モ、其方法ノ宜カラサルモノアリ、其事惡ナランニハ、其事ノ適用ヲ狹カラシムヘシト雖モ、其事ハ惡ナラスシテ、其方法ノミノ宜カラサルモノハ、此

宜カラサル方法ヲ釋解シテ、宜カラシムヘキノミ、其末ノ不善ナレハトテ、其本迄テモ、不善ナラシムヘキコカハ、古語曰、好而知其惡、惡而知其美者、天下鮮矣、

〔第七一八號〕被告人タルヘキ者ノ誰タルコヲ、知ラサル片ハ、已ニ起訴アリ、又豫審處分ヲ行フ片ト雖モ、其者、自首スルニ於テハ、仍ホ滅輕スヘキヤ、曰ク、假令ヒ其罪、發覺シテ豫審處分ニ着手シ、令狀ヲ發シ、證人ヲ訊問スル等ノ事アルモ、其被告人タル者、未タ知レサル片ニ於テ、自首スル片ハ、滅輕スヘキナリ、加之共犯人中ノ一人ハ、已ニ發覺シテ、豫審アリ、公判アリシ後ニ於テモ、他ノ共犯人ノ未タ發覺セサル者ハ、仍ホ自首シテ、滅等ヲ求ムルコヲ得ヘキナリ、何レノ場合ニ於テモ、自首者ニ對シテ、曾テ其事ノ發覺セシコナキニ於テハ、

滅等ヲ與ヘサルヘカラス、

〔第七一九號〕 又茲ニ注意スヘキモノアリ、犯人ノ發覺セサルトハ、一般ニハ其氏名ノ未タ知レサルヲイフナリ、告訴人告發人ハ、成ルヘク其證憑事實參考ト爲ルヘキヲ申立ルカ故ニ、犯人ノ容貌體格等ヲ申立ルヲアルヘシト雖モ、之ニ拘ハラス、未タ其氏名ノ知レサル限リハ、概シテ未發覺ト爲シテ、自首減輕ヲ與フヘキナリ、然レ𪜈細ニ其極ヲ論スレハ、必シモ氏名ニ拘ハルヘキニアラス、未タ其氏名ヲ知ラスト雖モ、分明ニ其人ヲ認ムルヲアリ、例ヘハ現行犯罪ノ場合ニ於テ、警察官、檢察官等ニ於テ、現ニ其犯人ヲ認メ得テ、未タ其氏名ヲ知ラサルヲノ如キ、是レナリ、或ハ氏ノ知レテ、名ノ知レス、或ハ名ノ知レテ、氏ノ知レス、或ハ眞氏名ノ知レスシテ、綽名ノ知レシ等、種々ノ知レシヲハ、即チ其誰タルヲ與ヘサルナリ、名ハ固トヨリ實ノ實タレハ、其實タリ主タルモノ、發覺スルニ於テハ、其虛タリ客タルモノ、發覺スルトセサルトハ、論セスシテ可ナリ、故ニ司法省內訓ニハ廣ク犯人ノ誰タルトアリ、蓋シ氏名ノ發覺セルハ、即チ其人ノ誰タルヲ確認シタルノ一證ノミ、

〔第七二〇號〕 被告事件竝ニ被告人ノ氏名ハ、治罪法ニ循ヒ、發覺スルニアラサレハ、假令ヒ官ニ發覺スルモ、尙ホ未タ發覺セサルモノトス、故ニ盜難屆失火屆酒造檢查等ノ、行政規則ニ依ル所爲ト、告訴告發等ノ、治罪法ニ依ルモノトヲ、混スヘカラス、盜難屆酒造檢查ノ如キハ、行政規則ニ循ヒ、行政官

吏ノ扱フモノナレハ、之ヲ爲ス者モ、之ヲ受ケル者モ、共ニ治罪法ニ依ルニアラス、故ニ此官吏ヨリ、更ニ治罪法第九十五條ニ依リ、檢事ニ告發セサル限リハ、事未タ發覺セサルモノナリ、又失火ノ時ノ如キモ、行政警察官ハ、必ス先ツ其地ニ臨ミ、失火ノ原由、失火人ノ氏名等ヲ、取調フヘシ、然レ𪜈是レ亦行政上ノ處分ナレハ、治罪法ヨリ論スル𪜈ハ、事未タ發覺セサルモノナリ、故ニ失火人ハ、其出張官吏ニ己レノ氏名、失火ノ原由等ヲ陳述シテ後、更ニ其語ヲ改メ、司法警察官ニ向フテ、自首スル𪜈ハ、自首ノ效アルヘキナリ、

〔第七二一號〕民事裁判所ニテ、詞訟審理ノ際、犯罪事件ノ發覺シタル𪜈、又刑事裁判所ニテモ、甲ノ犯罪事件、吟味ノ際、乙ノ犯罪事件、發覺シタル𪜈ハ、亦事已ニ發覺シタルモノトシ、

以テ自首滅等ヲ與ヘサルヘキヤ、曰ク、民事ノ詞訟審理ノ際、發覺シタル𪜈ハ、未タ、事已ニ發覺セルモノナリト、スルヲヲ得サルヘシ、民事裁判官ヨリ、檢事ニ告發シ、發覺ト爲シ、自首滅輕ヲ與ヘサルヘシ、又刑事裁判所ニ於テ、發覺セシ𪜈ハ、區別シテ處分スヘシ、其事件、附帶犯罪ニシテ、刑事裁判所、又ハ豫審判事ニ於テ、直チニ其事件ヲ管理スヘキ𪜈、即チ告訴告發ナシト雖モ、其事件ヲ管理スヘキ𪜈ハ、已發覺ト爲シ、（治三八條、二六九條）然ラサル𪜈ハ、未發覺ト爲スヘシ、總テ治罪法第九十六條ニ循ヒ、官吏職務上ニ於テ、犯罪アルコヲ認知シ、思料シタルヲ以テ、其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ、告發スヘキ𪜈ハ、此告發ヲ爲サヽル限リハ、仍ホ未發覺ノモノトスヘキナリ、此場合ニ於テハ、官吏カ犯罪ヲ認知スル

モ、人民カ之ヲ認知スルモ、已發未發ノ二ニ就テハ、更ニ異ナル所ナシ、官吏カ告發スルノ義務ヲ負フハ、代理人カ委任者ノ爲メニ、利ヲ圖リ、便ヲ計ルノ義務ヲ、負フト一般ナリ、社會ノ人ハ、委任者ナリ、官吏ハ、其代理人ナリ、委任者タル社會ノ人、犯罪アルヿヲ認知スルモ、已發トスルニアラス、況ンヤ其代理人ニ於テヲヤ、但シ司法警察官、檢察官等、犯罪搜查ニ就キ、部理代理ノ委任ヲ受ケシ者ハ、此限ニ在ラス、又部理代理人モ、代理ヲ委任セラレタル要件、即チ法律ノ命シタル職權職務ニ循フテ、其代理ヲ行フ時ニアラサレハ、代理人ニ於テ、其事件ヲ認知セシモノトハイフヘカラス、何トナレハ、之ニ循フニアラサレハナリ、

〔第七二二號〕十五年十月四日司法卿ノ內訓ニ曰ク、刑法第八十五條中ノ發覺トハ、其犯人ノ官ニ發覺シタル場合ニ限ラス、被害者ニ於テ、犯人ノ誰タルヲ確認シタル上ハ、官ニ發覺シタルト同一ノモノトス云々、但本文ニ抵觸スル從前ノ指令內訓ハ、取消候事ト、此內訓ニハ、唯官ニ發覺スルトアルノミナレハ、所謂ル、官ニ發覺ストハ、如何ナルヿナルヤ、明ナラスト雖モ、蓋シ前文ニ論セシ所ト異ナルヿナカルヘキナリ、窮ニ按スルニ、被害者ニ於テ犯人ノ誰タルヲ確認シタル上ハ、官ニ發覺セシト同一ノモノトストハ、解シ難キヿナリ、因徒逃走、脅迫、毆打創傷、過失殺傷等ノ罪ニ就テハ、多クハ犯人ノ誰タルヿ分明ナリ、永タ被害者ノ告訴ナク、又他人ノ告發ナキニ、被害者ニ於テ犯人ノ誰タルヲ知ルニ於テハ、最早自首ヲ許サストスルハ、如何ナル律意、如何ナル理由ニ基

キタルコトナルヤ、更ニ之ヲ解スル能ハサルナリ、蓋シ此内訓ハ、犯人ノ誰タルヲ確認シテ、被害者ノ告訴セシカ如ク、公罪ニ就テハ其被害者ハ、意ナルヘシ、又嘗テ論セシ如ク、行政上ノ處分中ニ於テ、犯人ノ誰即チ社會ナレハ、行政官カ、タルコトヲ認知シタルトキハ勿論、凡ソ官吏職務上ニ於テ之ヲ認知シタルトキハ、皆事已ニ發覺セルモノナリト、セサルヘカラス、若シ果シテ如此クナランコトハ、又是レヨリ偏頗ニシテ、公平ナラサル弊ヲ生セントス、然レトモ已ニ確認ストイヘハ、必ス認知シタルノ證憑アルヘシ、而メ此證憑ハ即チ告訴告發ナルヘシ、若シ被害者ノ告訴ナク、官吏ノ告發ナキニ於テハ、確認トハイフヘカラサルヘシ、故ニ檢察官ニ於テ、告訴告發中ニ、被告人ノ誰タルコトヲ示シタルノ證ヲ擧ケサルニ於

テハ、未發覺ノモノトシテ、自首減等ヲ與フヘキナリ、

〔第七二三號〕又舊律ニ比照スルニ、人ノ官ニ陳告セントスルヲ知ルト雖モ、其未タ陳告セサル間ハ、新法ニ於テハ、是レ所謂ル告訴告發ナクシテ、事未タ官ニ發覺セサル時ナルカ故ニ、全ク自首ノ効アルハ、新法ニ於テハ、必ス令狀ヲ用フル時ナレハ、事ノ發覺シタルノミナラス、已ニ豫審處分ニ係リタルカ故ニ、假令ヒ自首スルモ、其効ナカルヘシ、但シ此場合ト雖モ、罪犯ノ誰タルヲ知レサルトキハ、格別ナリ、其他現行犯准現行犯ノ場合ニ於テ、官吏人民ノ捕獲セントスルトキモ、亦自首ノ効ナカルヘシ、何トナレハ事已ニ發覺シテ、社會ハ搜査ニ着手スレハナリ、又事已ニ告訴告發ヲ經ルトキハ、本犯未タ知ラスト雖モ、罪犯